

日本医療大学年報

第 4 号

2018年



日本医療大学

目 次

1. 使命・目的等	1
2. 学生	8
3. 教育課程	47
4. 教員・職員	56
5. 経営・管理と財務	61
6. 内部質保証	65
7. 大学が独自に設定した基準による自己評価	69
7-1. 認知症研究所	69
7-2. 学生ボランティア	71
7-3. 教員の自己点検・評価	73
8. 社会貢献	83
9. 委員会等活動報告	86
10. 教員の自己点検・評価	113
10-1. 教員の教育・研究・社会活動	113
10-2. 教員の学術業績	143
編集後記	157

1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

寄附行為第3条に法人の目的を「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする。」と規定している。さらに、学則第1条（目的）に本学の目的を「日本医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした医療人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上に貢献することを目的とする。」と規定している。

学則第6条第2項には、学部及び学科の教育上の目的として「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で、地域医療に貢献する医療人を育成する。」と規定、使命・目的は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）に反映するとともに、建学の精神、基本理念、教育理念を学生及び教職員に分かり易く理解できるように次のとおり具体的に説明している。

○建学の精神

「共生社会の実現～病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、その尊厳を重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す～」。

○基本理念

「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」を基本理念とし、医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、学生が、高度な専門知識と技術の修得にとどまらず、医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、高齢の方や障がいを持った方々と日々ふれあいながら学修することで、人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長していく人材を養成する。

○教育理念

- 1 「職業人になる自覚をもとう」実践的教育を通して職業人としての自覚や誇りを育む。
- 2 「自律した人間になろう」己に厳しく、自ら考え、自ら行動する。
- 3 「確かな専門知識・技術を修得しよう」社会や時代の要請に応え、専門的な知識と技術を体系的に修得する。
- 4 「社会に貢献できる専門職になろう」医療・福祉に携わる人として、社会からの信頼を得る。
- 5 「問題解決能力を身に付けよう」自ら課題を発見し、活動し、振り返ることによって問題を解決する。

三つのポリシー

○看護学科

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 4 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

看護学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を实践する意欲ある人材を求める。

- 1 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
- 2 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 3 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
- 4 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

○リハビリテーション学科

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4-1 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力（理学療法学専攻）
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力（作業療法学専攻）
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4-1 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専攻）
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（作業療法学専攻）
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲のある人材を求める。

- 1 理学療法士・作業療法士を志している人
- 2 理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者を思いやる心がある人
- 5 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
- 6 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人
- 7-1 人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人（理学療法学専攻）
- 7-2 人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人（作業療法学専攻）

○診療放射線学科

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 診療放射線技師を志している人
- 2 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

1-1-② 簡潔な文章化

使命・目的及び教育目的は、次のとおり簡潔に文章化している。

『医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」という基本理念のもと、この理念を実現するために5つの教育理念「職業人になる自覚をもとう」、「自律した人間になろう」、「確かな専門知識・技術を修得しよう」、「社会に貢献できる専門職になろう」、「問題解決能力を身につけよう」を掲げ、病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、尊厳を重んぜられ暮らせる社会の実現を目指し、社会に必要とされる医療・福祉の人材を養成します』。

1-1-③ 個性・特色の明示

本学の歩みは、昭和59（1984）年に札幌市豊平区月寒に開設した「特別養護老人ホーム幸栄の里」に始まり、デンマークから学んだノーマライゼーションを日本で実践するために、入所の方々だけでなく在宅の方々へのサービスも初めて事業化し、展開する中で、医療と福祉の高度な人材育成の必要性を痛感し、平成元（1989）年に「日本福祉学院」を開校し、これが本学の前身となった。本法人は、社会福祉法人ノテ福祉会を中心とする9法人とともに「つしま医療福祉グループ」を形成し、各種医療・福祉施設と大学施設が複合したコミュニティ「アンデルセン福祉村」をキャンパスの本拠地としている。

このような歴史を背景にして生まれた精神と理念は、全ての人々が安心して暮らすことができる「共生社会の実現」をめざし、「医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学」をキャッチフレーズとして、その使命・目的及び教育目的・目標に反映している。

1-1-④ 変化への対応

大学教育改革の中の柱として『三つのポリシーに基づく大学教育改革の実現』において、「三つのポリシーを一貫性及び整合性あるものとして一体的に策定することにより、選抜・教育・卒業の各段階における目標を具体化し、大学教育の質的転換を図ること。」として、平成29（2017）年から三つのポリシーを策定・公開することが義務付けられた。

本学では、三つのポリシーを見直すにあたり、まず始めに大学の理念や社会の要請等を踏まえた

ディプロマ・ポリシーを策定するため、平成28(2016)年9月に大学開設時に制定した「建学の精神」、
「基本理念」及び「教育理念」を一貫性あるものに見直した。さらに上記の見直し及び「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(中央教育審議会大学分科会大学教育部会 平成28(2016)年3月31日)を踏まえて、平成30(2018)年11月、3学科(2専攻を含む)ごとに三つのポリシーを見直した。

また、令和7(2025)年にはいわゆる「団塊の世代」がすべて75歳以上となり、我が国ではより一層の超高齢社会が進行していくことから、このような社会情勢のもと「医療介護総合確保推進法」が施行されて、それに続く「地域包括ケアシステムの整備」が求められている。本学では多様化する社会の要請に応えることのできる医療専門職を育成するため、平成31(2019)年度に教育課程・学部収容定員などの学則改正を行った。今後は学内の全ての規程等について見直しを行うこととしている。

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

1-2-② 学内外への周知

使命・目的及び教育目的は、ホームページ、CAMPUS HAND BOOK(教職員、学生に配布)、大学案内等に明記しているとともに、校舎内の主要な場所に掲示して周知を図っている。

その他、入学式、学位記授与式、入学生ガイダンス、オリエンテーション時に説明する他、オープンキャンパスにおいて説明の機会を設けている。

1-2-③ 中長期的な計画への反映

建学の精神の見直しとその実現のため、平成28(2016)年7月から本法人の中長期経営計画プロジェクトにおいて審議し、中長期経営計画に建学の精神、基本理念、教育理念が反映されるよう見直した。

1-2-④ 三つのポリシーへの反映

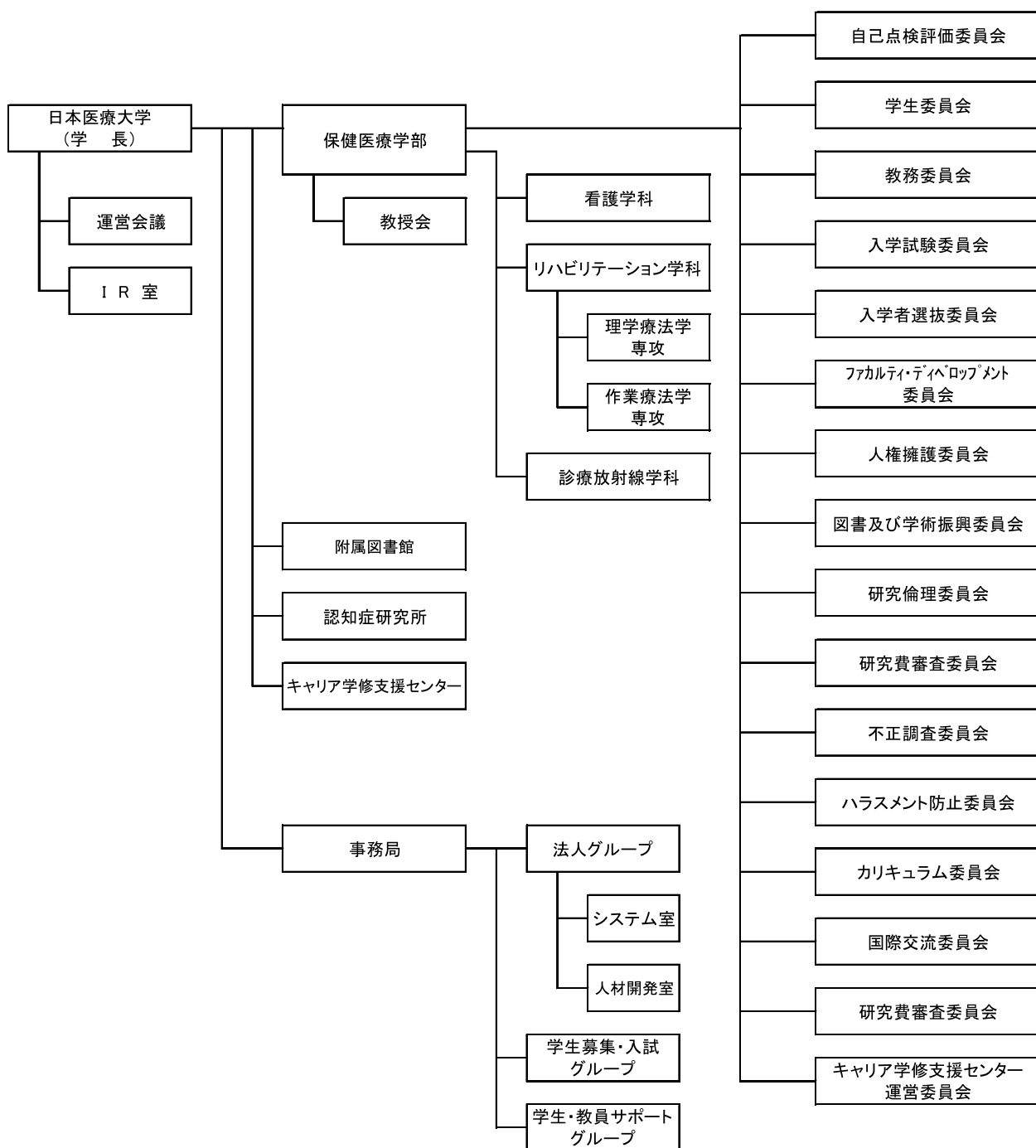
三つのポリシーが、本学の建学の精神、基本理念、教育理念を反映した内容となるよう学科会議を経て運営会議で審議し、教授会に意見を求め、見直しを実施した。

1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学は保健医療学部のみからなる単科大学である。保健医療学部は、看護学科、リハビリテーション学科(理学療法専攻・作業療法専攻)及び診療放射線学科の3学科から構成される。また、附属施設として、図書館、認知症研究所、キャリア学修支援センターを設けている。

保健医療学部には、必要な教員を配置し、学部運営のため各種委員会を設置しており(図1-2-1)、使命・目的及び各学科の教育目的の実現のため、それぞれの委員会の審議内容を教授会及び学科会議で共有するなど連携を図っている。

図1-2-1 日本医療大学組織図



2. 学生

2-1. 学生の受け入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

本学は、開学時の平成26（2014）年度から平成29（2017）年度まで、「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していける学生を求めている。養成する人材が卒業後に札幌地域のみには貢献するのではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ社会に貢献していくことができる人材を求めている。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できる逞しい人材を募集する」をアドミッション・ポリシーとして看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科それぞれの求める人材像を示した。平成30（2018）年度に、各学科の意見を集約し、運営会議で審議後、教授会に意見を求めて見直しを行い、令和元（2019）年度から新アドミッション・ポリシーとして、学科ごとの求める人材像を示している。

アドミッション・ポリシーについては、ホームページや大学案内、学生募集要項、それぞれの学科のSYLLABUSに掲載し、高校生、保護者、高校教諭、在学生等に幅広く周知を図っている。また、大学案内、学生募集要項はホームページ上にデジタルパンフレットとして公開している。

2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証

本学の入学者受け入れ方針の周知については、本学が開催するオープンキャンパス、一日体験入学、高大接続を意識した高校単位の体験入学、高校訪問、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、多くの時間をかけて実施している。特に高校訪問については、教職員が一体となり、北海道内287校のうち約240校の高等学校を訪問し、オープンキャンパスや一日体験入学を案内するとともに、高校生の進路動向の情報収集を実施している。高校訪問は1期（6月から9月）、2期（11月から12月）、3期（2月）と定期的に行い、1期は「在校生の学生生活状況の報告」と「オープンキャンパス参加誘導」、2期は「推薦入試出願の誘導」、3期は「一般入試とセンター試験利用入試の出願誘導」と位置づけている。

本学の入学者受け入れの基本方針については、入学試験委員会で審議決定する旨規定されている。

本学で実施する入学試験は、平成26（2014）・27（2015）年度入試においては、一般入試（前期・後期）と一般推薦入試の2つの入試区分であったが、平成29（2017）年度からAO入試（リハビリテーション学科のみ）、平成30（2018）年度入試から大学入試センター試験利用入試（全学科）を導入した。令和元（2019）年度入試からは指定校推薦入試を導入し、全学科において、一般入試（前期・後期）、一般推薦入試（前期・後期）、AO入試（前期）、大学入試センター試験利用入試（前期・中期・後期）、指定校推薦入試の5つの区分で実施している。大学入試センター試験利用入試を除く、本学独自で実施する4区分の入学試験において、将来、医療従事者として社会に貢献するという目的意識や本学アドミッション・ポリシーの理解、基本的なコミュニケーション能力をみる目的で、個人面接を必須としている。個人面接においては、面接委員間で受験生に対する対応や質問内容に大きな差異

が生じないように「面接マニュアル」を作成し、面接の手順、評価の基準、評価項目ごとの質問例を記載し、面接委員に周知している。

入試問題に関しては、入学試験実施規程第7条（入学試験問題の作成の原則）に基づき、1科目複数人で問題を作成している。また、問題作成に関しては、入試問題作成ミスを防止するために、第三者点検を2回に分けて実施している。

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持

入学定員は、平成30（2018）年度まで、看護学科80人、リハビリテーション学科80人（理学療法学専攻40人、作業療法学専攻40人）、診療放射線学科50人であった。各学科設置初年度及び平成30（2018）年度の入学定員充足率について、看護学科では106%及び113%、リハビリテーション学科全体では66%及び85%（理学療法学専攻95%及び108%、作業療法学専攻38%及び63%）、診療放射線学科では104%及び116%であった。リハビリテーション学科作業療法学専攻において充足率が低くなっているが、看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻、診療放射線学科においては80%以上であり、またいずれも120%を超過することなく適切な充足率を維持している。

「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法規の整備等の法律」（平成26（2014）年6月18日成立、平成26（2014）年6月25日公布）は、地域における質の高い医療を確保し、基盤整理を行うことを目標としていることから、これを受けて令和元（2019）年度、看護学科の入学定員を80人から100人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を40人から80人に増員した。同年の入学定員充足率は看護学科が114%、リハビリテーション学科が61%（理学療法学専攻68%、作業療法学専攻48%）、診療放射線学科が126%であった。看護学科、診療放射線学科においては、十分な充足率を維持することができている。一方、リハビリテーション学科においては理学療法学専攻と作業療法学専攻ともに充足率80%を下回る結果となった。

リハビリテーション学科作業療法学専攻の入学定員充足率を伸ばすため、「作業療法士の魅力」と題したパンフレットを作成し、オープンキャンパスや高校訪問、進学相談会において配布している。ホームページ上にて「作業療法士の魅力」というページを設け発信しているほか、オープンキャンパスや一日体験入学において作業療法士の活動見学を実施し、職種の魅力を発信することにも努めている。また、入試においては、すべての入試区分で理学療法学専攻と作業療法学専攻の併願を認め、一般入試と大学センター試験利用入試でも3学科2専攻すべての併願を認めることとし、出願者数を増やす対策をとっている。

リハビリテーション学科の出願者数を増やすため、出願者数減少の原因を分析し、さらなる対策を講じていく。

2-2. 学修支援

2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

本学において学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」、「学生委員会」、「入学者選抜委員会」、「FD委員会」、「図書及び学術振興委員会」、「キャリア学修支援センター運営委員会」

である。年度活動状況については、日本医療大学年報の各委員会報告に記載している。

校内の各委員会の構成員には、教員とともに職員を加え、学生の持つ学業や学生生活についての問題を共有するとともに、起こり得る又は起こり得た問題事項に関して、解決に向けた方策を講じている。

〔1〕教務委員会

教員と職員の協働による学生への学修及び授業支援に関する実施体制として、教職員から成る教務委員会を月2回定期的で開催し、教育業務に関する方針・計画・課題を審議し、必要な業務を行っている。教務委員会は各学科長、学科から選出された教員2人、事務局からは学生・教員サポートグループ長に加え、真栄キャンパス1人、恵み野キャンパス1人の担当職員によって構成している。

休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する実態については、各学科ともに学年進行に伴い退学者、休学者の人数が増えていく傾向がみられる。退学理由については、進路変更が圧倒的に多い。次いで学業不振、経済的理由などである。この背景には高校と大学における教育のギャップに学生が適応できていない可能性を想定している。これに対し、現在、キャリア学修支援センターにおいて、新入生を対象とする初年次教育やリメディアル教育を実施しており、キャリア学修支援センターと連携を図り、さらに推進していく必要がある。

学籍に関する事項は、教務委員会において各学科の委員からの説明を受け、教務委員会で承認後、教授会で検討し、最終的に承認している。

本学には外国人留学生は在籍していないが、社会情勢に鑑み、留学先としての魅力を高めて受け入れ態勢の整備を進める必要がある。具体的には、授業形式の見直しや外国人留学生向けの宿舎の提供などが必要である。

〔2〕学生（クラス）担任制

各学科や専攻は、1年次から4年次まで、原則として同一の専任教員を4年間学生（クラス）担任とする学生担任制を導入している。学生担当教員（以下「学担」という）は、定期的なホームルームの開催と個人面談などにより、学生の教学上及び生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている。学生の状況把握に基づく情報は、関係する教職員間で共有し、細部まで行き届いた対応が可能となるように配慮している。

さらに、リハビリテーション学科では、開学以来両専攻の1、2年生を対象とした少人数で構成するチューター制度を導入している。

チューターとは、英語でTutorial（チュートリアル、個人指導・個別指導）を行う者を意味するが、教員と学生、クラスメート、先輩と後輩との絆を強化し、関連職種との理解と有意義な学生生活の実現に努めている。開催回数と活動内容は、各チューターにより異なるが、一例として、1年次に苦勞することの多い解剖学の実技試験のグループ学修などを、2年生が1年生の指南役となって行っている。チューター制度を通じて、教員や学生同士のコミュニケーション、人間関係を広げるよい機会となっている。そのような機会を増やす意味で、年度ごとに対象となる両専攻の学生を同じ教

員が再度担当しないようメンバーを入れ替えている。

[3] FD・SD研修会

FD委員会は、年1回、原則全教職員を対象として、教育課程・体制の開発向上及び教員の教育方法の向上を図るため、教職員が共通認識を有するようにFD・SD研修会を開催し、教職協働の意識向上に努めている。関係する内容としては、平成28（2016）年度は「大人数クラス向けのActive Learningの仕方」、平成29（2017）年度は「魅力あるSYLLABUSの作成について」、平成30（2018）年度は「三つのポリシーを基にした有機的なカリキュラム編成」「パフォーマンス課題を評価するためのルーブリック評価入門」であった。FD・SD研修会の内容は、教育課程・体制の開発向上や教育方法の向上とも連動している。学生に提供する講義内容、教育方法の向上とも連動している内容であった。

また、FD委員会は、授業に対する学生の意見などを汲み上げる仕組みとして、「学生による授業評価アンケート」を実施している。学生からの意見は教員にフィードバックされ、それぞれ授業の改善に役立っている。なお、各学科・科目区分別集計と大学全体の集計結果を図書館に掲示し、学生、教員、事務職員、大学を訪問する保護者に公表している。

[4] 入学前教育

本学では、AO入試及び推薦人試験合格者を対象に、入学前教育を実施している。入学前教育の内容は教員と学生募集・入試グループの担当職員で構成するメンバーで課題を作成の上、決定する。

入学前課題の目的は、①学習習慣の継続、②高校の学びの復習（初修の場合はその教科に慣れること）、③大学での学びへの導入と継続性、である。具体的には、「基礎学力増強プログラム」と「図書推薦文バトル（書評合戦）」である。図書推薦文バトルとは、書評合戦のことであり、次のような手順で行われる。

指定する数冊の図書の中からひとつを選んで読み、まだその本を読んだことのない人にぜひ読んでみて欲しいと強くアピールする推薦文を作成する。優秀作品については匿名化した上で紹介される。さらに、一度目の指定された図書とは別の図書を読み推薦文を再度作成する。これについてもアピール力を審査し、評価の高いものを表彰している。

平成30（2018）年度入学生も基礎学力増強プログラムとして、指定問題集の学習、図書推薦文バトルとして、推薦図書についてのブックレポートを課題としている。

[5] キャリア学修支援センター

学科とは独立した機関として位置づけられ、「日本医療大学キャリア学修支援センター規程」に則り、運営している。令和元（2019）年5月1日現在の構成は、部門員8人、専門員4人、事務職員1人である。部門員は3学科所属の教員からなり、専門員は看護学科担当1人、リハビリテーション学科担当（理学療法学専攻、作業療法学専攻）3人である。診療放射線学科は担当専門員を配置する予定である。

キャリア学修支援センターは、キャリア教育、就職対策、国家試験対策等を行っている。その流れの中で、全学的な学生の学修支援の検討と方策の立案について部門員とセンター所属の専門員が協働して務めている。キャリア学修支援センターは国家試験対策や専門接続の一環として、リメディアル教育による基礎力向上の支援を実施し、学修活動への円滑な導入と動機付けを行っている。また、専門員は学科の部門員と協力し、国家試験に関連する学修支援を行っている。さらには、就職活動においても学生全員の進路相談・面談を徹底し、履歴書等の書類作成や面接練習など就職選考試験対策を実施している。なお、専門員は、グループワークのためのセミナー室確保、模擬試験受験に関する手続き、国家試験受験願書の一括申請手続き等の支援も行っている。

看護学科では、学科担当の部門員と専門員を中心に、国家試験受験講座の開催、各種の模擬試験実施、模擬試験結果に基づく特別クラスの編成、補講の実施など、主に国家試験に向けた対策支援を行っている。

リハビリテーション学科では、毎月2回学科内の国家試験対策委員会や学科会議などを通じ、学科担当の部門員と専門員と学科教員が緊密な連携を図っている。

診療放射線学科では、学科担当の部門員を中心に、1年次から3年次まで各学年の学力に合わせた国家試験受験対策講義を実施している。平成30（2018）年度の3年生には国家試験の模擬試験を2回実施した。令和元（2019）年度の4年次には10回の模擬試験の実施を予定している。また、リメディアル教育として、1年次に数学、物理学、情報科学の補講を実施している。

[6] 学修支援

看護学科の平成26（2014）年度に入学した学生の学年進行中の学籍異動状況をみると、表2-1-1のとおり、入学生85人中修業年限で卒業した学生数は69人（卒業率81.17%）であった。

表2-1-1 看護学科1期生入学から卒業までの状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	卒業率	備考
26年度入学生	85人	84人	81人	69人	81.17%	* 修業年限卒業
未進級者	0人	1人	2+1人	3+9人		* 4年次留年9人

※ +部分については、留年生を示す

未進級者16人の内訳をみると、退学6人、3年次に留年した在学中の1人を除く他9人の学生は4年次で留年の後、在学年数5年で全員が卒業・国家試験に合格し、看護師として病院に就業し活躍中である。すなわち、学業不振等で留年となった学生に対して効果的な学修支援を行った結果、卒業、国家試験に全員が合格している。

留年期間の学生対応については、学担が面接や学修支援を行い、卒業への動機づけを継続して行った。また、留年の原因となった授業科目に対する学修支援及び国家試験対策講座や模擬試験実施で、成績の自己評価・他者評価を適切に行うことができ、学修目標の設定が可能になったと考えられる。学生が主体的に目標管理を行い、留年生グループ内で自助・互助の作用が生れ、活発なグループ学

修が行われていた。その結果、留年生全員が卒業、国家資格取得、就職に至ったと考えられ、学業不振等を理由にした留年生に対する効果的な学修支援が実施できたと考える。

[7] 学生への学修及び生活指導

新入生オリエンテーションは、大学への理解を深め大学生活をいち早く理解し、充実した4年間を過ごせるように、入学式後2日間に分けて行っている。学部全体のオリエンテーションでは、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会と学生委員会からのオリエンテーション（履修登録・大学生の学修に関すること、大学生活に関すること、図書室や相談室などの利用方法など）を教職協働で実施している。

学科別のオリエンテーションでは、学担を中心に、専門性の異なる学科に特化した学修やクラス運営などについて説明を行っている。なお、このオリエンテーションでは教務委員会が作成した『学修ハンドブック』を配布し、アカデミック・スキルについての導入も図っている。

在学生については、在校生ガイダンスを前期始業日に教職協働で実施し、新学年での心構えと注意事項を指導している。

[8] 図書館

図書及び学術振興委員会は、図書館の利用方法に関する図書館利用マニュアルや利用ガイドを作成し、学生、教職員に配布している。図書館職員（司書）は新入生オリエンテーションにおいて、図書館の利用方法（文献検索、レファレンス申込み）を説明し、学修の支援に努めている。また、学生用推薦図書の手配、研究図書や雑誌等の蔵書、電子ジャーナル・電子書籍等のリソースを安定的に整備し、学生や教職員の利用環境を整えている。

[9] 学外実習に関連する学修支援

実習開始前に、「臨地（臨床）実習の手引き（マニュアル）」を用いて、実習の目的と意義、習得内容、課題の提出、心得、個人情報保護、注意事項等を徹底して把握させている。また、リハビリテーション学科及び診療放射線学科では、実習施設の指導者を招いての「臨床実習指導者会議」を開催し、指導者に各実習のねらいを理解してもらうと同時に、実習前に指導者と学生が面談する機会を設けている。臨地（臨床）実習指導者会議の準備や実習中の宿泊利用施設との契約手続きなどは事務職員が支援している。

[10] 国際的人材の育成

本学の母体であるつしま医療福祉グループが30年前からデンマークにある「日欧文化交流学院（現ノウフユンス フォルケホイスコーレ）」と交流してきた。こうした交流の歴史を踏襲し、本学でもデンマーク、また中国、韓国の大学等と国際的な視点から医療の学びを深めるとともに、豊かな国際感覚を涵養していく。具体的には国際交流委員会で検討することとしている。

2-2-② TA (Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実

TAに関して、本学は大学院を設置しておらず、今後の課題である。

ただし、リハビリテーション学科では、TA制度に代わるものとして、「科目担当者制度」によるSA (Student Assistant) を活用し、非常勤科目を含む全科目において、学生が教育用機器の準備、資料配布などによる授業の準備・補助、演習授業の準備・片付けなどの補助を行っている。

また、臨床実習開始前の期間は、上級年次生がSAを担当し、科目担当教員の指導の下に検査測定などの技術指導やアドバイスをを行い、授業のサポートを行っている。こうした活動により、それまでに修得した知識・技術を対象者に合わせて指導するスキル及びコミュニケーションスキルを向上させる効果が期待できる。

令和元(2019)年度入学生に聴覚に障がいを持つ学生がリハビリテーション学科に1人在籍している。聴覚状況は先天聾で人工内耳(右)を装用、左耳からの聴覚はないものの、右聴覚と読唇で会話の理解は可能である。入学前の学科会議において、聴覚状況、授業環境、配慮事項を確認し、学科のすべての教職員が、障がいに対する理解を深め、学生に対して適切に対応できるよう理解促進に努めている。具体的には、中央からやや左側最前列の席を用意することとした。また、非常勤を含めた科目担当者に対し、口述や板書での配慮事項を説明し、必要な情報の共有を図っている。

休学、退学等の学籍異動にあたっては、あらかじめ学生と学担が面談し、学担の所見を付した書類の添付を求めている。必要に応じて保護者とも面談を行い、理解を得るようにしている。休学者については、定期的に学担に現況を連絡することが課され、休学学生に関する把握・指導や支援は、教職協働により行っている。

オフィスアワー制度は、半期ごとに教務課掲示板において各教員のオフィスアワーを学生に周知し、講義内容や学生生活に関する相談に利用している。教員の多くはオフィスアワー以外の時間にも、可能な限り学生に対応している。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

キャリア学修支援センター(以下「センター」という)は、平成29(2017)年4月にそれまでの就職・進路対策委員会を改組し発足した。

看護学科は開設6年目となり、平成29(2017)年度に1期生、平成30(2018)年度に2期生が卒業した。リハビリテーション学科は開設5年目となり、平成30(2018)年度に1期生が卒業した。診療放射線学科は開設4年目であり、令和元(2019)年度に第1期生が卒業する。

本学は医療専門職の育成を使命としている点では看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科とも同様である。しかし、社会的・職業的自立に関する就職対策、国家試験対策などに異なる部分も少なくはない。そのため、学部としての取り組みと学科ごとの取り組みに分けて述べる。

[1] 学部としての取り組み

センターは、部門員、専門員を通して各学科との緊密な連携のもと、社会的・職業的自立に関するキャリア教育、就職対策支援、国家試験対策支援及びリメディアル教育のための支援体制を構築している。

毎月1回、定期的に部門員、専門員、事務職員参加のもとセンター運営委員会を開催し、必要な業務にあたっている。就職・進学、国家試験対策に関する相談についてはセンター専門員が相談窓口となり、支援・助言を行っている。学生対応、求人对応、就職対策、国家試験対策などの専門員の業務内容は毎月開催の運営委員会にて報告されている。

教育課程外でセンターが実施しているキャリア教育の取り組み実績は、各種就職対策講座の開講や就職ガイダンスの開催、『就職ガイドブック』の作成等がある。これらの機会を通して、就職と進路選択への動機付けや社会人・職業人として必要な知識と礼節を学ぶ機会を設けている。真栄キャンパスと恵み野キャンパスに常駐している専門員は学生に対して就職相談や模擬面接を行うなどの直接的支援を実施し、社会的・職業的自立の発達を促している。

職業人として自立するための、国家試験対策としては、専門員による各学科の教員と連携した、きめ細かいグループ学修、個人学修の企画を行っている。自習室の開放拡大、国家試験対策関係資料の充実、独自の問題集の作成（リハビリテーション学科）、国家試験対策講座（看護学科）の実施、自己学修の効果向上を図るため図書館の開館時間（真栄キャンパス図書館）の延長、センター専門員と学担による相談サポート体制の強化を行っている。

本学は、医療専門職の育成を目指す大学であることから、教育課程上においてはキャリア教育に繋がる科目「臨地実習」「臨床実習」を設定している。これらは、通常のインターンシップ以上に学生が働く目的を考え自己成長を促す機会となっている。「臨地実習」「臨床実習」の時間数、回数、実施学年などは学科ごとに異なるが、センターでは、これらの実習と連動させて各種講座を企画し、実施している。

学年進行に伴い、特に学業不振の学生をいかにして国家試験に合格させ、職業人として自立させるかについて課題となってきた。そのため、入学時学力の実態を把握するために、平成30（2018）年度から全新生入生に対し、センターで作成した自己診断テストを行っている。自己診断テストの目的は、学生の基礎学力を把握し、教職員で共有し、学生のニーズに応じた学修指導、国家試験対策へと繋げることや、基礎的な計算力を問う数学と文章読解力等を問う国語の2科目とそれを通じた自己認識及び高等学校での科目の履修状況調査を行い、基礎知識の不足した学生の存在を明らかにすることである。平成30（2018）年度については看護学科、リハビリテーション学科は数学に関して1コマ（90分）の補習を4回ずつ実施した。診療放射線学科については、専門学校時代から数学、物理のリメディアル教育を行っており大学になってからも継承して行っている。情報科学については、大学設置後、新たにリメディアル教育として実施している。時間、回数についてはそれぞれの科目で1コマを8回実施した。

センターはまだ発足して間もないため、学生には新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーションの機会を通して本学キャリア教育の内容やセンターの機能を説明し、センターの利用を

促進している。保護者には入学式における保護者説明会、年1回行われている保護者懇談会などで、キャリア教育の紹介及びセンターの案内を行い、保護者の理解と支援を促している。また、平成30(2018)年度には、本学ホームページのそれまでのキャリアサポートのページを見直し、センターのページに刷新し、内容を充実させた (<https://www.nihoniryo-c.ac.jp/support/>)。

[2] 各学科の取り組み

○看護学科

1) キャリア教育・就職対策

看護学科は、幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を育成するために、看護学の専門的知識と技術に裏づけされた看護実践能力の向上を図っている。そのために教育課程内外において、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。

看護学科では、1年次から4年次までのカリキュラムにおいて臨地実習を取り入れている。臨地実習は看護実践場面における科学的根拠に基づく実践教育であると同時にキャリア教育の役割を果たしている。4年次の統合実習は、既修得科目の知識・技術を統合し、多様な課題に取り組む実習であるので、インターンシップ制度の代替となる。

このようなカリキュラムを踏まえ、1年次からキャリア教育に取り組んでいる。2年次には「実習前マナー講座」、3年次には「インターンシップマナー講座」「実習前準備講座」「履歴書・小論文対策講座」、4年次には「面接試験対策講座」を行っている。このプロセスで学生は、将来に向けて自己の課題を明確にし、臨地実習に取り組みながら自らの進路を選択していく。4年次は、より具体的な就職・進学活動をサポートし、学生が目指す看護が実践できる就職や進学の実現を図ってきた。病院施設からのパンフレットや求人情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、センター室に専用コーナーを設けて資料を整理している。

平成29(2017)年度卒業の1期生69人中、就職希望者67人(道内54人、道外13人)、大学院進学2人であった。67人の内訳は、大学病院9人、国公立・公的病院20人、民間病院37人、一般企業1人である。

平成30(2018)年度卒業の2期生は77人中就職希望者77人(道内61人、道外16人)であった。77人の内訳は、大学病院12人、国公立・公的病院17人、民間病院48人であった。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して、社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

2) 国家試験対策支援

国家試験対策への支援は職業人として自立するための第一歩であり、極めて重要な位置づけである。平成29(2017)年度から看護師国家試験の出題基準が変更となり、新しい項目の出題や各領域を跨いだ臨地での判断能力を問う思考型問題が多く出題された。看護師として就業した際に求めら

れる能力が国家試験で確実に問われている。看護学科では、計画的な国家試験対策として受験講座の開催、各種模擬試験の実施、模擬試験結果に基づく、特別クラスの編成、補講の実施など、専門員、部門員が学科教員と連携して国家試験対策支援を行ってきた。

その結果、平成29（2017）年度卒業の看護学科1期生は69人の卒業生中、68人が合格し、98.6%の高い国家試験合格率を達成した。平成30（2018）年度卒業の看護学科2期生は78人の卒業生中、76人が合格し、97.4%の高い国家試験合格率であった。

表2-3-1 本学の看護師国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均
平成29年度	69人	68人	98.6%	96.3%
平成30年度	78人	76人	97.4%	94.7%

今後も、4年間のカリキュラムにおいて考える力や判断力を養う教育のさらなる充実を図り、効果的な試験対策を実施していく必要がある。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。

○リハビリテーション学科

1) キャリア教育・就職支援

リハビリテーション学科は理学療法学専攻及び作業療法学専攻の2専攻からなり、ほとんどが卒業後理学療法士及び作業療法士として活躍することを希望している。幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助の人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を育成するために教育課程内外において、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。

リハビリテーション学科では2年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。

臨床実習は臨床現場における教育であり、同時にキャリア教育やインターンシップの代替としての役割を果たしている。

臨床実習は、臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。1年次からキャリア教育に取り組み学修への適応を図り、2年次以降は臨床実習に合わせて各種講座を実施している。2年次には「自己分析・表現」、3年次には「接遇」、4年次には「面接・小論文講座」を行っている。

求人情報はすべてセンターで受け付けている。病院施設からのパンフレットや求人情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、センター室に専用コーナーを設けて資料を整理している。就職指導は専門員が中心となり学担と連携しながら行っている。

リハビリテーション学科では、全学で使用する就職ガイドブックの他にリハビリテーション学科

に対応したより詳細な『就職ハンドブック』を用いてガイダンスを行っているほか就職説明会等を開催している。

平成30（2018）年度の就職説明会には、理学療法学専攻及び作業療法学専攻合同で約90施設が参加した。学生は、興味のある病院や施設等の説明を聞き、疑問点を解決したうえで希望する施設への就職活動が行うことができ、就職や国家試験への心構えにもなる。

就職説明会は、病院からの求人件数の増加と病院との連携強化を図る機会ともなっている。学生が就職活動を行う前には専門員及び各専攻の学担が随時窓口となり、病院の事情に詳しい教員にも相談できるような連絡体制をとっている。

求人票等の就職に関する資料については、学生がいつでも自由に閲覧できるようにしている。就職試験前には、学生に面接や小論文などの指導を実施している。

平成30（2018）年度卒業の1期生42人中就職希望者は、40人（札幌市内20人、札幌市外20人）であった。内訳は大学病院2人、国公立・公的病院10人、民間病院27人、その他1人であった。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

2) 国家試験対策

リハビリテーション学科は、職業人として自立するための第一歩である国家試験対策は4年次から本格的に実施する。それまでの平成27（2015）年度から平成29（2017）年度は、年に3から5回の確認テストを行ってきた。平成30（2018）年度から2年次、3年次には年に2回、主要3科目に関する進達度テストを行い、国家試験に対する自覚を早くから促している。これらの結果は定期試験などと合わせて保護者にも送付し、保護者にも試験の状況を伝えている。

4年次の臨床実習終了後の後期から、国家試験対策も本格化する。国家試験対策として、国家試験日までの学修スケジュール、諸手続きなども含む総合的な対策マニュアルを作成している。あわせて過去の国家試験に基づく、サーキットトレーニング集を印刷製本し学生に配布している。

4年次後期からは、専門員が中心となり、週5日間のグループ・個別学修支援、週1回の自作及び業者模擬試験実施を行っている。学修進度に応じて、グループの組み直し、ペア学修などきめ細かく指導している。

リハビリテーション学科では、センターと別に国家試験対策委員会（構成員・学科長、各専攻長、4年次学担）を設けている。2週間に一度の頻度でセンターと国家試験対策委員会の合同会議を行っている。国家試験対策委員会は4年次の学担もメンバーであり、特に指導に困難な学生については密接に連携をとっている。

平成30年度（2018年度）卒業の1期生は理学療法学専攻29人の卒業生中、29人が合格し合格率100%であった。作業療法学専攻は13人の卒業生中、10人が合格し合格率76.9%であった（表2-3-2）。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。

表2-3-2 本学の理学療法士・作業療法士国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均
理学療法士	29人	29人	100.0%	85.8%
作業療法士	13人	10人	76.9%	71.3%

○診療放射線学科

1) キャリア教育・就職支援

診療放射線学科の学生は、ほとんどが卒業後診療放射線技師として活躍することを希望している。放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。

また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけた職業人を育成する。

科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践能力向上のためにキャリア教育を行っている。

リメディアル教育として、1年次に数学及び物理学、情報科学の補講を実施している。数学は学生個々の学力に合わせた講義内容としている。情報科学分野は高等学校により教育内容の差が大きく、これを解消する目的で行っている。1年次から3年次まで各学年の学力に合わせた受験対策講義を実施している。3年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習はインターンシップの代替としての機能を持ち、社会人・職業人の自立に向けたキャリア教育の役割を果たしている。学年ごとの臨床実習はの通りである。臨床実習は、臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。平成30（2018）年度から臨床実習が開始された。

臨床実習の進行に合わせて、3年次は「接遇」「コミュニケーション」をテーマにキャリア教育講座を行った。令和元（2019）年度は4年生の臨床実習が始まる。

2) 国家試験対策

第1期生の国家試験受験は、令和元（2019）度末であるが、すでに平成30（2018）年度の3年次に模擬試験を1回実施している。令和元（2019）年度の4年次には10回の模擬試験の実施を予定している。以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。

さらに、学生のスキルアップ対策の一環として、第1種第2種放射線取扱主任者（国家資格）の資格取得にも積極的に取り組んでいる。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

[1] 学生サービス、厚生補導のための組織の設置とその機能

学生サービス、厚生補導のための組織として本学では「学生委員会」を設置している。委員は各学科2人から3人の教員と学生・教員サポートグループの職員で組織し、学長指名の委員長が委員会を運営している。委員会については委員長が招集し、原則月1回（第2水曜日16時30分から）の定期開催のほか、緊急な議題が生じた場合は持ち回りの会議等で対応している。

学生委員会では毎年11月に翌年度の運営計画を提示しているが、活動は大きく分けて1. 通常の学生委員会業務、2. 学生委員会主催行事、3. 学友会支援に分かれている。年度末には運営報告を提出している。

学生委員会の学生サービス、厚生補導（SPS）のための組織の設置は開学年度でほぼ整い、その後は学年進行と学科の増設に伴う学生数の増加及びそのニーズに合わせて改善を繰り返してきた。看護学科の完成年度を経て、初めての卒業生を送り出すことで、単年度の学生サービス、厚生補導を4年間積み上げる支援のあり方を構築することができ、リハビリテーション学科の完成年度を迎えたことで、両キャンパスの学生サービス、厚生補導の平準化に努めることができた。

令和元（2019）年度には診療放射線学科の完成年度を迎え、学部としての学生サービス、厚生補導を整える年となっている。

[2] 通常の学生委員会業務

学生サービス、厚生補導に関する学生委員会の通常サービスとしては以下の活動を実施している。

1) 環境整備やその美化

- ・学生の居場所作りの整備、各棟の共同利用スペースの環境整備
- ・学内社会実験『自由文庫』の設置の趣旨と拡充

空いた時間に学生に読書の習慣をつけて欲しいとの趣旨で開学年度に始まった学内社会実験が『自由文庫』である。教職員に読み終わった本を提供してもらい文庫の蔵書とし、本は自由に学内だけではなく、学外や自宅等、どこに持ち出してもかまわず、貸し出しの手続きは一切ない。読み終わると返却するシステムで、読んでいる間の本の管理は利用する学生の良識に期待する。設置年度のアンケートでは学生の42%が利用していた。開設当初は真栄キャンパスのレストランカ所の設置であったが、翌年にはリハビリテーション学科のある恵み野キャンパスのラーニングcommonsに、その翌年には真栄キャンパスの診療放射線棟の4階にも設置した。現在、学内には3カ所の『自由文庫』を設置している。

2) 防災活動、災害時行動マニュアルの作成、配布

災害時行動マニュアルを作成し、毎年入学式後のオリエンテーションにて配布している。災害時の避難経路や緊急避難の方法、留意点等が名刺大の折り畳み式の冊子になっており、学生には学生証と同様に提携を勧めている。5月の下旬には両キャンパスで全学対象の避難訓練が実施されるが、

その時期に合わせて毎年災害時行動マニュアルの見直しが行われている。

平成29（2017）年には札幌市と本学の間に「福祉避難所等に関する学生ボランティア協定」が締結され、希望学生の登録募集を適宜実施しているが、防災意識を涵養するよい契機となっている。大学の責務は研修等を開催することであるが、平成30（2018）年度12月に防災に関する講演会を行った。これまでに札幌市からはこの協定に基づく学生へのボランティア要請は発生していない。

3) 学内の保安

学内における遺失物に関しては事務局で管理しているが、明らかに盗難等の被害を受けた場合は、被害届を大学に提出してもらおうと同時に本人、保護者と話し合い、警察に届け出ることもある。届け出た場合は警察の事情聴取や捜査に協力を行う。これまで保護者から警察に届けた例は、ノートパソコンの置忘れによる遺失物が1件であるが〔平成30（2018）年4月〕、別の場所から翌日に見つかり、被害届を取り下げている。また、その都度学生、教職員に対して掲示やポータルサイト等で私物の自己管理に関する注意喚起を実施している。

4) 奨学金、学生の顕彰に関する業務

- ・学内奨学金被付与者の選考業務
- ・学生顕彰の選考業務と顕彰状授与式の挙行

5) 情報発信

学生への情報発信として、次のものがある。

- ① ニュースレター『あずまし』の発行
- ② 「学生委員会からのお知らせ」配布
- ③ 『あずまし』の拡大パネルによる日医祭での「大学の歩み展」の開催
- ④ 入学式、各学科のオリエンテーション、保護者懇談会における学生生活の説明

[3] 学生委員会主催行事の実施

学生委員会の主催行事は、開学年度から計画的にすべての1回目を開催し、今年度に至るまでにその6回目を迎えている。社会人として必要な基本的知識を学修させるための講座やセミナー、あるいは人間力の向上や、医療従事者としての基礎教養を学べるような講師の招聘に毎年取り組んでいる。

1) 成人する学生のための年金セミナーの開催

毎年4月から5月に各キャンパスにおいて、新さっぽろ年金事務所による説明会を実施している。

2) 安心・安全講座

毎年5月から6月に各キャンパスにて以下の講座を開催している。

- ・デートDV、ハラスメントの被害者や加害者にならないための講話
- ・護身術講習会（北海道警察）
- ・大学生のための性教育講座、性的マイノリティに関する講演会

3) 命を学ぶ一週間

命を学ぶ一週間と題し、毎年10月から12月にかけて、交通事故被害者の会による「いのちのパネル展」と講演会『命』を各キャンパスにて実施している。講演会『命』は、次のタイトル、講師内容で行った。

- ① 平成26（2014）年度「命」、旭山動物園園長 坂東元氏
- ② 平成27（2015）年度「遺体への死に化粧から見えるもの」、死化粧師 田村麻由美氏
- ③ 平成28（2016）年度「涙にいのちあり いのちに愛あり」、方波見医院理事長 方波見康雄氏
- ④ 平成29（2017）年度「交通事故死遺族のその後、乗り越えるということ」、交通事故被害者の会いのちのパネル展会長 小野茂氏
- ⑤ 平成30（2018）年度「もしもの時にまず守るもの 医療関係者になる者としての心構えについて」、公益財団法人札幌市防災協会 防災・危機管理専門官 細川雅彦氏

4) 学生委員会セミナーの開催

学生委員会セミナーを実施している。各年度の実施状況は次の通りである。

- ① 平成26（2014）年度「世界と日本 人間力を高めるための一週間」（北海道ユニセフ協会相談役 重原祐治氏）、「AED講習会」（日本光電）
- ② 平成27（2015）年度「ワーク・ルールを知って、ブラックバイトから身を守る方法を身につけよう」（札幌学生ユニオン共同代表 下郷沙季氏）、「資格取得後の挑戦と社会貢献について」（畑原理恵氏）、「携帯ローンや通信料の支払いが滞ったら…その後の人生を左右する怖いお話」（SMBCコンシューマーファイナンス）、「こころのケア」（本学非常勤講師志堅原郁子氏）
- ③ 平成28（2016）年度「安心して暮らせる幸せの国デンマーク」（日本医療大学運営事業グループ長 銭本隆行氏）
- ④ 平成29（2017）年度「7%のあなたへ LGBTの人権を守るための札幌市の施策的戦略」（札幌市男女共同参画室課長 廣川衣恵氏）
- ⑤ 平成30（2018）年度「金融セミナー」（SMBCコンシューマーファイナンス）

5) スタディ・バスツアーの実施

春期の長期休暇を利用し、スタディ・バスツアーを実施している。実施状況は次の通りである。

- ① 平成26（2014）年度 独立行政法人国際協力機構 JICA 北海道の訪問学習
- ② 平成27（2015）年度～平成30（2018）年度 札幌市市民防災センターの見学会と独立行政法人国際協力機構 JICA 北海道の訪問学習

[4] 学友会活動への支援

日本医療大学学友会は、平成26（2014）年4月24日施行の「日本医療大学学友会会則」に則って設置された。会則第2条により学友会は日本医療大学に在籍する学生全員をもって組織されている。実習壮行会は、学科別での実施となったことを受けて、学友会ではなく学科に実施の有無が委ねられ、平成30（2018）年度で実施を止めている。その他の行事に関しては、会員となる学生数の増加と予算規模の拡大によって、行事の規模が大きくなり、学友会役員の役割が重くなっている。

学友会会長は全会員の選挙によって毎年1月に選ばれ、現在は6代目の会長が就任し、学友会本部会を組織して年間行事を実施している。本部会は会長が指名した各学科1人の副会長と、年度初めのオリエンテーションやガイダンスで選抜される学科各組の代表者2人のうちの1人から組織される。

各組代表者の他の1人は、選挙管理委員となる。学友会は4月に定期総会を開催して年間活動計画と予算の承認を行い、1月の臨時総会で新会長の承認と年間活動報告、決算について協議を行う。

学友会の設置目的は学生間の交流であり、そのために学友会主催行事の他に、学内団体の支援も実施している。学生委員会委員長が運営顧問、名誉顧問は学長を務め、監査はその他の学生委員が担う。

現在の年間を通しての主な学友会主催行事は、新入生歓迎会、体育祭、日医祭であるが、学友会は平成30（2018）年度で設置5周年を迎え、第5回日医祭で学友会設立5周年記念のコンサートを開催した。

[5] 奨学金などの学生に対する経済的支援の実施

1) 日本学生支援機構奨学金、その他

日本学生支援機構奨学金の募集及び継続手続等に関してはキャンパス別に説明会を開催し、希望学生が受給できるよう手続きに配慮して行っている。また、地方自治体の奨学金制度、医療機関による奨学金制度などの情報を提供し、個別相談と申請手続きなどを支援している。

2) 日本医療大学 特待生制度

学校法人日本医療大学特待生制度規程により、入学試験における成績優秀者で、入学予定者に対して授業料の半額相当の額を給付する制度を実施している。表2-4-1、表2-4-2に示すように、平成27（2015）年から施行し、平成28（2016）年度の入学生から適用している。

表2-4-1 日本医療大学 特待生制度

対 象	一般入試及び大学入試センター試験利用入試において合格した者の中から優秀な成績で本学に入学する者
人 数	約10人
給付金額	授業料の 1/2 相当額 ※返済義務なし
給付期間	入学後1年間

表2-4-2 特待生制度実績

(単位:人)

年度	学科	看護	リハビリテーション	診療放射線	合計
平成28年度		6	—	3	9
平成29年度		8	1	6	15
平成30年度		1	—	3	4
令和元年度		3	4	7	14
合計		18	5	19	42

3) 日本医療大学ファミリーサポート制度

ファミリーサポート制度は、日本医療大学に入学しようとする者のうち、保護者や兄弟姉妹が日本医療大学又は前身の専門学校の卒業生又は在學生である場合、もしくは、「つしま医療福祉グループ法人又は関連法人」の役職員の家族である場合に、検定料及び入学金を免除する制度である。表2-4-3に示すように、令和元（2019）年度を含めた3年間に17人の入学金を免除している。

表2-4-3 日本医療大学 ファミリーサポート制度実績

(単位:人)

年度	学科	看護	リハビリテーション	診療放射線	合計
平成29年度		4	1	4	9
平成30年度		1	1	1	3
令和元年度		2	2	1	5
合計		7	4	6	17

4) 日本医療大学 学生顕彰

人材育成の一環として、Grade Point Average (GPA) が優れ、学修態度において顕彰に値するとして教員の推薦を受けた学生又は、ボランティア活動や地域振興等の社会貢献活動において顕著な成果を残した学生に対して、学生顕彰を行い副賞として現金5万円を授与している。成績優秀による顕彰は毎年各学科・各学年5人ずつとし、社会貢献による顕彰学生は毎年全学2人、あるいは2団体としている（上限数であり、該当学生がいない場合もある）。これまでの実績について、表2-4-4に示す。授与式は毎年4月中旬の土曜日に実施し、プレゼンターは学長である。

表2-4-4 日本医療大学 学生顕彰実績

(単位:人)

年 度	学 年	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	合 計
平成28年度	2	5	5	—	10
	3	5	—	—	5
	4	—	—	—	—
平成29年度	2	5	5	5	15
	3	5	5	—	10
	4	5	—	—	5
平成30年度	2	5	5	5	15
	3	5	5	5	15
	4	5	5	—	10

[6] 学生の課外活動支援

課外活動の支援は、主に学内団体の設置と活動に関するものである。学内団体は現在7月末と翌年の1月末までに設置申請を受け付け、学生委員会の審査を経て学長の承認によって設置が許可される。基本的な備品に関しては設置許可後に各団体からの申請を受けて学生委員会の予算で購入をしているが、活動の予算は学友会からの支援と個々の会費の徴収で行っている。現在学内団体は23団体が活動し、年度の終わりに活動報告と決算報告を行い、翌年度の7月に継続申請をした団体を学生委員会ではこれらの報告に基づき継続の可否を審査している。

[7] 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談

本学では学生の健康相談・精神保健相談は保健室がその窓口となっている。真栄キャンパスの保健室には養護教員（常勤）が常駐し、日常業務にあたっている。学生の日々の体調管理に関する対応や軽度のけがや体調不良への手当のほか、実習に伴う予防接種に関する情報収集や管理等も行っている。

学生相談室は、平成26（2014）年9月に真栄キャンパスに設置した。初年度の学生相談室の開室日時は木曜日12時から17時で、開室日数は18日間であった（長期休暇中は閉室）。学生の学年進行と新学科の開設に伴う学生数の増加に合わせ、平成28（2016）年度からの開室日時は、原則毎週月・水曜日（長期休暇を除く）の11時30分から17時00分、さらにその翌年度からは、毎月第2水曜日を恵み野キャンパス学生相談室の開室日とした。

平成30（2018）年度、人目が気になる学生にとっても利用しやすいように、真栄キャンパスでは第1研究棟1階101室を、恵み野キャンパスでは1号館1階の医務室・学生相談室を使用している。担当相談員（臨床心理士）は一人であり、非常勤体制である。相談員は相談業務だけでなく、事務作業、相談の受付等の業務も行っている。学生相談室では、学校生活の中で起こるさまざまな問題や悩みを中心に、多岐にわたる相談に応じているが、本学では同時期に保健室も開設したことから、保健室で扱う健康相談・精神衛生相談とは役割どころを異にして、教育相談や心理適応相談に応じ

ることに重点をおいている。相談の申し込みは、電話、メール、あるいは予約申込票により受け付けている。相談は1回につき原則50分程度、相談者一人あたりの利用回数について制限は設けていない。相談記録の保管については、相談室内にある施錠可能なキャビネットに保管し、記録の学生相談室外への帯出は原則禁止している。

学生に対しては、入学後のオリエンテーションで学生相談室のパンフレットを配布し、開室時間や利用の手順等を知らせている。また、各学科のオリエンテーションにおいては学生生活の説明時に学生相談室の臨床心理士の紹介を実施している。学生相談室からは、時宜にかなった話題を「学生相談室便り」として発行し、全学学生に配布している。また、平成29（2017）年度からは心理テストを導入し、希望する学生に無料で受けさせ、助言等のサービスを行っている。さらにはコラージュ制作などの作業を通してコミュニケーションを図り、相談へと繋げる工夫をしている。

学生相談室は、年度末には年間をとおしての相談実態の概要や課題を「学生相談室活動報告」として教授会に報告している。利用者は学生数の増加に比較してあまり増えてはいないが、一度利用した学生のリピート数が多くなる傾向にあり、それは年々顕著になっている。

学生相談室に関しては、その相談者の氏名や内容は漏れることがないように厳密に管理しているが、本学にはハラスメント防止委員会のもとに学科各2人の教員がその任にあたる相談員の制度がある。学生は学生間で起こるキャンパス・ハラスメントに関しては、まずこの相談員に、学科を問わず相談することになり、その助言を得ながら被害をハラスメント防止委員会に申し立てることができるが、これまでキャンパス・ハラスメントとして申し立てが行われたのは2件〔平成31（2019）年3月〕である。委員会では受理されたが、調査が始まる前に申し立て人とその保護者から被申し立て人の保護者と解決に向けた話し合いを行いたいという申し入れがあり、学担が仲立ちをして両学生の保護者の間で解決策が練られ、和解に至った。その結果、申し立ては取り下げとなっている。

日常的な種々の相談は学担のもとで行われるが、必要と思われる相談内容に関しては学生の承諾を得て各学科で情報を共有し、学科全体として対応することが可能となっている。また、学担を含めたすべての教員はオフィスアワーを設け、常に学生の訪問や相談に備えている。

2-5. 学修環境の整備

2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学のキャンパスは、北海道札幌市の南東部、札幌市営地下鉄東豊線福住駅からバスで約15分の自然豊かな環境に位置する真栄キャンパス（看護学科、診療放射線学科）と、新千歳空港と札幌市を結ぶJRの路線上に位置する恵み野キャンパス（リハビリテーション学科）を校地として所有している。

表2-5-1に示すように、校地の面積は、2キャンパスを併せ46,599㎡であり、大学設置基準上必要な校舎面積を満たしている。

表2-5-1 校地の面積（真栄キャンパス）

（単位:m²）

		大学収容定員数（学部合計）			600人	
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上 必要な面積
	校舎敷地	20,945	－	20,945	62.86	6,000
	運動用用地	13,710	－	13,710		
	小計	34,655	－	34,655		
	その他	3,058	－	3,058		
		37,713	－	37,713		

表2-5-2 校地の面積（恵み野キャンパス）

（単位:m²）

		大学収容定員数（学部合計）			480人	
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上 必要な面積
	校舎敷地	8,886	－	8,886	18.51	4,800
	運動用用地	0	－	0		
	小計	8,886	－	8,886		
	その他	0	－	0		
		8,886	－	8,886		

表2-5-3 校地の面積（全体）

（単位:m²）

		大学収容定員数（学部合計）			1080人	
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員一人 当たりの面積	設置基準上 必要な面積
	校舎敷地	29,831	－	29,831	43.15	10,800
	運動用用地	13,710	－	13,710		
	小計	43,541	－	43,541		
	その他	3,058	－	3,058		
	合計	46,599	－	46,599		

表2-5-4 校舎等の面積

【真栄キャンパス】

(単位:m²)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
看護棟計	2,492.78	456.41	359.94	3,309.13	660.00		3,969.13
1階	366.61	263.27	359.94	989.82	660.00		1,649.82
2階	761.39			761.39			761.39
3階	682.39			682.39			682.39
4階	682.39			682.39			682.39
5階	0	193.14		193.14			193.14
研究棟計	1,425.00			1,425.00			1,425.00
小計	3,917.78	456.41	359.94	4,734.13	660.00		5,394.13

放射線棟	4,694.77	167.26		4,862.05		549.23	5,411.28
1階	1,589.77	167.28		1,757.05		549.23	2,306.28
2階	1,035.00			1,035.00			1,035.00
3階	1,035.00			1,035.00			1,035.00
4階	1,035.00			1,035.00			1,035.00
研究棟	455.30			455.30			455.30
小計	5,150.07	167.26		5,317.35		549.23	5,866.58

【恵み野キャンパス】

(単位:m²)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
1号館	3,742.92	496.52	105.07	4,344.51	556.10		4,900.61
1階	810.63	496.52	105.07	1,412.22	556.10		1,968.32
2階	1,228.82			1,228.82			1,228.82
3階	1,253.12			1,253.12			1,253.12
4階	450.35			450.35			450.35
2号館	1,664.04			1,664.04			1,664.04
1階	651.54			651.54			651.54
2階	698.70			698.70			698.70
3階	313.80			313.80			313.80
小計	5,406.96	496.52	105.07	6,008.55	556.10		6,564.65

【大学全体】

(単位:m²)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
大学全体	16,465.46	1,120.21	465.01	16,050.68	1,216.10	549.23	17,825.36

それぞれのキャンパスに教室、実習室、図書館、運動施設等の教育・研究のために必要な施設を整備している。

各キャンパスは環境整備にも努めている。例えば、真栄キャンパスのつしま記念ホール横や玄関前には学生ボランティアと職員とで季節の花を植えている。また、前庭や教室前のスペースに椅子とテーブルを配置し、学生の居場所を確保している。

また、通学の利便性を高めるため、路線バスの他、北海道中央バス株式会社及びつしま医療福祉グループNPO法人シニアアクティブと契約して、スクールバスを運行している。

【キャンパス内全面禁煙】

平成14（2002）年8月、国民の健康維持と現代病予防を目的とした健康増進法の制定を期に平成15（2003）年からアンデルセン福祉村全体の敷地内を全面禁煙とし、現在に至っている。

本学は、平成26（2014）年度の開学当初から「将来専門職業人になるべく学修している学生及び保健医療福祉に携わる全ての職員」は、自らが健康に留意し、倫理的責任を果たすことが重要であるとの考えから敷地内全面禁煙を継続している。その間、敷地外で路上喫煙する学生や職員がわずかにみられたが、その都度注意喚起を行い、敷地内全面禁煙を徹底している。

恵庭市恵み野に所在するリハビリテーション学科も同趣旨からキャンパス内全面禁煙としている。

2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用

[1] 図書館

本学保健医療学部開設にともない、図書館は真栄キャンパスに本館（延べ床面積360㎡、座席数82席）、恵み野キャンパスに分館（延べ床面積105㎡、座席数50席）の二館体制で運営している。

本館は、旧専門学校日本福祉看護・診療放射線学院図書室、分館は旧専門学校日本福祉リハビリテーション学院の蔵書を基礎として開学以来、段階的に整備を重ねてきた。平成31（2019）年3月31日現在の蔵書数は26,278冊であり、そのうち洋書は557冊、和書は25,721冊である。

図書・視聴覚資料の購入費は、開設準備時の予算に加え、各学科240万円ずつ計720万円（平成29（2017）年度まで各学科300万円）を確保し、過去5年の購入資料数は表2-5-5の通りである。

表2-5-5 購入資料数

年 度	購 入 資 料 数					備 考
	和図書 (冊)	洋図書 (冊)	和雑誌 (誌)	洋雑誌 (誌)	視聴覚 (タイトル)	
平成26年	5,992	336	55	10	383	看護学科開設
平成27年	508	81	93	27	65	リハビリテーション学科開設
平成28年	1,232	51	92	31	45	診療放射線学科開設
平成29年	417	3	90	25	22	
平成30年	441	0	79	20	16	

雑誌は、平成31（2019）年4月1日現在、継続購入しているタイトルは103種である（オンライ

ンジャーナルを含む。うち洋雑誌は22種)。

図書の選書は図書及び学術振興委員会(以下、「図書委員会」という)の協力を得て学科ごとに行い、さらに図書利用者からのリクエストや図書館職員からの推薦も受け付けている。毎年、購読雑誌の選定は委員を通して学科ごとで行っているが、洋雑誌購読料の値上がりは年間購読種数の減少へと繋がらざるを得ず、各学科の意見を聞いて委員会において見直しを必要としている。

また、全文が購読可能な文献データベースを導入し、「メディカルオンライン」(国内医学関連分野1,400種)「最新看護索引Web」(看護系和雑誌10種)「CINAHL with Full Text」(医学・看護系洋雑誌600種)から利用者は、豊富な学術文献にたどり着くことができる。図書館の規模、開館時間、閲覧席数、情報検索設備や視聴覚機器の配備等は、表2-5-6から表2-5-8に示すとおりである。

表2-5-6 環境の整備状況

	面積	座席数	収容可能冊数
真栄キャンパス	359.9 m ²	82 席	23,028 冊
恵み野キャンパス	105.1 m ²	50 席	10,194 冊
合計	465.0 m ²	132 席	33,222 冊

表2-5-7 開館日、入館者数(※真栄本館のみの数値)

年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
開館日数	(日)	252	241	244	278	234
入館者数 (人)	合計	17,225	15,417	15,444	16,588	14,877
	1カ月平均	1,435	1,285	1,287	1,382	1,240

表2-5-8 開館時間

館種	開館時間		休館日
真栄本館	平日	9時00分～20時30分	日曜祝日、年末年始、蔵書点検期間、入学試験日、指定した夏期冬期休暇期間、卒業式、その他館長が認めた日。
	土曜日	9時00分～12時00分	
	長期休暇	9時00分～17時00分	
恵み野分館	平日	9時00分～19時00分	
	土曜日	9時00分～12時00分	
	長期休暇	9時00分～17時00分	

開学時は、平日19時00分閉館、土曜日休館であったが、学生の要望を受け、平成27(2015)年度から土曜日開館を実施、真栄キャンパスでは平成29(2017)年度後期から平日開館時間を20時30分までに延長した。

情報検索設備、視聴覚機器の配備等としては、所蔵検索端末(OPAC)は館内に2台(分館は3台)設置しており、インターネットによる蔵書検索(Web OPAC)で館外、学外からも検索ができる。データベース用の検索用端末は本館が10台(所蔵検索端末と兼用2台を含む)、分館が3台(所蔵検索端末と兼用)、プリンターは本館が1台、分館は2台設置し、検索結果や文献などをプリント

アウトできる。

教員には教員専用のデータベースのIDとパスワードを配布しており、学外からもデータベースにアクセスが可能である。

開学時から本館では個人視聴覚ブースを5席（1席はVHSも対応）設置し、分館はデータベース用端末が視聴覚ブースを兼ねている。

利用環境の整備状況は、5ヵ年の貸出状況は表2-5-9、契約データベースの利用状況は表2-5-10のとおりであるが、貸出数は減少傾向にも見える。要因としてはデータベース等でオンラインによる情報の入手が可能であること、学生がスマートフォンのカメラ機能による書籍の複製を行い借りずに済ませることを好む傾向にあることが考えられる。

しかし、カメラ撮影については、利用マナー（カメラ撮影時のシャッター音）や著作権の観点から、今後、利用方法を検討する必要がある。

図書館の利用に当っては、新入生へのオリエンテーション時に、本館、分館ともに毎年4月に行っている。

本館では図書館員による看護学科（1年）の講義内での文献検索ガイダンス及び演習を実施、恵み野分館では、リハビリテーション学科2学年、3学年の講義内でそれぞれ文献検索ガイダンス及び演習を実施している。

演習実施後は、両館ともに利用者の館内利用時に随時指導・支援を行っている。

しかし、学科により文献検索ガイダンス内容にばらつきがあるため、統一した内容での指導や、ガイダンス時間の確保が必要である。

そのため、今後の授業連携・教員連携は欠かせず、文献検索のみならず広く図書館の利用を促す端緒としたい。

表2-5-9 過去5年の貸出状況

(単位:冊)

年度	区 分			備 考
	学 生	教職員	その他	
平成26年度	3,436	739	0	看護学科開設。
平成27年度	6,456	605	96	リハビリテーション学科開設。恵み野分館開館
平成28年度	5,779	709	74	診療放射線学科開設
平成29年度	5,140	635	103	
平成30年度	3,826	584	59	

※ 学生は共用学生も含む。平成26（2014）年数値は、本館のみ

表2-5-10 契約データベースの利用状況

(単位:ログイン・利用回数)

年度	区 分			備 考
	医中誌Web・最新看護索引	メディカルオンライン	CINAHL with Full Text	
平成26年度	6,092	-	未導入	看護学科開設
平成27年度	3,849	-	-	リハビリテーション学科開設
平成28年度	1,751	-	288	診療放射線学科開設
平成29年度	2,665	4,876	301	
平成30年度	13,912	5,804	49	

※平成26(2014)・27(2015)年度は医中誌Webのみの利用数、平成28(2016)年度から最新看護索引と医中誌を合算した利用数

[2] 学内実習施設

○看護学科

看護学科の実習室は学内に2カ所あり、常に施錠し管理している。使用看護学領域、面積は表2-5-11の通りであり、実習室1には、1クラス50人の学生の演習において学生2人に対してベッド1台を常備しており、十分な演習が可能である。また、各領域の看護技術演習等が効果的に実施できるように、シミュレーターモデル人形等を整備している。看護学実習室では、学生が自主的に学修できるように、実習室使用について看護学実習室マニュアルを作成し、学生・教員に周知している。

表2-5-11 看護学科の実習施設

棟 名	フロア	室 名	使用看護学領域	面 積
看護棟	2	看護実習室1	基礎看護学、成人看護学	504.00㎡
診療放射線棟	2	看護実習室2 在宅実習室	母性看護学、小児看護学 在宅看護、老年看護学	378.00㎡

また、学生は学修内容を事前に報告し、内容によっては必ず教員の指導を受ける(針を使用する採血、静脈点滴など)体制をとっている。医療廃棄物、鋭利な物品に対しては鍵付のロッカーを配置し安全対策をとっている。医療廃棄物の使用原則については、基礎看護学、医療安全、感染管理の講義及び各領域演習時のオリエンテーション、デモンストレーションなどで演習し、実践教育を行っている。

○リハビリテーション学科

リハビリテーション学科では、基礎医学系実習室や理学療法実習室、作業療法実習室を設置している。基礎医学系実習室には、基礎医学実習室、運動学実習室、生理学実習室があり、理学療法実習室には、治療室、機能訓練室、水治療室、装具加工室、ADL(日常生活動作)実習室、作業療法実習室には、織物・手工芸・絵画・レクリエーション室、木工・金工・陶芸室がある。専攻占有

の実習室はなく、必要に応じて両専攻の授業や学生が利用している。各実習室の所在や階、室名、使用する科目、床面積は表2-5-12に示す通りである。また、それぞれの実習施設には理学療法士作業療法士養成施設指定規則に則り教育上必要な機械器具を準備している。

実習施設は、授業で使用するとき以外は施錠し厳しく管理されている。定期試験前や、学外実習前、卒業研究などで学生が実習施設の使用を希望した時は、「教室使用願い」に希望する室名、使用日時、教員の承認の証（サインもしくは捺印）を記載して事務に提出し、使用が許可され、自主的な学修に活用されている。

表2-5-12 恵み野キャンパスの実習施設

	フロア	室名	使用学科科目	面積
1号館	2	治療室	呼吸リハビリテーション（共）、軟部組織治療学（共）、生理学演習（共）、体表解剖学（共）、応急処置法（共）、運動療法学演習（理）、運動器障害理学療法学演習（理）、徒手関節治療学（理）、スポーツ理学療法学（理）、理学療法評価学演習（理）	128.47㎡
1号館	2	機能訓練室	応急処置法（共）、運動学演習（共）、運動療法学演習（理）	140.62㎡
1号館	2	水治療室	物理療法学演習（理）	70.31㎡
1号館	2	ADL室	理学療法概論演習（理）、日常生活活動基礎学（理）、日常生活適応学（ADL）（作）	105.07㎡
1号館	2	装具加工室	義肢装具学演習（理）、義肢装具作業療法学演習（作）	91.96㎡
1号館	2	基礎医学実習室	解剖学演習（共）、神経内科学（共）、神経内科学（共）、解剖学（共）	140.62㎡
1号館	2	運動学実習室	運動学演習（共）、生理学演習（共）	38.71㎡
1号館	2	生理学実習室	運動学演習（共）、生理学演習（共）	31.60㎡
1号館	4	織物・手工芸・ 絵画・レクリ エーション室	基礎作業学演習（作）	113.57㎡
1号館	4	木工・金工・陶 工室	基礎作業学演習（作）	113.57㎡

（共）：理学療法学専攻・作業療法学専攻共通 （理）：理学療法学専攻 （作）：作業療法学専攻

○診療放射線学科

診療放射線学科は1クラス50人の学生の実習において、各領域の実験実習等が効果的に実施できるように実習施設を設置している。使用領域、面積は表2-5-4の通りである。また、それぞれの実習施設には診療放射線技師学校養成所指定規則に則り教育上必要な機械器具等を有している。

パソコン室は、情報処理学などの実習・演習ができるように1人1台を完備している。

エックス線実習室には、病院で実際に使用されている医療用のエックス線診断装置2台、エックス線透視診断装置1台、CT診断装置1台、人体等価ファントム、シュミレーターモデル人形等を整備している。

基礎医学実習室には、CT画像や核医学検査等の医療画像を処理できる画像処理ソフトを装備したパソコンを20台設置している。また、人体模型を設置している。

理工学実習室には、電流計、電圧計、オシロスコープ、電気回路等の実験器具を設置している。

基礎科学実習室には、GMサーベイメータ、シンチレーション検出器、電離箱線量計、半導体検出器等の各種の放射線計測装置、放射線治療計画装置及び血管（抜針）や注腸用ファントムを設置している。

超音波実習室には、超音波検査装置とシミュレーション用人体ファントムを設置している。

表2-5-13 診療放射線学科の実習施設

棟名	フロア	室名	使用学科科目	面積
診療放射線棟	1	パソコン教室	情報科学演習	155.25㎡
診療放射線棟	3	エックス線実習室	放射線物理学実験 医用工学実験 診療画像技術学実験Ⅰ・Ⅱ 診療画像機器学実験	186.88㎡
診療放射線棟	3	基礎医学実習室	放射線物理学実験	181.12㎡
診療放射線棟	4	理工学実習室	放射線物理学実験 医用工学実験	181.12㎡
診療放射線棟	4	基礎科学実習室	放射線物理学実験 医用工学実験	181.12㎡
診療放射線棟	4	超音波実習室	診療画像技術学実験Ⅱ	44.96㎡
診療放射線棟	4	眼底検査室	診療画像技術学実験Ⅰ	21.40㎡

[3] 臨地（臨床）実習施設

1) 臨地（臨床）実習を円滑に行うために必要な体制

本学における教育業務に関する事項を審議し、必要な業務を行う教務委員会が臨地（臨床）実習に関する事項を所管している。具体的な臨地（臨床）実習の計画・運営に関わる責任の長は学科長であり、その責任のもと、各学科に「臨地（臨床）実習検討（委員）会」の部会を設置している。

○看護学科

看護学科では、臨地実習の計画・運営のため、「臨地実習検討会」を設置している。臨地実習検討会の目的は、各看護学領域の実習内容の整合性や順序性、実習施設と指導体制の整備などに関わる状況に基づき、実習を計画し、各実習に関する検討事項を協議することである。各実習の学修成果や問題点などを学科全体で共有し、実習の在り方や問題に対する対応策を検討・改善し看護学実習の水準を維持・向上させようとするものである。

臨地実習検討会は看護学各領域の教員から構成され、①～⑦の役割を担っている。

- ① 臨地実習共通要項の作成
- ② 実習スケジュールの作成
- ③ 臨地実習施設への学生割り付け

- ④ 危機管理及びインシデント・アクシデントのとりまとめ対応策の検討
- ⑤ 臨地実習指導教員の雇用契約の作成・見直し
- ⑥ 看護学各領域の臨地実習指導教員の配置調整
- ⑦ 学生のワクチン接種情報の把握等

臨地実習施設の確保、臨地実習施設と本学との連携調整、大学教員の指導計画（巡回・固定）の策定、各臨地実習施設の学生割り付け及び大学教員・実習指導教員の配置、臨地実習の成績評価の確定については各看護学領域の科目責任者及び教務委員会が責任を担っている。臨地実習の進捗状況や学生状況については学科会議で報告・検討し、対応を決定している。

○リハビリテーション学科 診療放射線学科

リハビリテーション学科及び診療放射線学科では、臨床実習の計画・運営のため、学科構成員からなる「臨床実習委員会」を設置している。主な業務は、実習施設の確保、実習施設との契約、臨床実習施設と本学との連携調整、学生配置、実習期間中の問題発生時の対策、実習前後における教育の検討等である。また、実習前に臨床実習指導者会議を開催し、指導者との連携を図る機会も設けている。臨床実習中は電話と訪問による状況確認を行っている。また、学生評価の基準化を視野に入れ評価の公平性について検討している。

2) 健康診断・予防接種

毎年度初めに健康診断を実施している。臨地（臨床）実習に必要な予防接種は、学校保健安全法施行規則第18条・19条・医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版に基づき、健康診断の際に麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎の抗体検査を実施している。臨地（臨床）実習開始前までに、罹患歴、ワクチン接種歴、母子手帳の確認を行っている。抗体価が低い学生に対しては、CAMPUS HAND BOOKや臨地（臨床）実習前のオリエンテーション、看護学科では実習共通要項に記載することを通して、ワクチン接種を指導している。ワクチン接種の履歴は、学生から接種の領収書又は母子手帳の写しなどで確認し、学生の抗体検査の結果は、臨地（臨床）実習施設から開示要請がある場合は提示する。ワクチン接種のデータ整理、学生への指導は保健室と学担、実習科目責任者と各学科の臨地実習検討会・臨床実習委員会が協働して実施している。また、インフルエンザワクチンは大学内で接種可能な体制をとり、任意接種ではあるが、接種の有無を事務局でデータ化している。臨地（臨床）実習実施前の実習担当教員による状況把握、さらに実習中の学生の健康管理及び実習施設におけるリスク管理のために活用している。

3) 学生の臨地（臨床）実習施設への配置

- ① 看護学科の臨地実習施設は、一部札幌近郊の江別市等を除き、札幌市内で実施している。臨地実習施設、実習スケジュール、学生の住所や帰省先等を勘案し、学生の臨地実習施設への配置計画を立案している。配置について学生の希望は聴取していない。その理由は、同じ臨地実習施設を希望する場合、体験の幅が狭くなり学修効果が期待できなくなるためである。ほとんどの臨地

実習施設は札幌市内であるが、学生の実習及び生活指導を十分実施できるように、また事故や災害時の学生の安全確保が図られるように、大学教員及び各臨地実習施設の実習指導に非常勤の実習指導教員（以下「インストラクター」という）は携帯電話、メール等で常に学生と連絡・報告・相談ができるようにしている。

- ② リハビリテーション学科の臨床実習施設は、大学病院や市立病院等の総合病院、脳外科、循環器内科、整形外科等の専門領域の検査・治療に精通している病院施設等である。学生の実習施設への配置は、学生の居住地を考慮し、通学時間が学生の負担にならないことを原則とする。仮に通学に相当の時間を要する場合には、実習施設の近隣に宿泊施設を紹介し、実習に支障がないよう調整する。
- ③ 診療放射線学科の臨床実習施設は、放射線診療の各分野にわたる施設を確保して実習を行う体制を整備している。学生の実習施設への配置は、リハビリテーション学科同様学生の居住地を考慮し、通学時間が学生の負担にならないことを原則としている。仮に通学に相当の時間を要する場合には、実習施設の近隣に宿泊施設を紹介し、実習に支障がないよう調整する。

4) 臨地（臨床）実習指導における大学教員とインストラクターとの連携体制

看護学科では、看護学実習の目的を達成するため、また、実習教育の水準を確保するために、大学教員による教育の責任体制と実習指導体制を重視している。臨地実習の指導は、各看護学領域の授業科目を担当する専任教員（教授、准教授、講師及び助教）がその責任者として指導にあたり、教育上の最終責任を負う。専任教員は、助手又はインストラクターを適正に配置し、自身が固定又は巡回指導することを通して、実習教育の水準を維持、向上するための実習指導体制を敷いている。インストラクターとは、臨地実習のたびに雇用させ看護師免許を保有する非常勤実習指導教員である。実習施設に常駐し学生と行動を共にし、実習が円滑に実施できるよう調整を行うほか、専任教員の指示監督のもとに学生の指導に当たる役割を有する。

各臨地実習指導の担当教員は、担当する学生の実習指導全般にわたり責任を有し、臨地実習終了後は、学生の学修成果や評価、課題などについて、各領域の教授又は科目責任者に報告する。実習における指導上の問題や、施設側の臨地実習指導者との連携上の問題が生じた場合は、科目責任者あるいは領域の教授に報告し、実習科目を担当する教員間で協議、検討し、学生の実習に支障をきたすことがないように、速やかに対応することで、実習教育の水準を維持できるよう努める。助手及びインストラクターは、当該科目の責任者・科目担当教員の指示・監督のもとに、当該施設を担当する専任の大学教員とともに臨地実習指導にあたる。助手及びインストラクターは、臨地実習の進捗状況や学生の課題及び実習目標の達成度などについて、専任教員と連絡・報告・協議を綿密に行い、学生に不利益が生じないように指導を行っている。

インストラクターを配置する目的は、学生数に合わせて実習施設数が増大し、専任教員の配置が不足となるためである。インストラクターは大学側の実習指導教員として実習施設に常駐し、学生の状況把握と学生がいつでも相談できる体制を維持することにある。インストラクターは、様々に変化する状況において、専任教員の指示に従い、適宜臨地実習指導者と調整を図ることで、学生の

学修環境を整える役割を持っている。

インストラクターは、大学のホームページで公募する他、実習施設をはじめとする病院等へインストラクター勤務が可能な退職者を照会するなど募集し、インストラクターの専門領域を定め、教授及び科目責任者が採用する。インストラクターの学修機会は、学内教育への参加、臨地実習指導時の関わり等で学生指導の質的向上を図っている。教員との連携及び実習施設との調整に経験を重ねたインストラクターの存在は、学生にとって安心できる実習指導体制につながるため、採用更新が可能になるような関係づくりに努めている。インストラクターの役割、専任教員との連携体制については各看護学領域で実習指導要項に記している。インストラクターの採用条件は、以下の通りである。

- ① 看護系大学または短期大学・専修学校を卒業し、看護師の資格を有している者
- ② 業務経験（臨床実践、看護教員、実習指導者など）は、概ね5年以上である者
- ③ 看護教育に関心が高く、大学生の実習指導に熱意がある者
- ④ 実習指導に関する研修会に参加経験がある者が望ましい
- ⑤ 母性看護学領域を担当するインストラクターは、助産師の資格を有している、あるいは産科勤務経験のある者が望ましい

リハビリテーション学科及び診療放射線学科では、インストラクターを配置していない。リハビリテーション学科の臨床実習では、実習施設に在籍している臨床経験3年以上の理学療法士や作業療法士が、臨床実習指導を行っている。

5) 臨地（臨床）実習施設及び臨地（臨床）実習指導者との連携体制

○看護学科

看護学実習においては、専任教員、助手、インストラクター及び臨地実習指導者は、学生が実習目標を達成するために連携を密にし、協働して助言・指導を行う。各実習科目を担当する大学教員は、臨地実習における教育上の責任者であり、臨地実習指導者は臨地実習施設における看護実践指導の責任者である。学生が実習目標を達成するために実習指導における専任教員は、実習指導要項を作成し、それに基づき専任教員とインストラクター、臨地実習指導者と連携し指導を行っている。

また、学科と臨地実習施設との間で臨地実習前・後の打ち合わせを年2回実施している。実習前打ち合わせでは、実習目標、学生のレディネス、役割・連携、評価方法等について説明・協議している。また、実習後打ち合わせでは、大学・臨地実習施設両者の評価を報告・協議し、実習全体の評価と今後の課題の明確化を行っている。さらに、臨地実習に関わる諸注意、各種書類、記録類等は実習要項にまとめられ、学生、臨地実習施設、教員で共有する。臨地実習の各期における看護学実習の進めかたは図2-5-1の通りであり、学生による関連法規や守秘義務の遵守、事故発生時の対応についての指導監督についてあらかじめ協議し、その確認を行っている。個人情報保護に基づくプライバシーの保護、守秘義務の遵守に関する指導は、ガイドラインを作成し、CAMPUS HAND BOOK、実習共通要項に掲載し周知を図るとともに、学生に誓約書を提出させている。

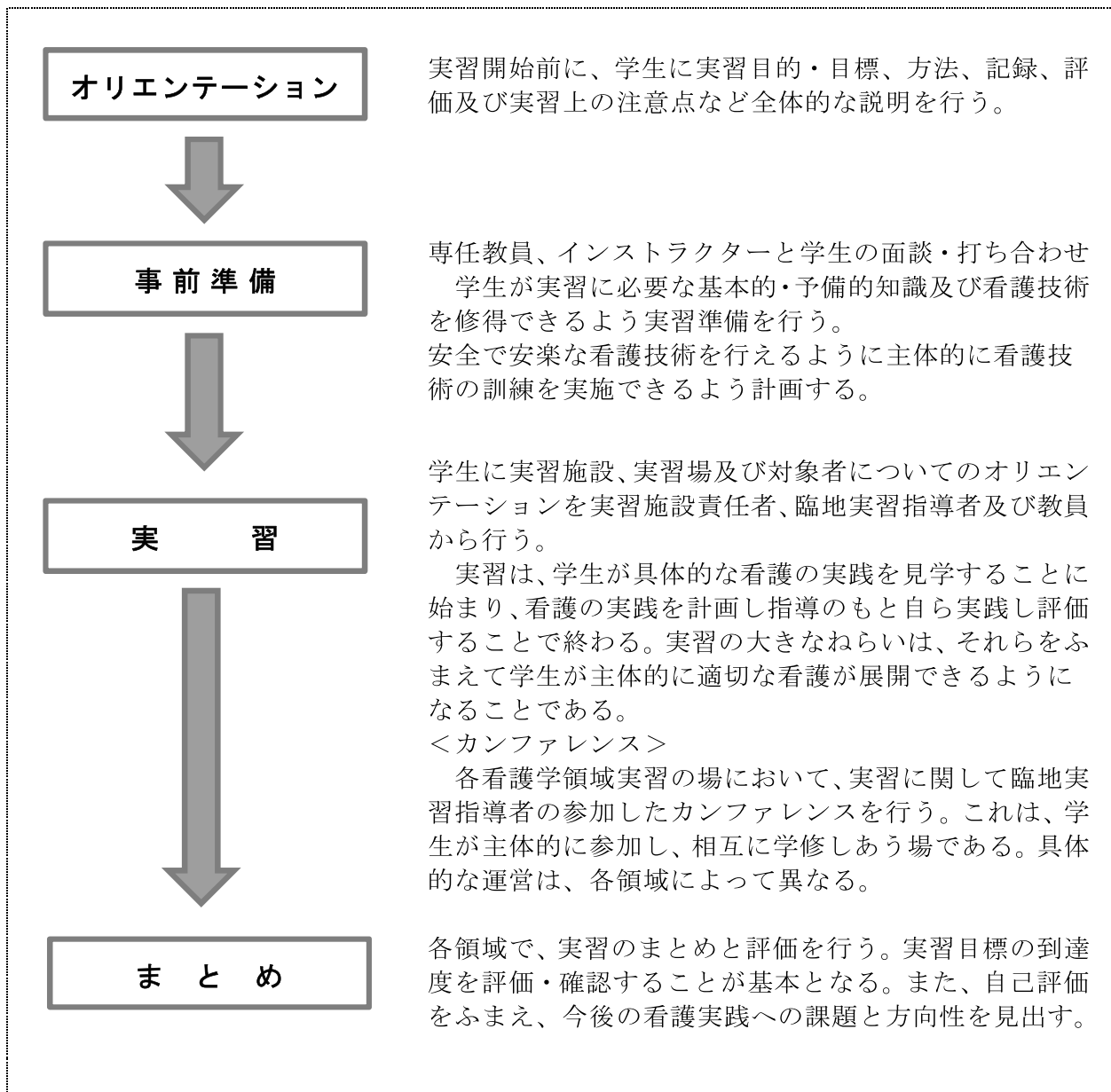


図2-5-1 看護学実習の進め方

○リハビリテーション学科

リハビリテーション学科では、臨床実習の実施に際し、臨床実習施設と本学の情報交換・連携を図れる体制をとっている。臨床実習施設で指導を担当する指導者（以下「臨床実習指導者」という）は、臨床経験3年以上の有資格者である。大学教員は巡回指導を実施し、臨床実習指導者と実習中の学生の実習進捗状況や学修上の課題を共有し、臨床実習が円滑に進むようにサポートする。臨床実習指導者は、臨床実習期間中の実践責任者であり、巡回指導の大学教員と協力して臨床実習指導を行う。

臨床実習指導者に対し、臨床実習方法などをテーマにした講習会・研修会を開催し、指導の質向上を図っている。

また、臨床実習施設とは、会議を開催し臨床実習マニュアルに基づき、実習に関する情報と意見交換を行う。教育・研究における交流も実施し、大学・臨床実習施設における共同研究を推進することでレベルアップを図っている。

さらに、臨床実習の流れは、先に図2-5-1に示した「看護学実習の進め方」と概ね同様であるが、実習前教育として、臨床実習に必要な学修のみではなく、臨床能力を確認するために判断力・技術力・マナー等実際に臨床で必要とされる臨床能力についても修得状況を評価し、指導に生かしている。臨床実習後教育として各学生の課題達成度を明らかにし、実習での実践過程の共有化を図り、より高い教育効果を得るために実習報告会を開催している。この報告会は大学教員と学生がそれぞれの認識や課題について検討する機会として有益である。

○診療放射線学科

診療放射線学科は、臨床実習の実施に際し、臨床実習施設と本学の情報交換・連携を図れる体制をとっている。巡回指導の担当は、臨床実習Ⅰは専任教員全員が担当し、臨床実習Ⅱは診療放射線技師免許を有する専任教員が担当し実施している。

巡回の体制は、臨床実習施設を各地区（地域）に分けて巡回指導教員を配置し、臨床実習施設と調整の上、巡回指導を行う。札幌市内は、専任教員が1から2ヵ所の臨床実習施設を巡回する。遠隔地にある臨床実習施設の場合、専任教員は、1泊2日もしくは2泊3日の日程で各地区（地域）内の複数の臨床実習施設を巡回する。巡回の日程は、専任教員の担当授業科目の合間や時間調整により臨床実習期間中の2から3週間の間で実施するため、当該教員が他の学年の授業科目の講義などを持つ場合も教育研究に支障なく実施することができる。巡回指導では、専任教員は学生と面談し学生状況を確認して、必要な指導、助言を行う。また、臨床実習施設の臨床実習指導者及びスタッフと意見交換を行い、臨床実習に関する問題点等について現場の意見を収集する。さらに、巡回を担当する専任教員は、臨床実習指導者と電子メール等を利用して情報交換ができる体制をとり、情報交換している。臨床実習指導者は、臨床経験5年以上の有資格者である。臨床実習先との連携体制強化のため、臨床実習指導者会議を開催している。

臨床実習の流れは、先に図2-5-1に示した「看護学実習の進め方」と概ね同様であるが、実習前教育として、臨床実習に必要な学修のみではなく、態度・連絡・報告・相談等の方法を指導している。さらに、実習を行う撮影、検査、治療の目的や方法について実践を踏まえた演習や講義を行い、円滑な実習進行を図っている。

6) 臨地（臨床）実習指導の評価について

○看護学科

看護学科では、各看護学領域の実習要項に成績評価表を示し、学生、臨地実習施設、教員が共有している。学生には、臨地実習オリエンテーションにおいて説明し、臨地実習施設には臨地実習前打ち合わせにおいて説明している。看護学実習の成績評価は、各科目を担当する教授、准教授、講師及び助教が実習成績評価を行い、最終的に、科目責任者が成績を決定する。実習成績評価にあつ

ては、実習の目的・目標に照らして、学生の学修の成果と学修到達度を判定するため、実習記録、実習レポートなどを基に、臨地での実践状況や看護の実践過程における学びなどについて、担当した助手、インストラクター及び臨地実習指導者から情報を得る。そのうえで、学生の自己評価と専任教員の評価をあわせて、学生と面談し、最終的な実習成績評価とする。

また、学生は毎日の行動計画・振り返り記録を記載して日々の臨地実習の振り返りを行っている。インストラクターが毎日コメントすることによって日々の学修を深めており、この記録も評価の一部となっている。さらに、看護技術チェックリストを各看護学実習で記録し、看護技術習得・到達状況を学生、教員が共有でき、さらに学生のレディネスとしてインストラクターも確認することができる。

○リハビリテーション学科

臨床実習指導の評価は、各臨床実習に応じた達成度評価表を示し、学生、実習指導者、教員が共有している。学生には実習オリエンテーションにて説明し、臨床実習指導者には指導者会議において説明している。臨床実習の成績評価は、臨床実習科目責任者の責任のもと、評価基準により総合的に評価する。臨床実習中、学生は毎日の実習内容を記録したデイリーノート、担当患者の経過を記録したケースノートを作成しており、毎日臨床実習指導者からコメントを得て、日々の学修を深めている。評価にあたっては、この記録内容及び臨床実習指導者、巡回を担当した教員からの報告、学生の実習報告会での内容などを合わせ、総合的に評価している。

○診療放射線学科

臨床実習指導の評価は、実習科目担当者が責任を負う。評価は、臨床実習指導者からの報告、巡回を担当した教員からの報告、学生の実習日報、終了時の報告会等を合わせ、評価基準により総合的に評価する。

2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

真栄キャンパスの校舎の入り口は、段差をなくすなどバリアフリーに配慮している。また、エレベーターを設置（真栄キャンパス）して車いす利用者等への配慮している。

恵み野キャンパスの校舎は、玄関にスロープを設置しバリアフリーに配慮している。

2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理

授業実施にあたっては、教育効果を高めるために、講義、演習、実習・実験などの講義形態に則し、複数の教員が分担し少人数グループを指導する形態が多く組み入れられている。また、各授業は、学科・専攻・学年で実施するものがほとんどである。

看護学科では、平成30(2018)年度までのクラスサイズは80人前後で推移していた。平成31(2019)年度から、収容定員の変更を行い、入学定員が80人から100人と増員したため、クラスサイズは80人から100人前後となった。講義におけるクラスサイズは、80人から100人前後である。基礎教育科

目の「日本語表現」や「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「中国語」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、クラスサイズを40人から50人前後としている。特に、入学後間もなく実施される導入科目「看護を知る」、看護専門職としての知識・技術・態度を統合し、思考過程を重視する「看護研究演習」のクラスサイズは6人前後であり、少人数での指導で教育効果を高める努力をしている。また、看護学実習（小児看護学幼稚園実習以外の看護学実習）のクラスサイズは2人から4人とし、臨地実習指導者及び実習指導教員・大学教員それぞれが最大限の教育効果を高める配置としている。きめ細やかな指導を可能にするためには、大学専任教員の定着・増員が不可欠である。大学専任教員の推移は、表2-5-14のとおりである。

表2-5-14 看護学科専任教員の推移 (単位:人)

看護学科	収容定員	教授	准教授	講師	助教	合計	助手
平成29(2017)年度	320	9	7	7	2	25	4
平成30(2018)年度	320	11	2	6	6	25	2
平成31(2019)年度	340	14	3	3	7	27	3

リハビリテーション学科の理学療法学専攻及び作業療法学専攻では、基礎教育科目と専門基礎教育科目の共通科目のうち、「日本語表現」、「英語Ⅰ」、「中国語」などの語学系演習科目と一部の演習科目を除き、合同講義を実施している。また、専門科目のうち「共通・連携科目」でも合同講義となっている。それらの平成27(2015)年度から平成30(2018)年度までのクラスサイズは、50人から60人前後で推移している。各専攻単位で実施される授業のクラスサイズは、理学療法学専攻は30人から40人前後、作業療法学専攻は20人前後である。

診療放射線学科は平成28(2016)年度に開設し、完成年度を迎えた。各学年のクラスサイズは、平成28(2016)から平成30(2018)年度において1、2学年が52人から58人、3学年が43人弱のクラスサイズで授業を実施している。

診療放射線学科の開設に伴い基礎教育科目の一部が看護学科と診療放射線学科の合同講義となった。必修科目「心理学」、「公衆衛生〔平成30(2018)年度から合同講義〕」が130人から150人前後とクラスサイズがやや大きくなっている。選択科目の合同講義では、それぞれの年度や科目により、43人から140人前後とクラスサイズに幅がある。

各学科とも専門基礎教育科目、専門教育科目の学内での演習、実習・実験では、授業科目や内容によりグループワークを取り入れ、5人から7人の少人数グループを複数の教員が分担して指導を行っている。また、看護学科「看護研究演習」「看護ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」や、リハビリテーション学科共通・連携科目「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」などのゼミナール方式の科目や、選択科目ではあるが診療放射線学科の演習科目についても、教員1人につき4から6人の学生を担当しており、実質的に少人数対応となっている。

平成28(2016)年度以降、看護学科、リハビリテーション学科では、選択科目で、履修者数が5人以下となる科目があるが、本学では開講制限は実施しておらず、少人数での授業を行っている。

2-6. 学生の意見・要望への対応

2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

授業に関する満足度、理解度を学生アンケートでは尋ねているが、授業の改善に関しては、学生アンケートからは課題を探ることは困難であるため、授業評価を通して各科目担当者の改善や教務委員会での検討が行われている。

学生は勉学や将来の進路に不安を示しているが、この点の対応としてはキャリア学修支援センターが設置され、自己診断テストを実施し、数学の学力が低下している学生に対して平成30（2018）年度からリメディアル教育を実施、国家試験の受験のための模擬試験の実施や、日々の学修支援を行っている。

[1] 図書館の利用時間の改善に関する学生への意見・要望についての対応

本学では図書館の利用時間は、開学時9時00分から19時00分までであったが、学生からの要望もあって、図書館の開館時間の延長を検討することとなり、学生の意見をアンケート項目に追加して集計した。図書館の開館時間の延長を望む声は29.0%であったが、延長を希望する学生がいるのであればその学生の利益のために図書館開館時間の変更をすることとし、利用時間の延長に合わせて夜間の無料バスの運行も実施することになった。現在、図書館の利用時間は真栄キャンパスが9時00分から20時30分まで、恵み野キャンパスが9時00分から19時00分までとし、真栄キャンパスでは合わせて自習室等の使用も20時30分まで、最終の無料バスの運行は21時30分となっている。国家資格試験の勉強が近づく時期には学生の利用率が高まっている。

2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析の検討結果の活用

健康相談に関して真栄キャンパスにおいては、保健室の位置が体育館に行く経路にあるため、学生の認知度も高く、日常的なケガや体調不良等の不具合での利用が多い。恵み野キャンパスにおいては、1号館1階に保健室を設置し、学修支援室への経路にあるため、認知度は高く、日常的に利用されている。また、入学時前の個人票に既往症や治療、服薬等の記入を求めているため、そのデータは学生が所属する学科の学科長を通して学担予定の教員に知らされる。学担は入学後の個人面談時に本人の現在の様子を聞き取り、学科での情報の共有が必要である場合は、学生の許可を得て学担の連絡会議や学科会議等で他の教員に開示される。

心理的な問題に関する相談は、学担や他の教員のオフィスアワーを通じてまずは行われ、学科で対応することで解決が図られる可能性のある案件は学生の許可を得て、学担同士で、あるいは学科全体で対応策を練り、実施する。個別の対応も工夫するが、学年でホームルームを開き、解決に向けた啓発等を行う。デートDVやキャンパス・ハラスメントに関しては、教職員に相談があった時点で、ハラスメント相談員への相談を勧め、相談員はそれがハラスメント関連である場合は、ハラスメント防止委員会への苦情の申し立ての可能性に関して説明をする。委員会は申し立てを受理すると調査委員会を組織し、調査を開始することになるが、開学以来平成30（2018）年度末までに正

式な申し立ては0件であった。また、教職員に対する人権侵害の申し立ては、本学の顧問弁護士がその委員に名を連ねる人権擁護委員会に対して行われる。教職員間の人権侵害の申し立てはこれまでに1件あり、規定に則った調査委員会の設置と調査、人権擁護委員会への報告書の提出、これを受けての人権侵害の有無に関する判断がなされ、結果は法人理事長に報告された。結果を受けて法人としての対応が現在進行している。こちらも学生からの申し立ては0件である。

以上の相談、対応の流れはすべて教員があたるため、相談内容や対応は情報が複数の教員に共有されることになる。大学や学科の対応を必要としない心理相談に関しては学生相談室の臨床心理士が対応することになっている。

経済的支援をはじめとする学生生活に関する支援は、情報の提供や手続きの指導を学生委員会が行っている。学生アンケートではアルバイトの状況やその目的、保護者からの経済的支援の範囲、奨学金貸与に関する項目等で現状の把握に努めている。また、大学生活において何に不安を感じるかの選択肢の中にも「学費等の経済的な問題」を入れている。しかし、他の選択肢である「勉強」「国家資格試験」や「卒業後の進路」に比較すると経済的な問題への不安感は低い。学生はアルバイトの場所が大学の傍にはない環境であるため学業とアルバイトの両立に困難を感じている学生も多く、平成28（2016）年から学内バイトの設定と募集を学生委員会では試みている。職種は隣接する福祉施設の調理・配膳の助手であるが、現在3人の学生が授業の合間にアルバイトを実施している。

表2-6-1に示すように、本学の奨学金貸与率は年々高まっており、その一方でアルバイト率も非常に多くなっている。奨学金に関しては卒後の返済に関する悩みも聞かれるため、さらなる貸与を検討する学生には保護者懇談会において返済計画を立ててからにするよう助言をしている。また、アルバイトの需要が経済的に高まることは、長時間労働や低賃金での就労のリスクが高まることであり、学生委員会では所謂ブラックバイトへの警鐘やワーク・ルールに関する啓発を学生委員会セミナーや学生委員会からのお知らせ等で行っている。

表2-6-1 5年間の奨学金貸与とアルバイト率の変化

奨学金	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
奨学金貸与	38	48.1	119	54.8	226	54.7	320	59.9	388	61.9
アルバイト	35	44.3	124	57.1	257	62.2	365	68.4	466	74.3
	N=79		N=217		N=413		N=534		N=627	

学生生活のその他の支援に関しては、アンケートの結果を受けて以下のような具体的な対応を実施してきた。

[1] 学生の朝食欠食の対策

朝食を毎日きちんと食べて登校する学生は平成30（2018）年度の調査では59.7%である。朝食を食べる習慣づけ、及び自炊負担軽減のため、日本医療大学後援会の支援のもと平成29（2017）年に

学内社会実験として100円朝食の提供を開始した。好評を得たため平成30（2018）年にはメニューを掲示し期間を定めて提供したが、提供期間が終了しても学生の実習期間前に限定して提供を継続している。

[2] 学食の新メニューの開発

メニューに関する工夫を求める意見が多く、キャンパス内で焼き立てパンの販売を行うとともに、すし職人来てもらい安価で握りずしを提供する日を設けるなどのアイデアを実施した。また、毎年度末にメニューの再検討を実施している。さらに真栄キャンパスでは平成30（2018）年度から学食の提供時間を延長し、15時30分まで営業するようになった。

[3] 居場所作りについて

各学科が利用する棟に共同利用のスペースを設け、椅子や机の設置、飲食用の自動販売機、電子レンジ等を設置した。『自由文庫』もこの場所に移設した。真栄キャンパスでは、夏は学外の噴水の周りにガーデニング用の椅子やテーブルを設置し、学生同士の交流の場としている。

[4] 親元を離れて暮らす学生の増加について

表2-6-2において、現在、本学の学生は10人に4人が下宿や賃貸のアパート等で親元を離れて一人暮らしをしていることがわかる。特に恵み野キャンパスの学生は2人に1人と高率であり、学生の下宿やアパートは大学の徒歩圏内にある。一方、真栄キャンパスは徒歩圏内に下宿やアパートはないため、地下鉄の駅の近く等、大学からは離れた場所での一人暮らしをしている。学生には学生委員会が実施する安心・安全の講話等の受講を勧め、護身術や防犯対策等の安全管理に関する対応力の向上を指導しているが、一人暮らしの学生に関しては常に親元と連絡を取り合うことや、近くにある交番や病院の場所の確認を助言している。

表2-6-2 5年間の学生の一人暮らし率の変化

一人暮らし	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
真栄キャンパス	17	22.1	39	18.0	74	17.9	138	38.5	139	22.3
恵み野キャンパス	-	-	21	9.7	61	14.7	62	40.2	101	16.2
合計	17	22.1	60	27.6	135	35.0	200	39.1	240	38.5
	N=77		N=217		N=414		N=512		N=623	

[5] 大学へのアクセスについて

1) 無料送迎バス運行改善

真栄キャンパスでは、スクールバスを講義時間に合わせ運行しているが講義終了後に自己学修で大学に残った場合、帰宅のバスの便がない。そこで、隣接する介護老人保健施設の入居者、家族、

職員のために運行している送迎バス（シニアアクティブ運行、札幌市営地下鉄東豊線福住駅行、地下鉄東西線大谷地駅経由新札幌駅行）を事前申込制で学生が無料利用できるようにした。最終の便は、21時45分である。

さらに、申し込み不要の定期便として、平成30（2018）年6月から8月に試験運行を実施したところ利用学生がいたことから、平成30（2018）年度後期から定期運行を開始した。路線は、大学発札幌市営地下鉄東豊線福住駅行4便、大学発札幌市営地下鉄東西線大谷地駅経由新札幌駅行7便、大学発札幌市営地下鉄福住駅経由大谷地駅行1便、大学発札幌市営地下鉄東西線新札幌・大谷地駅経由福住駅行1便である。

2) 自動車通学、自転車通学について

表2-6-3に示すように、自動車通学を希望する学生は年々増加し、現在は11%の学生が自動車通学を行っている。安全講習会を年2回実施し、その受講生のみ、任意保険への加入を条件とし校内への自動車の乗り入れを許可している。駐車場に関しては、キャンパス内の駐車場を無料で使用することができる。

本学の学生は自転車での通学率も高く、36.6%が利用しているが、各キャンパスで対応は異なっている。住宅街を走るため恵み野キャンパスでは自転車の登録をし、その管理状態を定期的に確認している。真栄キャンパスでは登録制度は行っておらず、自転車の駐輪スペースを整備し、その場所において、学生自らに自転車の管理を個々で行わせている。

表2-6-3 5年間の自転車通学、自動車通学率の変化

通学形態	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
自転車通学	13	16.4	72	32.9	154	37.1	182	35.3	230	36.5
自動車通学	1	1.3	9	4.1	24	5.8	47	9.1	69	11.0
	N=79		N=219		N=415		N=515		N=628	

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

施設・環境に関しては学生アンケートで10項目の質問を実施しているが、主に学生生活に関する施設や学食に関する項目がほとんどで、その改善には様々な努めてきた。学修環境に関するアンケートは実習室や自習室に関する評価のみで、5段階で毎年評価を求めているが3点台の評価となっている。

学修環境に関しては記述式の回答においてコンピュータの設備や教室の音響設備に関する改善の要望が多く、これは修理等で対応している。また、真栄キャンパスでは自習室の整備の要望に対しては、20時30分まで延長し、個別に学修しやすい机の配置や机上の間仕切りを設置した。

学生からの評価が高い学修環境は実習関連の機器や施設となっている。

さらに平成30（2018）年度からは、学修環境のソフト面での支援として、人権擁護委員会の提案

で定期試験の合否は3日以内に、成績発表からは1週間以内に疑義申立てができる制度を整えた。評価に対する学生の納得を得るための取り組みであるが、疑義申し立てに対しては科目担当者との面談を人権擁護委員の立ち合いのもとで実施し、合否や成績の評価に間違いがないかの確認をしている。

3. 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

建学の精神や教育目標に基づき、3学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を策定し、大学ホームページ等で公表し、学生募集要項、SYLLABUSにも記載している。

SYLLABUSにおいては、令和元（2019）年度から、すべての科目についてのどのディプロマ・ポリシーに関連しているのかを明示し、科目レベルにおいても各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。

本学は、看護学科設置後5年が経過し、開学から1年ごとに新学科を増設した経緯があり、旧ディプロマ・ポリシーに沿った教育を展開してきた。しかし、開学4年を経過した平成30（2018）年から建学の精神などと三つのポリシーを、改めて全面的に見直す必要性が生じてきた。策定前の課題として、全学の統一的な方針が不明確で、学科ごとにポリシーを策定していたこと、学生が修得すべき資質・能力の目標が不明確であったこと、抽象的な記述であることなどが学内での重要な論点となっていた。したがって、三つのポリシーを同時に検討し、ディプロマ・ポリシーを軸として整合的に構築することになった。

平成30（2018）年度6月から10月にかけて、学長のリーダーシップのもと、各学科長を構成員とする運営会議を中心に三つのポリシーの見直しの原案を作成した。原案は学科会議にて協議し、修正を経て、最終的に教授会において検討を重ねて了承している。各学科の新しいディプロマ・ポリシーは学科の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定め、学生の学修成果の具体的な目標となる内容とした。

それに伴い、カリキュラム委員会において、カリキュラム委員会委員長のもと、ディプロマ・ポリシーと教育課程編成・実施の方針の対応関係を示したカリキュラムマップの原案を作成し、各学科において検討を重ねた。平成30（2018）年12月に開催した教授会においてカリキュラムマップが提示され、ディプロマ・ポリシーと教育課程との整合性・一貫性を確認している。

本学の建学の精神は、平成30（2018）年度から変更している。平成29（2017）年度以前の建学の精神は「ヒューマニティ（人間尊重、人間愛）に育まれる『人間力』」であったが、平成30（2018）年度から「共生社会の実現」に見直している。平成29（2017）年度以前の入学生に対しては、4月当初に行っている在校生ガイダンスにおいて、CAMPUS HAND BOOKの冒頭に記載されている建学の精神を変更した旨、内容を説明し周知を図った。

また、本学は、完成年度を経た学科から、ディプロマ・ポリシーの具現化を念頭に、継続的にカリキュラムの見直しを行い、カリキュラム改編を通して、年次別の履修科目の適正化を図っている。

なお、看護学科は平成30（2018）年度、リハビリテーション学科は令和元（2019）年度から新たな教育課程での講義を実施している。

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

単位認定、進級及び卒業認定の基準については、学則で規定しディプロマ・ポリシーに基づきSYLLABUS等で学生及び教職員に周知している。

各教科目の成績評価方法は、科目責任者によってSYLLABUSに明記し、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用している。令和元（2019）年度のSYLLABUSには、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。また、SYLLABUSには、科目ごとの具体的な評価方法や配点を明記している。評価については、SYLLABUSに明記されている客観的な基準に従い、公正かつ厳正に評価を行っている。

これらの内容と履修上の注意点は、各学年のオリエンテーションにて学生への周知徹底を図っている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議し、教授会に意見を求め学長が認定している。なお、本学の成績表記は、表3-1-1のとおりである。

表3-1-1 成績評価

成績評価	評点（点）	単位付与
A A（秀）	90-100	合格
A（優）	80-89	
B（良）	70-79	
C（可）	60-69	
D（不可）	59以下	不合格

履修登録の際には、学生は学担から個別に履修指導を受けた上で履修登録を行うとともに、学期開始後の面談を通して学担が学生の単位修得状況及び学修状況を確認し、単位修得の指導を行っている。また、単位修得の指導のみならず、進級、卒業に向けたきめ細かい指導を実施している。

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

単位認定、進級及び卒業認定は、学則に定められた基準に従って厳正に行っている。単位認定や成績評価は、学則第27条（単位数の計算方法）、第28条（試験）、第29条（成績の評価）に規定している。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第30条、第31条に規定されている。卒業や学位の授与についても同第32条、第33条に示されている。また、学則第26条、第28条第2項、第30条及び第31条の規定に基づき、履修規程を別に定めている。

履修規程には、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点）、単位授与、進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等を示している。

本学は、看護学科、リハビリテーション学科及び診療放射線学科ともに医療専門職者の養成を目指し、その教育課程が文部科学省令及び厚生労働省令等で定められており、所定の内容に従い学年別の授業科目数の配分を適切に設定している。

本学における履修は、日々の学修の積み重ねが重要であるとしている。成績評価については、GPA制度による総合成績評価を導入している。GPAは、学期ごと、年度ごとに通算の値を算出している。CAMPUS HAND BOOKにその説明を記載し、成績票に表示して学修評価の参考となるようにしている。また、GPAは、奨学金制度の適用、成績優秀者を選定する際の参考資料、また進路指導等に有効に用いている。本件は、履修規程第6章第17条第1項、第2項やCAMPUS HAND BOOKに記載している。

また、各学科で履修の上限単位（CAP）を設け、1年間に履修できる授業単位を制限することで、1単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化を図っている。本件は、履修規程第3章第4条第2項をCAMPUS HAND BOOKに記載している。

進級要件は、履修規程第7章第19条の進級要件により、(1)～(4)のように定められている。

- (1) 1年次から2年次への進級
- (2) 2年次から3年次への進級
- (3) 3年次から4年次への進級
- (4) 「基礎教育科目の選択科目」

卒業要件は、本学学則第32条（卒業）に、「本学に4年以上在学し、別表第2に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

看護学科、リハビリテーション学科及び診療放射線学科の卒業要件は、表3-1-2のとおりである。

学 科	看 護	リハビリテーション	診療放射線
必 修	103	50	102
選 択	21	74	24
合 計	124	124	126

他の大学等における履修した単位の認定及び単位数の上限については、学則第30条、第31条の定めにより、履修規程第9章第22条（他大学等の対象となる履修等）、第23条（他の大学との協議に基づく学生の履修等）、第24条（認定単位及びその上限）に規定され、「60単位を超えないものとする」と規定している。

また、学則第33条、第34条の定めにより、履修規程第8章に、資格取得のために必要な要件を規定している。

なお、進級・卒業要件の基準についてはCAMPUS HAND BOOK、SYLLABUS等に明示し、学生及び教職員に周知している。

成績結果については、学期毎（9月と3月）に保護者と学生に通知しており、平成30（2018）年

度から成績についての「疑義申し立て」を制度化している。

3-2 教育課程及び教授方法

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

平成30（2018）年度、学長のリーダーシップの下、運営会議にて三つのポリシーの見直しの原案を作成し、原案は学科会議にて協議し、最終的に教授会において意見を求め、検討を重ね、新たな三つのポリシーを策定した。

各学科の新しいカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を示す内容とした。カリキュラム・ポリシーは、大学ホームページ、学生募集要項、SYLLABUS等で公表している。

各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はSYLLABUSに掲載し学生に周知している。

看護学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を教授する」である。

看護を実践の科学として位置づけ、「人間」「環境」「健康」「看護」の四つの基本概念からなる教科目でカリキュラムを構成している。看護学は、人がよりよく生きることを支える実践科学である。人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人びとの健康の保持・増進と健康障がいを持つ人びとへの生活を支援する看護師に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感受性のもとで『人間を尊重する態度と高い倫理観』を修得し、『他者への共感的理解と人間関係形成能力』や『多様なチームとの連携・協働力』そして『科学的思考と問題解決能力』を育むとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての知識・技術・態度を教授する」ことを教育上の目的とし、理学療法士・作業療法士に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献することができるように構成している。

診療放射線学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技術の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する」である。

診療放射線学科のカリキュラムは、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教科目を配置している。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

各学科においては、日頃から運用カリキュラムの教育内容・方法の検討、学修指導の改善の検討に取り組んでいる。

カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性については、大学開設の平成26（2014）年度から完成の平成29（2017）年度に向けて全体評価をして、再検討した。平成30（2018）度、学長を中心に、三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーを一体的に策定した。その中でカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性についても検討している。

内容としては、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一体的で整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係をわかりやすく示すことであった。

ディプロマ・ポリシーを本学の教育によって「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質・能力を明確化し、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を具体的に示す内容とした。

さらに、カリキュラム委員会は、平成29（2017）年6月14日第5回教授会の承認を得て活動を開始している。カリキュラム委員会の構成員を中心としてカリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシーと科目の整合表）を策定し、平成30（2018）年12月12日第16回教授会にて提案され、各学科で検討された後、平成30（2018）年12月26日第17回教授会にて承認された。カリキュラム委員会では、学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、教養教育、専門教育、キャリア教育等の様々な観点から検討を行っている。また、カリキュラム・ポリシーを具体化し、可視化して共有するためのカリキュラムマップや履修系統図の活用を検討している。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

各学科の教育課程については、SYLLABUSにおいて、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進捗表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べている。各講義科目の内容や講義計画を示すSYLLABUSは、学生の主体的な学びを促すための重要なツールとなっている。

SYLLABUSについては、教務委員会により「SYLLABUS作成の手引き」を作成し、本学で開講される全ての講義について、SYLLABUSに記載する必要がある項目及び記載方法を示している。なお、SYLLABUSの書式は、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーと関連づけるような内容となっている。より良いSYLLABUSを整備する結果として、大学における教育の質を保証していくための改善に繋がるよう工夫している。

本学の教育課程は次のような授業科目の区分によって編成している。カリキュラムマップを整備し、授業科目区分は、「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」及び「専門教育科目」に分け、順序立てて履修できるように年次配当し、体系的編成を行っている。

看護学科では、平成30（2018）年度から新たな教育課程での講義を実施しており、基礎教育科目

を5領域(32教科目)、専門基礎教育科目を2領域(26教科目)、専門教育科目を3領域(55教科目)に区分し教科目を配置している。看護学科では基礎教育科目が他学科に比較して多くなっている。看護学学修の導入科目として「看護を知る」など、看護について考える問題意識の明確化を目的とした独自のカリキュラムを編成している。

リハビリテーション学科では、令和元(2019)年度から新たな教育課程での講義を実施しており、基礎教育科目を3領域(32教科目)、専門基礎教育科目を3領域(29教科目)に、専門教育科目を6領域(理学47教科目、作業42教科目)に区分し授業科目を配置している。

診療放射線学科では、基礎教育科目を3領域(27教科目)、専門基礎教育科目を3領域(33教科目)、専門教育科目を10領域(44教科目)に区分し授業科目を配置している。

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化を図るために、学年ごとに適切に学修できるように、履修登録科目数の上限単位であるキャップ制(CAP)を導入している。

3-2-④ 教養教育の実施

本学の教養教育は各学科においての共通科目と各学科の独自に必要な教養科目を「基礎教育科目」として設定している。医療従事者となる基礎的知識として、看護学科では「導入」「人間の理解」「人間と社会」「生活と情報」「語学」で構成されている。リハビリテーション学科及び診療放射線学科では、「科学的思考の基礎」「人間と生活」「語学」で構成されている。

基礎教育科目は単なる教養科目に留まるものではなく、系統的に学修できる構成となっており、その先には専門基礎教育科目及び専門教育科目につながるよう編成している。

本学では、教養科目に相当する「基礎教育科目」を重視し、4人の専任教員を中心に科目を担当している。4人の専任教員は、最初に設置された看護学科に所属し、3学科において科目を担当している。教養教育についての検討に関する全学方針を策定する委員会として一名がカリキュラム委員会に属し、学科横断的な視座から基礎教養科目の運用を図っている。その一環として、平成30(2018)年度には、科目名や開講時期等の統一化を図り、令和3(2021)年度のキャンパス統合に向けた準備を進めている。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち、専門性が高くなる前に基礎教育科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学修意欲の高揚を目的としている。

看護学科では、「看護ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」や「看護研究演習」において、1年次から4年次まで連続し展開する科目の中で、文献抄読やディスカッションなどを通し、問題解決につながる論理的思考プロセスと学修方法を学び、探求型課題解決学修能力を修得させる取り組みを実施している。

人数によっては、複数クラス制を採用し、少人数で効果的に学修ができるようにしている。一例として、看護学学修の導入科目である「看護を知る」では、「看護」に関連したテーマに沿って、学生が調べた内容をまとめ、意見交換を実施し、10人ごとの少人数グループでグループワークを通して学生が主体的に学ぶプロセスを複数の教員で指導している。看護は、チームワークが重要な要素である。看護に関心を高め、看護を主体的に学修する動機付けになっている。

リハビリテーション学科では、「理学療法学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「作業療法学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において、1年次から3年次まで連続し展開する科目の中で、主体的に課題を探求し、学修する手法を学び、探求型課題解決学修能力を修得させる取り組みを実施している。

診療放射線学科では、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組み課題を解決すること、並びに個性に応じて、多領域にわたり学問的興味や関心を持つことができることを目的に演習の時間を多くしている。また、グループワークなどのチーム学修を通して、何を調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を修得させる取り組みを実施している。

教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し視覚への強調を行っている教員が多い。FD研修会を通じて教授法の向上を図る試みが行われている。関係する内容としては、

- ① 平成28（2016）年度は「大人数クラス向けのActive Learningの仕方」
- ② 平成29（2017）年度は「魅力あるSYLLABUSの作成について」
- ③ 平成30（2018）年度は「三つのポリシーを基にした有機的なカリキュラム編成」

「パフォーマンス課題を評価するためのルーブリック評価入門」

である。原則全教員が参加し、グループワークを通し教員の教育能力を高めるための実践的方法について共有を図った。

さらに、非常勤科目を含む全科目において「授業アンケート」を定期的実施し、学生の授業内容や方法に関する要望を把握し、教員の教育内容・方法及び学修指導等の改善のために活用している。また、「学生の授業アンケート」とは別に、看護学科及びリハビリテーション学科では、「卒業生アンケート」を実施し、それによって授業の満足度、教員の指導方法、自分が身につけた能力、などの調査を行い、教育改善に向けて評価結果をフィードバックしている。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

表3-3-1に示すように、本学は、平成26（2014）年4月に開学し保健医療学部看護学科に85人の学生を迎えた。平成27（2015）年4月にはリハビリテーション学科に53人、平成28（2016）年4月には診療放射線学科に52人の入学生を迎えた。看護学科は、平成30（2018）年3月に69人、平成31（2019）年3月に68人の卒業生を送り出している。各学科の開学時に入学した学生が在学年限の4年間で卒業する割合は、看護学科が81.17%（平成26（2014）年度入学生）、80.95%（平成27（2015）年度入学生）、リハビリテーション学科理学療法学専攻で76.31%、同作業療法学専攻で86.66%となっ

ている。

表3-3-1 修業年限内の推移と卒業率

【看護学科】

(単位：人)

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	卒業率
平成26年度入学生	85	84	81	69	81.17 %
留年者	0	0	1	9	
退学者	0	1	2	3	
休学者	0	0	0	0	

【看護学科】

(単位：人)

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	卒業率
平成27年度入学生	84	80	78	68	80.95 %
留年者	0	3	1	9	
退学者	0	0	0	2	
休学者	0	0	0	1	

【リハビリテーション学科理学療法学専攻】

(単位：人)

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	卒業率
平成27年度入学生	38	35	31	29	76.31 %
留年者	1	0	2	0	
退学者	0	2	2	0	
休学者	0	0	0	2	

【リハビリテーション学科作業療法学専攻】

(単位：人)

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	卒業率
平成27年度入学生	15	14	13	13	86.66 %
留年者	0	0	1	0	
退学者	0	0	0	0	
休学者	0	1	0	2	

看護学科は、平成30（2018）年3月に4年間の学士課程を修了した一期生を社会に送り出したが、国家試験の受験資格を得た69人が看護師国家試験を受験し、68人が合格し、看護師資格を得ている。平成30（2018）年度卒業生69人は、就職を希望した67人のうち66人が医療・福祉の現場に、1人がその他のサービス業に就職し、残りの2人は他大学の大学院に進学した。

看護学科では、初の卒業生を送り出すに際して、平成30（2018）年1月に看護学教育モデルコアカリキュラムで示された「学士課程版看護実践能力と到達目標」を参考に作成した卒業時教育目標達成度と学習成果アンケートを4年次生と看護学科専任教員の双方に向けて実施している。

また、看護学科専任教員に向けて平成29（2017）年度に実施した授業の目標到達度と今後の課題を明らかにするための「看護学科科目評価」を実施している。

本学のキャリア学修支援センターでは、看護学科を卒業した卒業生に向け、平成30（2018）年12

月に、卒業生の現状を把握し本学の提供する就職支援の成果・効果を分析するため、アンケート調査を実施、回収し結果を集計中である。このような卒業生調査は、次年度以降も継続的に実施する予定である。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

3-3-①の最終段落で述べたように、看護学科では、4年次の卒業を前にした学生と専任教員を対象に卒業時教育目標達成度と学習成果アンケートを実施している。専任教員の回答からは、「対象の理解」のうち人体の構造と機能についての理解が、「慢性的な変化にある対象の看護」のうち必要な治療を継続できるようなソーシャルサポートについての理解が、「終末期にある対象への看護」のうち死の受容過程を理解しその人らしく過ごせる支援方法の理解が、到達度の低い項目として挙げられている。これらの結果は、学科会議で報告し共有するとともに、学科内組織であるカリキュラム検討会で、包括的にカリキュラム構成と内容を点検する視点からカリキュラム改訂を計画することで改善しようとしている。

また、同じく看護学科では、授業の目標到達度と今後の課題を専任教員自らが明らかにする「科目評価」を年度末に実施している。この科目評価は、専任教員全員分を一冊にまとめ、学科内教員で評価結果を共有している。このように結果を還元することで、専任教員が担当する科目の目標への到達を意識し、不十分な点が課題として認識され学修指導の改善に繋がることが期待されている。

リハビリテーション学科では、平成29（2017）年度に各科目担当者による「科目評価」を実施し、その結果を踏まえ、平成30（2018）年度にカリキュラム改訂を行った。その改訂に基づき令和元（2019）年度から新カリキュラムを実施している。今後も、科目担当者による「科目評価」と卒業生に対する「到達度アンケート」の結果を踏まえ、カリキュラムの見直しを検討し、学修指導の改善を試みたい。

診療放射線学科では、令和元（2019）年度の完成年度を迎え、カリキュラムの検証を予定している。

4. 教員・職員

4-1. 教学マネジメントの機能性

4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

大学の意思決定について学長は、「日本医療大学学則」第40条の2に「校務をつかさどり、所属する職員を統督する」と規定している。

学長が判断を適正に行いリーダーシップを発揮するための補佐体制として、組織規程第6条に基づき学長のガバナンスの強化、本学の意思決定及び本学運営の円滑化を図ることを目的に「運営会議」を設置している。

運営会議は、運営会議規程第2条の規定に基づき、本学運営に関する企画立案及び学内の意見調整、理事会に要望する事項、教授会に諮問する事項、その他本学運営に関する事項について審議し、必要な業務を行っている。会議は、学長、(学部長)*、学科長、事務局長で構成し、学長が招集し議長となり月2回開催している。※現在、学部長は学長が兼務している。

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築

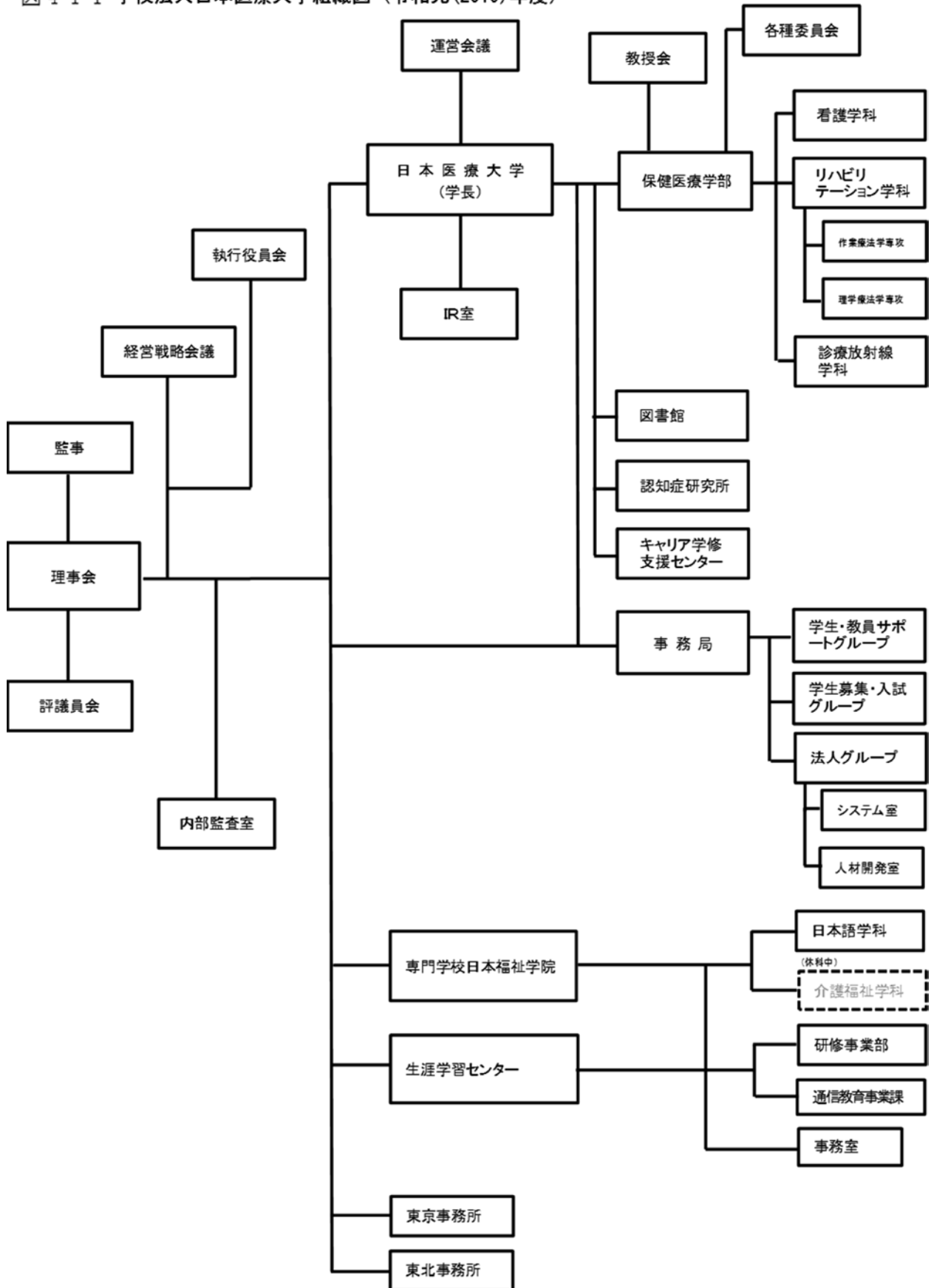
使命・目的の達成のため、権限の適切な分散と責任の明確化に配慮し、学校法人日本医療大学組織規程、学校法人日本医療大学事務組織規程、学校法人日本医療大学事務分掌細則、学校法人日本医療大学職務権限規程、学校法人日本医療大学運営会議規程、日本医療大学教授会規程等の諸規程を整備している。

学長は、教授会規程に基づき学位の授与、卒業及び課程の修了、学生の入学、その他教学に関する重要事項等の決定に際しては、教授会に意見を求めて決定している。

教学マネジメントを支える基盤の一つとして、学長の下に、本学の教育、研究、その他諸活動に関する学内外の情報やデータ等を収集及び分析し、本学の運営のための計画策定、政策決定等を支援することを目的にIR室を設置した。令和元（2019）年度から本格的に活動する。

学生の表彰及び懲罰に関する事項については、それぞれ学生の表彰に関する規程、学生の懲戒に関する規程を整備している。

図 4-1-1 学校法人日本医療大学組織図（令和元(2019)年度）



4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性

使命・目的達成のため、学校法人日本医療大学組織規程、学校法人日本医療大学事務組織規程、事務分掌細則等の諸規程に基づき、事務体制を構築し、適切に機能している。

本学の事務職員数は、41人〔令和元年（2019）5月1日現在〕であり、事務職員の採用は、就業規則に基づき理事長が行っており、各部署の業務内容及び業務量に応じ、職員の年齢、キャリア、能力等を勘案し、図4-1-1の通り適材適所に配置している。

4-2. 教員の配置・職能開発等

4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置

教員の採用及び昇任は、日本医療大学教員任用規程及び日本医療大学教員の採用に関する細則に従い、教員選考委員会規程により人格、健康、教育研究上の経歴及び研究業績などを考慮して選考することとしている。募集方法は原則公募としている。

専任教員数は、大学設置基準第13条及び各職業資格関連の指定基準の規程に定められた必要な専任教員数を確保している。

4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

本学では、教育及び授業の改善、教員の研修、教員の資質・能力向上を目指してFD委員会が組織されている。FD委員会では、全学的なFD関連事項を決定し、本学教職員の教育・研究活動の向上や活性化を目指して、研修の実施とその見直しを行っている。

FD委員会は各学科代表者11人で組織し、研修会の企画運営や授業評価等の会議を実施している。本委員会では、教育内容を改善するために、主に、教員の研修会又は講演会、教員に対する学生による授業評価アンケートを実施し、改善計画を行っている。これらの詳細については、年度毎にFD委員会活動報告書としてまとめている。

FD研修会については、学内で年に1回、学外主催の研修会に本学教職員が年に1回参加している。平成30（2018）年度の学内研修会には47人が参加した。

教員に対する学生による授業評価アンケートについては、平成30（2018）年度前期161科目、平成29（2017）年度後期146科目について実施した。実施率は前期・後期ともに100%であった。それとともに、学生による授業評価をクロス集計し、各教員、学科長（学科）に周知し、改善資料として活用を促している。

各教員は、学生による授業評価のコメントに対して、回答や改善を行っている。その結果は、学内の図書館等に掲示し、学生に対して公開している。

FD研修等、研修会・講演会への参加、授業評価による改善点の把握をとおして、教育の流れや動向について理解を深めるとともに、教育への意欲付けや授業改善等において、教員の資質・能力の向上に効果が現れている。

4-3. 職員の研修

4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築、強化及び大学の管理運営機能強化並びに教育研究機能の活性化が重要課題となってきた。こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のために、SDとして、学内研修を毎月1回定期的に「事務局連絡会」として開催し、若手職員の資料作成やプレゼンテーション能力等の育成の機会としている。

また、大学職員としての資質・能力、専門性の向上及び業務の効率化等を図るため、北海道地区FD・SD推進協議会に加入し、情報を収集するとともに、私立大学協会北海道支部が開催する研修会を告知し、積極的な参加を呼び掛けている。

また、事務職員の人事評価制度を導入し、「職員の意欲や能力の向上」、「組織の活性化」及び「効率的な業務運営」を図っている。個人の業務目標の設定、評価者による個人面談を通じて、職員のモチベーションを向上させ、人材育成に努めている。

日本私立大学協会及び日本私立大学協会北海道支部等の研修会に下記のとおり参加させた。

- ① 日本私立大学協会の全国研修会
 - ・平成30(2018)年10月09日～11日(浜松市)
教務部課長相当者研修会(西山 徹)
 - ・平成30(2018)年11月14日～16日(郡山市)
就職部課長相当者相当者研修会(萬 智恵美)
- ② 日本私立大学協会北海道支部の研修会
 - ・平成30(2018)年06月07日～08日(札幌市)
初任者研修会(伊藤 拓海、藤田 健児)
 - ・平成30(2018)年06月21日～22日(札幌市)
中堅実務者研修会(田中 まゆみ)
 - ・平成30(2018)年07月12日～13日(札幌市)
中堅指導者研修会(遠藤 知恵)
 - ・平成30(2018)年10月26日(札幌市)
教務事務実務担当者研修会(千葉 なな子)
- ③ 日本学生支援機構(JASSO)の研修会
 - ・平成30(2018)年12月14日(東京都)
学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー(高橋 光彦)

4-4. 研究支援

4-4-① 研究環境の整備と適正な運営・管理

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」〔平成19(2007)

年2月15日文科科学大臣決定、平成26（2014）年2月18日改正〕及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」〔平成26（2014）年8月26日文科科学大臣決定〕に基づき、「日本医療大学における競争的資金等の不正防止に関する基本方針」を策定し、科学研究費補助金をはじめとする競争的資金等の適正な管理・運営及び不正防止のための取り組み、環境の整備、関係規程を整備した。

4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

本学では、学術研究倫理に関し研究倫理委員会規程、取扱規程、研究活動行動規範を制定し、研究活動に係わる倫理意識の向上に取り組んでいる。

研究倫理委員会規程には、組織及び運営に関し必要な事項を定めている。また、倫理審査申請から承認までの流れを示した手引きを作成している。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正を受け、本学でも研究活動上の不正行為の防止と不正行為の疑惑が生じた場合に適正な対応を行うことを目的として、取扱規程整備を行った。また、学術研究の信頼性と公平性の確保を目的とした研究活動上の基本的な倫理指針として、研究活動行動規範を制定した。

本学では、これまで「研究倫理研修会」・「コンプライアンス研修会」を平成27（2015）年、平成28（2016）年と2年連続して開催した。平成29（2017）・30（2018）年は、研究倫理教育教材として、日本学術振興会による、「科学の健全な発展のために誠実な科学者の心得」（Green Book）、またはGreen Bookを基にしたe-Learning「研究倫理eラーニングコース（e-Learning Course on Research Ethics）」を受講した。このことは、所属する全教員に受講を義務づけている。なお、履修記録簿（研究倫理講習受講台帳）の方法で、研究倫理教育の履修状況を把握している。

学部学生については、卒業研究に係る研究倫理指針を示し、卒業研究の一部に組み込み、講義の中において研究倫理教育を実施している。

研究活動における不正行為への対応に当たり、「日本医療大学における研究データの保存等に関するガイドライン」を策定し、研究データの保存と開示の義務について周知している。このガイドラインでは、本学において研究活動に携わる者に対して、実験・観察ノート等の記録媒体、収集した調査データなど関係書類一式を一定期間保管し必要に応じて開示することを定め、研究活動に係る資料の適切な保管に努めている。

4-4-③ 研究活動への資源の配分

本学では、専門分野における専任教員の教育研究向上に資するため研究費（個人研究費、学術助成費及び教育向上研究費）が交付される。

本学に設置する日本医療大学研究費審査委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定めている。

本学の学術助成費及び教育向上研究費の交付は研究代表者から提出された計画調書を研究費審査委員会が審査し交付を決定する。

5. 経営・管理と財務

5-1. 経営の規律と誠実性

5-1-① 経営の規律と誠実性の維持

5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

本法人は、建学の精神を「共生社会の実現」とし、寄付行為第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする。」と定めている。また、この目的を達成するため、必要な組織を設置し、組織を適切に運営するための諸規程を定め、規律ある堅実な経営を行っている。

教職員に対しては、就業規則及び賞罰規程において服務規律、懲戒事由を明示し、法令及び関係規程等を遵守し業務を行うことを義務付けている。

会計処理は、新会計基準に則って行われている。財務会計は、経理規程、経理規程取扱細則、授業料等取扱規程、授業料等取扱に関する細則、寄附受入規程、固定資産及び物品管理規程、資産運用規程を整備し、適切に遂行している。

組織の倫理については、ハラスメントの防止等に関する規程、公益通報者保護規程、個人情報の保護に関する規程等を整備し、また、本学に研究倫理委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、ハラスメント防止委員会を設置して、教職員に遵守させている。

その他、教育研究活動等の状況及び財務情報についての情報をホームページで公表している。

5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮

本学の真栄キャンパスは、市街化調整区域に立地しているため、札幌市の「市街化調整区域の保全と活用の方針」に従い良好な自然環境の保全に努め、建築物及び工作物の設置、宅地造成、土地開墾など制限を行い、樹木地を保全している。また、真栄キャンパス及び恵み野キャンパスにおいて、開学時からクールビズを実施しているほか、節電や節水等注意喚起のポスターを校舎の各所に貼付するなど、本学全体の省エネ意識の向上に努めている。

人権については、ハラスメントの防止等に関する規程を制定するとともに、本学に人権擁護委員会、ハラスメント防止委員会を設置し、相談員を配置して学生及び教職員に周知している。

本学では、火災、地震その他の災害の予防及び人命の安全並びに防止を図ることを目的に、消防計画、危機管理マニュアルを定め、毎年春期に教職員及び学生全員を対象に避難訓練を実施している。また、平成30（2018）年9月の北海道胆振東部地震を契機に各キャンパスに災害用食品の備蓄を行っている。

5-2. 理事会の機能

5-2-① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性

使命・目的の達成に向けて意思決定ができるよう「学校法人日本医療大学寄付行為」に基づき、理事会、評議員会を設置している。理事会は寄付行為第7条に規定する選任区分に従い選任された

理事6人によって構成され、理事長が議長となり運営している。平成30年（2018）度は年5回（定例4回、臨時1回）開催し、理事の出席率は96.6%であった。

監事は、寄付行為第9条の規定に従い2人が選任され、寄付行為第18条に掲げる職務を行い、理事会に出席して意見を述べる。

外部の役員として、理事には企業経営者、監事には司法書士と公認会計士（計3人）を選任しており、高い見識と幅広い経験により本法人の使命と目的の達成のため適切な運営を行うための体制を整えている。

評議員は、寄附行為第26条に規定する選任区分に従い選任された評議員13人によって構成され、評議員の互選により議長を決し運営している。

その他、理事会に付議される事項について書面をもって、あらかじめ意思を表示した理事は出席者と見なすこととしている。

5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック

5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

平成30（2018）年度の理事会は、年5回（定例4回、臨時1回）開催し、主な議事内容は、事業計画、予算、規程の改廃、学則変更、理事・評議員の選任、事業報告、決算報告、各学校の状況報告等であり、適切に議決、報告している。理事会には本法人の運営の実務にあたる事務局の役職者が事案に応じて陪席し、施策の実効に遺漏のない体制としている。

平成30（2018）年度の評議員会は年5回（定例4回、臨時1回）開催し、評議員の出席率は93.8%であった。主な議案は、理事・評議員の選任、予算・事業計画の諮問、各学校の状況報告等であり、適切に議決、諮問、報告している。

理事長は、寄附行為第14条にその職務を「本法人を代表し、本学の管理運営に関する基本事項、財政、人事、将来計画等について業務を総理する」と規定している。一方、学長は、本学学則第40条の2に「校務をつかさどり、所属する職員を統督する」と規定されているとおり、大学全体の教育、授業計画、入試、学生支援、研究、教職員の人事等を統括する。

教学と法人の一体的経営を図り現下の厳しい競争的環境へ迅速に対応して法人及び大学の財務基盤を強化することにより教学への支援をより一層充実することを目的に経営戦略会議を設置している。経営戦略会議は、理事長、学長、学科長（3学科長のうち1人）、事務局長及び外部の有識者2人が構成員となり、原則隔月開催され、本法人の経営・教学全体に関する事項について検討している。

また、法人理念及び建学の精神を踏まえ、理事会が決定した経営方針に基づき、本法人の方向性を共有し業務を執行し、本法人の経営基盤の一層の強化を図ることを目的に執行役員会及び学校連絡会議を設置している。執行役員会は、理事長、副理事長、常務理事、学長、事務局長を執行役員とし、事務局の各幹部職員を准執行役員として構成し、学校連絡会議はこれに、各学科長等を含めて組織している。

5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

監事は、寄附行為第18条に掲げる職務を行い、理事会・評議員会に毎回出席して意見を述べるほか、理事長ほか常勤の理事から業務執行状況について報告を受け、必要に応じ説明を求めている。また、重要な書類を閲覧し、業務執行が法令及び寄附行為等に則って適正に行われているか、経営方針に従って適切・適正に行われているかについて随時検証している。

評議員会は、寄附行為第22条第2項により13人の評議員をもって組織されており、理事会で審議される事項のうち、寄附行為第24条に規定している諮問事項について理事長に意見を述べている。また、寄附行為第25条に「この法人の業務若しくは財産の状況、役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え、役員から報告を徴することができる。」と規定しており、諮問機関としての役割を果たしている。

また、監事による監査のほかに、理事長が選任した職員による内部監査室を設置し、監事と連携して業務監査及び会計監査を実施している。

5-4. 財務基盤と収支

5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

本学は、専門学校を継承して平成26（2014）年4月に大学を設置し、組織運営体制を整備することに注力してきたが、本学が将来にも安定して運営し使命を果たしていくため、収支構造の見直しを行い、本法人の経営を学生納付金等の収入の範囲内で行うこととした。すなわち、従来の予算要求の積み上げ方式から収入予算枠内で事業を組み立てる方式に変更し、共通経費等の見直しによる非効率で無駄な経費予算額の縮減を図り、必要な経費を重点的に配分する選択と集中を行うことによって、事業活動収支差額の黒字転換を目指すことを予算編成の基本方針とした。財務基盤については、中長期事業計画を踏まえた収支計画を策定している。

また、教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境に迅速に対応して本法人及び本学の財務基盤を強化することにより、教学への支援をより一層充実するため、平成30（2018）年4月に外部委員を含めた経営戦略会議を設置し、経営及び教学全体に関する事項について検討している。

さらに、予算編成の基本方針を着実に進めるため、収容定員に対して学生数100%確保に努めるとともに、公的外部資金及び民間の助成金獲得を目指し、研究費獲得に向け説明会を実施して申請等を促している。

平成30（2018）年度の事業活動収支計算書では、事業活動収入合計は14億4,651万円となり、専門学校を閉校したことによる影響を除き、平成26（2014）年に大学を設置して以来、看護学科が平成29（2017）年度に、リハビリテーション学科が平成30（2018）年度に完成年度を迎え、平成30（2018）年度は看護学科の経常費補助金収入も確保し事業活動収入は、着実に増加し改善している。また、平成30（2018）年度の基本金組入前当年度収支差額は3,209万円の収入超過となっており、平成26（2014）年度に開学して以来、毎年度、特別寄附金を受贈するとともに収入に見合った経費の支出

を考慮して運営し、5年間全てで収入超過となっており、収支のバランスは保たれている。

5-5. 会計

5-5-① 会計処理の適正な実施

本学は、「学校法人会計基準」、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程細則」等の諸規程に基づいて、会計処理を適正に行っている。

学内の会計処理で判断に難しい事例が生じた場合は、日本私立学校振興・共済事業団、公認会計士及び税理士に確認するなどして、適時適切に対応している。

予算については、例年、予算科目単位ごとに予算原案を作成して事務局予算編成担当へ提出し、ヒアリングを行うなどの内容精査の上とりまとめ、理事長が総合的に調整して予算原案を編成し、3月末までにあらかじめ評議員会の意見を聞き、理事会において審議決定している。

このほか、補正予算についても、必要に応じて十分審査した後、同様の手続きを経て措置している。

5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

会計監査は、公認会計士による監査、監事による監査及び内部監査が行われている。

公認会計士による監査は当該年度の12月、3月、次年度の4月、5月に実施し、年間6日間行われている。公認会計士の監査時は指導及び助言を受け、指摘事項等については速やかに解決している。

監事は、寄附行為第9条の規定により現在非常勤の監事2人が就任している。その業務は「学校法人日本医療大学寄附行為」及び「学校法人日本医療大学監事監査規程」により定められている。

さらに監事は、毎回理事会、評議会に出席し、本法人の業務や財産状況について把握するとともに、本学の業務執行内容等について適宜意見を述べている。

また、内部監査においても、会計監査の監査項目を定めた内部監査計画書に基づいて、監査を実施し検証を行い、理事長へ報告書を提出するとともに、報告書に対する対応策を策定し、理事長へ報告している。

6. 内部質保証

6-1. 内部質保証の組織体制

6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

本学は、建学の精神として掲げている「共生社会の実現」の精神に基づき、「日本医療大学学則」第1章第3条に、「本学は、教育水準の向上及び活性化を図り、その目的と社会的使命を果たすため、教育研究活動等について自己点検及び評価を行う」と定め、内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立を実施している。

具体的な本学の内部質保証に関わる事項等は、開学以降「日本医療大学自己点検評価委員会規程」に即して、自己点検評価委員会が中心となり自己点検及び評価を実施している。

評価委員会規程は、開学時にすでに整備されていたが委員会の発足は平成27(2015)年4月になってからである。委員会の開催は、さらに遅れて同年11月25日に行われ、以後毎月第4水曜日を定例会議日とし、案件の無い月は休会とした。初会議開催時点で診療放射線学科は開設しておらず、委員は、看護学科教員3人、リハビリテーション学科教員3人、事務局長で構成していた。現在の自己点検評価委員会の委員は、看護学科長、リハビリテーション学科長、診療放射線学科長、各学科から2人ずつ選出された教員6人、事務局長、法人グループ長とし、平成30(2018)年度は、11人の委員で構成している。自己点検評価委員会では、いずれの認証評価機関を受審するか、年報の作成、教員の自己点検評価の実施、全学的な委員会活動に対する点検を行い、円滑なPDCA実施のために学内から幅広く情報を収集する体制を整えた(図6-1-1)。

また、本学におけるより広義の内部質保証活動については、各種の委員会を中心として継続的に実施している。例えば、授業内容の向上・改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」は、FD委員会を中心となって実施し、結果をホームページや掲示板に公表している。学生生活全般についての満足度調査の実施及び、その分析結果は、学生委員会を中心に実施し、学生から要望を採択するシステムを整えている。

このように各委員会で挙げた問題点や改善点は、次年度の事業計画に反映させ、年度毎の目標設定や自己点検を行う内部質保証に向けた組織体制を構築している。

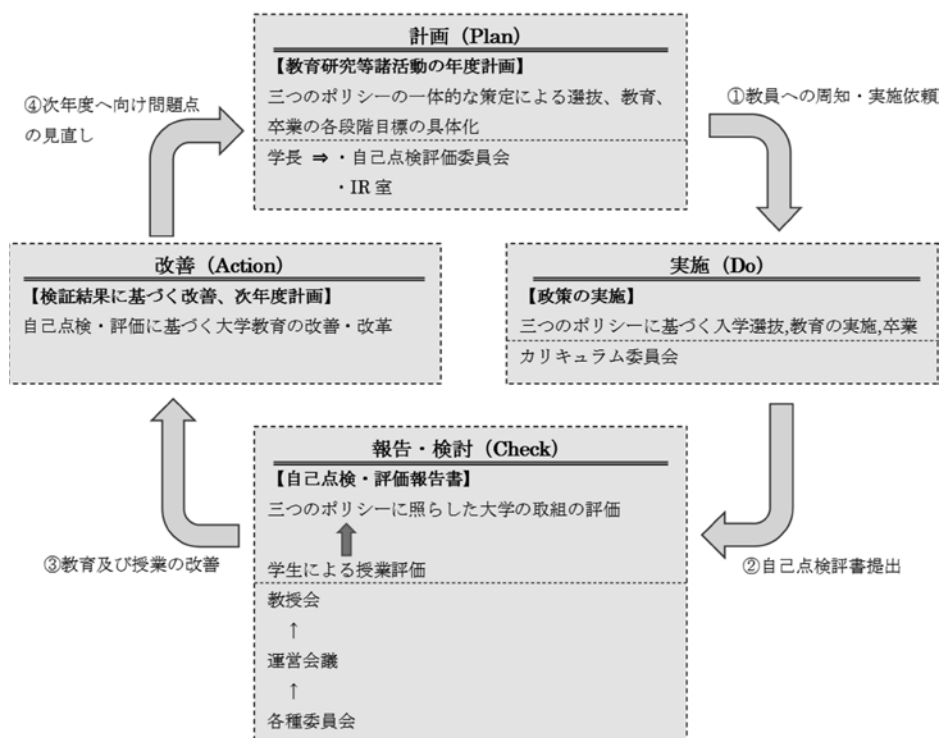


図6-1-1 内部保障のためのPDCAサイクル

6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

各委員会は、毎年の活動内容を自己点検・評価した上で委員会活動報告書を作成し、自己点検評価委員会に提出している。自己点検評価委員会では各委員会から提出された内容の実行状況と総括のチェックを行い、年報という形で公表している。各委員会は自己点検評価委員会による検証結果に基づき改善を行い、これをまとめて次年度の事業計画案を作成し、最終的に学長から次年度大学事業計画として、年度末の「大学方針説明会」において説明している。

学校教育法第109条に基づき、本学ではエビデンスに基づいた自己点検・評価に努めており、自己点検評価委員会によって、全教員を対象に教員の自己点検・評価を実施している。この自己点検・評価は、教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的としている。自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の4分野とし、教員自らが、年度目標を立て、「教員自己点検・評価表」に記入し、上司（看護学科においては、分野の教授を分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とし、学科長を教授の上司とする。リハビリテーション学科においては、専攻長を専攻に属する准教授、講師、助教の上司とし、学科長を教授の上司とする。診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長の上司は学部長とし、学部長の上司は学長とする）と協議の上、同意を得る。年度末には、教員自己点検・評価表に年度目標に対する成果等を記入し、再度上司と面談の上、自己点検・評価結果が確定する。

この教員の自己点検・評価は、平成28（2016）年度から毎年度実施し、教員自己点検・評価表の結果に関しては、自己点検評価委員会がまとめ、本学の年報及び、ホームページ上にて公表している。

また、各委員会から年度末に提出される「活動報告」や次年度の「活動計画」について内容の吟味を行っている。これまでに実例はないが、吟味の結果、「日本高等教育評価機構」の基準を充たさない事象が認められた場合、委員会に是正を求めることにしている。

毎年、「日本高等教育評価機構」から公表される、「判断例」について、本学の実態と照合し適否を確認している。

6-2-② IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析

IRについては、平成30（2018）年6月27日開催の自己点検評価委員会においてIR組織の設置が提案され、自己点検評価委員会の下部組織として「IR専門部会」を設置することを教授会に諮り、承認を得、設置することを決定した。第1回IR専門部会において情報収集についての提案があり、各委員会に過去の記録（議事録や調査関係書類等）をIR専門部会に提出を依頼した。しかし、平成30（2018）年10月22日開催の運営会議において、IR組織は自己点検評価委員会の下部組織ではなく、独立した組織にするべきであるとの方向性が定まり、平成30（2018）年10月24日開催の第3回IR専門部会において同部会を平成30（2018）年度末に解消することを決定した。そして平成31（2019）年1月23日開催の教授会において、平成31（2019）年度から自己点検IR室をより上位の組織に設置し機能向上を図ることが承認された。IR室は、平成31（2019）年4月1日に設置され運営会議と並ぶ上位の組織に位置付けられた。構成員は、運営会議と同じ（学長、学科長、事務局長等）である。IR室の設置により、IRを推進する環境が整い、今後の運営が期待される。

本学では、教育・学修支援に関する十分な調査・データの収集と分析のために、FD委員会が中心となって「学生による授業評価アンケート」を実施している。この授業評価アンケートは、平成28（2016）年度に様式の見直しを実施した。授業評価アンケートの結果を受け、各教員は今後の教育にどう反映させるかを書面で提出している。さらに、この結果は学生にも公開し、教員・学生間の双方の意見交流の機会としている。

また、学生委員会により、例年5月に全学生を対象とした「学生の生活に関するアンケート」が実施され、学生生活の実態を把握し、学生の大学に対する要望を尋ね、大学は改善に努めている。内容は、基本的属性、入学に至る経緯、大学生活の現状、大学生活全般についての満足度、学生気質など、マークシートによる無記名アンケートに加え、大学へのアクセス、学生食堂、施設・設備などの改善要望など、記述式による無記名アンケートである。毎年、教授会で分析結果を報告するとともに学生にはニュースレター「あずまし」を通じて結果を報告している。『あずまし』には、学生のアンケート結果を報告するとともに、学生生活の充実度を尋ねた質問の回答として、改善の取り組みについて啓発するコーナーを設け、改善案についてその取り組みを紹介している。『あずまし』は開学以来、学生に直接配布していたが、平成29（2017）年度から配布に代わり学生ポータルサイトでの発信としている。

6-3. 内部質保証の機能性

6-3-① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性

本学の内部質保証は、「自己点検評価委員会規程」に基づき、自己点検評価委員会が中心となって計画（Plan）、実施（Do）した自己点検・評価の結果を、自己点検評価委員会や教授会で報告・検討（Check）し、その結果を全学の教職員が教育研究活動に反映し、改善を図り（Action）、さらにそれを点検・評価に結び付けていくという内部質保証のためのPDCAサイクルは確立している。前述のように、大学全体として、自己点検・評価は毎年度継続的に実施し、その結果についても日本医療大学年報及び、ホームページ上で共有しており、大学の運営に反映させている。

本学は、開学から1年ごとに新学科が増設された経緯があり、旧ディプロマ・ポリシーに沿った教育を展開してきた。しかし、開学後4年を経過した平成30（2018）年頃から建学の精神などと三つのポリシーを、改めて全面的に見直す必要性が生じてきた。平成30（2018）年度6月から10月にかけて、学長のリーダーシップのもと、自己点検評価委員会委員である各学科長を構成員とする運営会議を中心に三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに学科会議・教授会等関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーが策定された。これによって、入学選抜、教育、卒業の各段階の目標の具現化を図った。

それに伴い、カリキュラム委員会において、カリキュラム委員会委員長のもと、自己点検評価委員会委員も構成員として加わり、カリキュラムマップの原案を作成し、各学科において検討を重ねた。平成30（2018）年度12月の教授会においてカリキュラムマップが提示され、ディプロマ・ポリシーの内容をカリキュラムに反映した。SYLLABUSにおいては、令和元（2019）年度から、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、科目レベルにおいても各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。

本学の内部質保証は三つのポリシーを起点とした内部質保証の取り組みが開始されており、自己点検・評価、設置計画履行状況調査などの結果を活用し、大学運営の改善・向上を図っている。

7. 大学が独自に設定した基準による自己評価

7-1. 認知症研究所

7-1-① 研究：認知症を惹起する疾患に関する予防、治療及び看護、介護、リハビリテーションに関する研究

7-1-② 普及：認知症を惹起する疾患に関する正しい知識の啓発普及

7-1-③ 外部連携：国内外における認知症を惹起する疾患に関する専門機関との共同研究、産学連携及び情報交換

基準項目の「研究」に関して、平成30（2018）年度までの主な研究として、

- ①「在宅の認知症高齢者にとって自身を支えるサービスシステムとしての小規模多機能型居宅介護サービスの有効性に関する研究」
- ②「認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究」（ニッセイ財団助成研究）
- ③「酵素処理アスパラガス茎抽出物（ETAS）の軽度・中等度認知症患者に対する臨床効果の検証」
- ④「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」を実施してきた。

①と②は密接に関連しながら平成28（2016）年10月から平成30（2018）年9月まで実施した。これまでに、対象を認知症患者の家族介護者に対する支援方法であるデイケアの利用者と、小規模多機能型居宅介護の利用者の主たる介護者に対し、利用に関するアンケート調査を行い両群の差違について分析した（研究1）。その結果を踏まえて、主たる介護者用の健康・社会参加・自己実現について明確にする新たな介護者アセスメント・シートを開発してきた（研究2）。

平成30（2018）年度では、新規に小規模多機能型居宅介護を受ける認知症を有する利用者の主たる介護者について、開発したアセスメント・シートを用いて1ヶ月毎3ヶ月間使用し、使用前後の介護負担に関する尺度調査を行いアセスメント・シートの有用性について検討し（研究3）、アセスメント・シートに書かれた内容について、記録された情報を自然言語処理の技術を用いて頻出語や特徴語を抽出する内容分析ソフト（Text Mining Studio）による解析を行った（研究4）。研究結果について、平成30（2018）年11月のワークショップで発表し、12月に最終報告書を提出した。

③は、株式会社アミノアップとの間に受託研究契約を締結し、ノテ福祉会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物（ETAS®50）の臨床効果を図るため、ETAS®50またはプラセボを1日300mg被験者に12週間ずつ計24週間摂取してもらい、4種類の認知機能などの評価尺度を使ってETAS®50の効果を検証する二重盲検クロスオーバー試験を平成30（2018）年10月に開始した。被験者は40人を目指しており、研究期間は令和元年末までを予定している。令和元（2019）年7月には統合医療機能性食品国際学会で発表し、試験終了後に専門ジャーナルに結果に関する論文を投稿する予定である。

④は、株式会社クオリからの受託研究として、ロッキングチェアを機械的に再現したスイングスライド機構をもつ認知症高齢者向けの椅子開発を行っている。研究期間は3年で、2年目の平成30（2018）年度は、平成29（2017）年度に試作したモデルをベースに木を素材とした試作を行った。

試作は7回にわたった。その間に、高齢者及び学生を対象とした調査も行い、試作の改良に活かした。他に、クオリの製品開発、データ収集へのアドバイスをを行った。平成30（2018）年度の研究会議は3回にわたった。現在は、令和元（2019）年度の製品化に向けて更なる改良と高齢者データ収集の準備を進めている。

基準項目の「普及」に関する主な事業としては、日本医療大学各学科や清田消防署、北海道警察本部職員らへの認知症サポーター養成講座を実施してきた。

基準項目の「外部連携」（共同研究、産学連携）としては、研究③と④に関連し、株式会社クオリからの「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」に関する受託研究、株式会社アミノアップ化学からの「酸素処理アスパラガス茎抽出物（ETAS）の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」に関する受託研究を実施している。

平成30年度 日本医療大学認知症研究所活動報告	
所長	対馬輝美
構成員	対馬輝美研究員、高橋光彦研究員、林美枝子研究員、八田達夫研究員、浅井さおり研究員、東海林哲郎研究員、田村素子研究員、小林 孝広研究員、荒木めぐみ研究員、池田保研究員、錢本隆行研究員
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
1. 研究事業 1-1 「認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究」（ニッセイ財団助成研究）	平成28年10月から平成30年9月まで実施してきた研究の最終年度となった。これまでに、対象を認知症患者の家族介護者に対する支援方法であるデイケアの利用者と、小規模多機能型居宅介護の利用者の主たる介護者に対し、利用に関するアンケート調査を行い両群の差違について分析した（研究1）。その結果を踏まえて、主たる介護者用の健康・社会参加・自己実現について明確にする新たな介護者アセスメント・シートを開発してきた（研究2）。平成30年度では、新規に小規模多機能型居宅介護を受ける認知症を有する利用者の主たる介護者について、開発したアセスメント・シートを用いて1ヶ月毎3ヶ月間使用し、使用前後の介護負担に関する尺度調査を行いアセスメント・シートの有用性について検討し（研究3）、アセスメント・シートに書かれた内容について、記録された情報を自然言語処理の技術を用いて頻出語や特徴語を抽出する内容分析ソフト（Text Mining Studio）による解析を行った（研究4）。研究結果について、平成30年11月のワークショップで発表し、12月に最終報告書を提出した。
1-2 「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」株式会社クオリからの「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」に関する受託研究	株式会社クオリからの受託研究として、ロッキングチェアを機械的に再現したスイングスライド機構をもつ認知症高齢者向けの椅子開発を行っている。研究期間は3年で、2年目の平成30年度は、平成29年度に試作したモデルをベースに木を素材とした試作を行った。試作は7回にわたった。その間に、高齢者及び学生を対象とした調査も行い、試作の改良に活かした。他に、クオリの製品開発、データ収集へのアドバイスをを行った。平成30年度の研究会議は3回にわたった。現在は、平成31年度の製品化に向けて更なる改良と高齢者データ収集の準備を進めている。

1-3 「アスパラガス茎抽出物 (ETAS®50) の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」	株式会社アミノアップとの間に受託研究契約を締結し、ノテ福祉会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物 (ETAS®50) の臨床効果を図るため、ETAS®50 またはプラセボを1日300 mg 被験者に各12週間、計24週間摂取してもらい、4種類の認知機能などの評価尺度を使ってETAS®50の効果を検証する二重盲検クロスオーバー試験を10月に開始した。被験者は40人を目指しており、研究期間は令和元年末までを予定している。平成31年7月には統合医療機能性食品国際学会で発表し、試験終了後に専門ジャーナルに結果に関する論文を投稿する予定。
2. 普及事業： 2-1 認知症サポーター養成講座	認知症サポーター養成講座を本学学生1年生を対象に、5月11日看護学科、10月22日リハビリテーション学科、11月16日診療放射線学科で実施した。
3. 外部連携 3-1 「認知症高齢者への『理想的な介護』の開発」	1-2と同じく、株式会社クオリと連携しながら、認知症高齢者に向けた介護の開発を進めてきた。
3-2 「アスパラガス茎抽出物 (ETAS®50) の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」	1-3と同じく、株式会社アミノアップと連携しながら、アスパラガス茎抽出物 (ETAS®50) の臨床効果についての試験を実施してきた。

7-2. 学生ボランティア

7-2-① 医療関係者として人間尊重、相互扶助の精神を育む

○課外教育活動の企画・実施

医療に従事する者にとって、人間尊重と相互扶助の精神は不可欠である。本学では、学生委員会が主体となり、そうした精神を涵養するための行事を行っている（基準2-4P21を参照）。その中でも啓発的な教育活動として、以下の4つを再掲する。

[1] ユニセフ・パネル展

平成26（2014）年、北海道ユニセフ協会の協力を得て「ユニセフ・パネル展」を12月10日から16日まで実施した。パネル展では、多くの学生の参加を得ている。

[2] いのちのパネル展

平成27（2015）年から毎年10月に、交通事故死遺族の会のご協力で、亡くなった方たちの写真やメッセージが綴られた「いのちのパネル展」を開催している。パネル展は両キャンパスで各1週間実施している。近年は保護者懇談会の日程に重ねて実施しているため、学生だけではなく保護者の参加も得ている。

[3] 命の講演会

命について深く考えてもらう目的で、毎年12月に「命の講演会」を開催している。平成30（2018）年には、東日本大震災の支援に行った札幌市防災・危機管理官のお話を伺った。

[4] スタディ・バスツアー

毎年春期休暇中にスタディ・バスツアーを学生委員会が実施し、札幌市市民防災センターでリスク管理のための体験型研修を受けている。また、JICA北海道も訪問し、日本における国際協力に関する説明を受け、実際に諸外国にボランティアとして派遣された医療従事者等の体験談を伺った。

なお、平成29（2017）年には札幌市と「福祉避難所等への学生等ボランティアの派遣協力に関する協定」を結んでいる。こうした課外教育を受けた学生が、人間尊重と相互扶助を実践する機会として、ボランティア活動に参加しやすい環境整備をすすめている。

7-2-② 学生自らが課題を見つけ、解決のために行動することができる

○課題解決型の行動を自主的に行動

上記のような課外教育を受けるかたちで、学生は個人、または学内団体の一員として、自ら課題を探し、それを解決すべく様々な場にて行動するようになってきている。学友会においては、ボランティア関連の学内団体が3団体設立されている。これまでに学生主体で行われた主な活動を以下4つ挙げる。

[1] 募金活動

平成27（2015）年4月、ネパールにて大地震が発生した。学友会を中心に、いち早く学内での募金活動が実施され、北海道ユニセフ協会を通じて義援金が送られた。平成28（2016）年4月には熊本大震災が発生した。この時もボランティア部の学生が中心となって募金活動を行い、熊本県に募金を届けた。学友会では毎年、大学祭において「ユニセフグッズ販売」と募金活動を行っている。そうした活動に対する感謝状が日本ユニセフ協会から毎年届けられている。

[2] フードバンク活動

学友会では、大学祭の場において、平成29（2017）年からフードバンク活動を行っている。賞味期限前のまだ食べられる食料品を集め、市内のフードバンクに寄付をし、72時間以内にフードバンクに登録している食料を必要としている人たちに届けている。

[3] 各種イベントでのボランティアスタッフ

札幌市内及び周辺地域にて行われる各種イベント（北海道マラソン、区役所が主催する子供のための祭、地域で開催される学術集会など）に、学生有志がボランティアスタッフとして参加している。とりわけ、本学も主催団体の一つとなっているアンデルセングルメ祭では、学生ボランティアの活躍が目覚ましい。このイベントは毎年5,000人以上の地域住民が集まる区内で最大の祭である。学生ボランティアが年々増加し、平成26（2014）年には15人ほどであった人数が平成30（2018）年は60人となった。参加した学生は、模擬店の手伝いや、駐車場の運営、介護施設から参加してくる高齢者の介助等を通して、地域住民と触れ合い、社会を担う一員としての自覚を高めているようである。なお、平成30（2018）年のアンデルセングルメ祭では、学友会が主体となり来場する子供た

ちのための「キッズ・ワールド」を企画・実施した。

[4] 国際協力ボランティア

恵み野キャンパスのCBRサークルは、国際協力ボランティアについて学習・活動する学内団体である。年間を通じて、国際保健の勉強会や講演会を開催し、国際協力の意義やあり方について学んでいる。学生は様々な機会をとらえて、国際協力活動に参加している。例えば、北海道NGOネットワーク主催の国際協力フェスタへボランティアとして参加し、ポスター作成や学生ワークショップを担当し、国際協力を実施している他団体や市民と交流を図っている。また、平成28（2016）年及び平成30（2018）年には、本学教員が関わる学外団体（飛んでけ車いすの会／札幌市）が募集する開発途上国に、車椅子を届ける活動にも参加した。平成28（2016）年には2人がネパールへ、平成30（2018）年には1人がタイに向けた活動に随行した。この活動は、海外の保健福祉や医療事情を学ぶための機会でもある。帰国後は、学内にて報告会が行われ、参加者の意識向上も図っている。

7-3. 教員の自己点検・評価

「教員の自己点検評価制度」は、平成28年度に制定された制度であり、前年度末に次年度の教育・研究・大学業務・社会貢献についての重み付けを上司と共に設定し、年度末にそれらについて自己評価を行い、その結果を基に翌年度の目標を立て、PDCAサイクルを実践するものであり平成30（2018）年度の結果とコメントは、以下の通りである。

教員の自己点検・評価制度

教員の自己点検・評価（以下「自己点検・評価」という）制度は以下のとおりである。

(1) 制度の目的

教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的とする。

(2) 対象者

日本医療大学の全教員を対象とする。

(3) 自己点検・評価における基本方針

- ①自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の4分野とする。
- ②教員自らが、年度目標を立て、「教員自己点検・評価表（以下、「評価表」という。（別表）に記入し、上司と協議の上、同意を得る。同表に、年度目標に対する成果等を記入し、上司と面談の上、自己点検・評価結果を確定する。

(4) 自己点検・評価結果の用途

- ①自己点検・評価結果は、次年度の年度目標作成時の参考とする。

②教員の顕彰時の資料とする。

③昇任審査時の資料とする。

(5) 自己点検・評価の実施方法

- ・3月15日まで 評価表に次年度目標を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と協議
- ・3月末日まで 次年度目標を確定
- ・2月15日まで 評価表に成果等を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と面談
- ・2月末日まで 自己点検・評価結果を確定

(6) 上司とは

看護学科においては、分野の教授を、分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

リハビリテーション学科においては、専攻長を、専攻に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。

学科長の上司は、学部長とする。

学部長の上司は、学長とする。

(7) 職階別各分野重み付けの目安（但し、上司と協議の上、決定する）

職階別各分野重み付けの目安については、表6-2-①-1の通りである。

表6-2-①-1 教員の自己点検・評価制度（職階別各分野重み付けの目安表）

	教育 (%)	研究 (%)	大学業務 (%)	社会貢献 (%)
教授	30～40	20～30	15～40	5～20
准教授	35～50	40～50	10～30	0～15
講師	35～50	40～60	10～30	0～10
助教・助手	30～40	40～60	10～20	0～5

(8) 結果の公表

匿名化した評価表を、分野達成度及び自己評価を統計学的処理し、結果をホームページ等に公表する。

教員の自己点検評価に対する分析

本学では教育、研究、大学業務、社会貢献の各分野に対して職階別に重み付けの目安を設定している。それをもとに各教員はウエイトや具体的な目標を年度当初に設定し、それに対する成果を年度末に報告している。目標に対する達成度*を評価5から評価1までの5段階で自己評価した。その結果を集計し分析を行ったので公表する。結果は結果1から5までを図表で示し、分析について

は特記事項のみを記載した。

全教員のウエイト設定と分野達成度を結果1に示す。教育のウエイトは平均が39.3%で、それに対する分野達成度の平均は3.4の評価であった。研究のウエイトに対する平均は33.9%、それに対する分野達成度の平均は3.3の評価であった。大学業務のウエイトに対する平均は25.3%、それに対する分野達成度の平均は3.5の評価であった。社会貢献のウエイトに対する平均は8.1%、それに対する分野達成度の平均は3.3の評価であった。全体の自己評価は3.4であり目標を達成できていた。

学科別のウエイト設定と分野達成度を結果2に示す。看護学科の教員は教育と研究に対するウエイトが3学科の中で中間に位置し大学業務と社会貢献では低かった。診療放射線学科の教員は教育と大学業務のウエイトが高く研究が低かった。リハビリテーション学科では研究と社会貢献に対するウエイトが高く、教育が低かった。学科別の分野達成度は3.3から3.7の範囲にあり、目標を達成できていた。

職階別のウエイト設定と分野達成度を結果3に示す。教育に対するウエイト設定は職階による大きな差はない印象であった。研究へのウエイト設定は助手を除いて下位の職階の順に高かった。大学業務に対するウエイト設定は教授が最も高く、社会貢献に対するウエイト設定は准教授と教授が高かった。職階別の全体的な分野達成度は3.0から3.5の範囲にあり、目標を達成できていた。社会貢献の分野では助手の分野達成度が1.0と低かった。

学科・職階別のウエイト設定を結果4に示す。教育、研究、大学業務に対するウエイト設定は大差がなかった。社会貢献では上位の職階順にウエイトが高く、特にリハビリテーション学科で顕著に高かった。

学科・職階別の分野達成度を結果5に示す。全体的な分野達成度は3.0から4.0の範囲にあり、目標を達成できていた。社会貢献の分野では看護学科の助教が2.8、助手が1.0、リハビリテーション学科の講師が2.8と目標を達成できずに低い結果となった。研究では看護学科の准教授が5.0、リハビリテーション学科の准教授が4.5と目標を上回る成果があった。

過去3年間のデータと比較を行った結果、教育と大学業務に対するウエイトが増えている傾向がある。教育のウエイトは2016（平成28）年が35.9%、2017（平成29）年が38.7%、2018（平成30）年が39.3%と毎年増加傾向にある。大学業務のウエイトは2016（平成28）年が21.4%、2017（平成29）年が22.2%、2018（平成30）年が25.3%であり、教育と同様に開学してから年々増えている傾向があった。

*達成度

評価5：目標を大きく上回る成果があった

評価4：目標を上回る成果があった

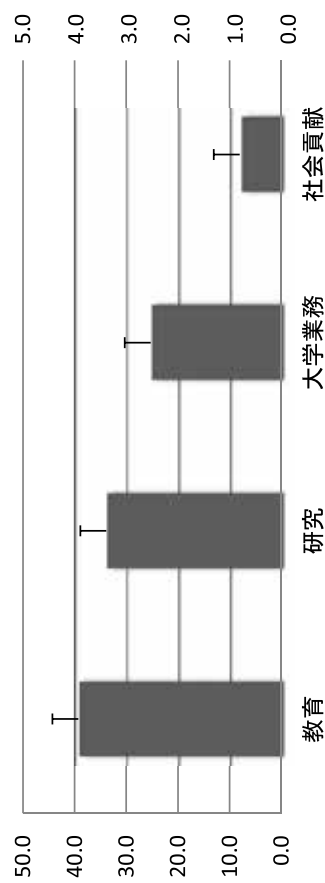
評価3：目標を達成できた

評価2：目標を少し達成できなかった

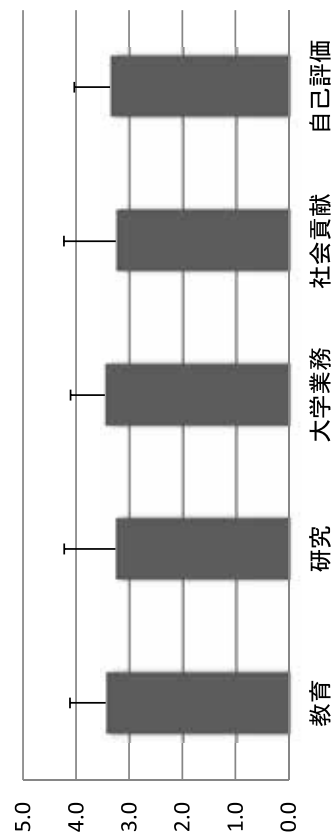
評価1：目標をほとんど達成できなかった

結果1(全教員)

ウエイト(%)



分野達成度

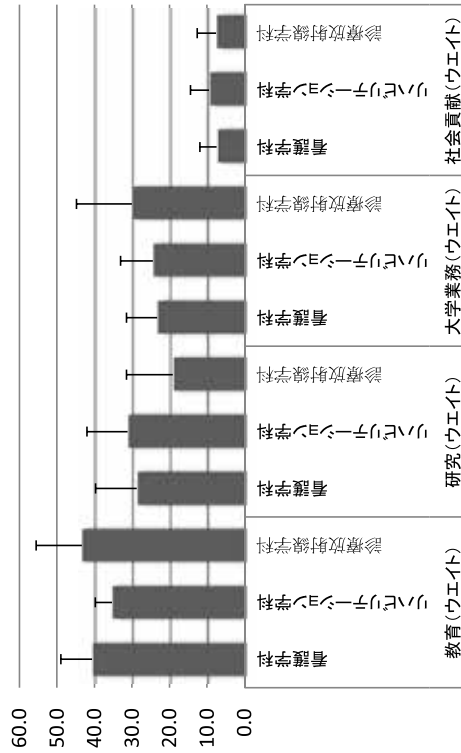


	ウエイト(%)				分野達成度				
	教育	研究	大学業務	社会貢献	教育	研究	大学業務	社会貢献	自己評価
平均	39.3	33.9	25.3	8.1	3.4	3.3	3.5	3.3	3.4
SD	8.5	48.3	10.2	4.7	0.7	1.0	0.6	1.0	0.7
最大値	60	358	50	20	5	5	5	5	5
最小値	25	2	10	0	2	1	2	1	2
中央値	40	30	25	5	3	3	3	3	3

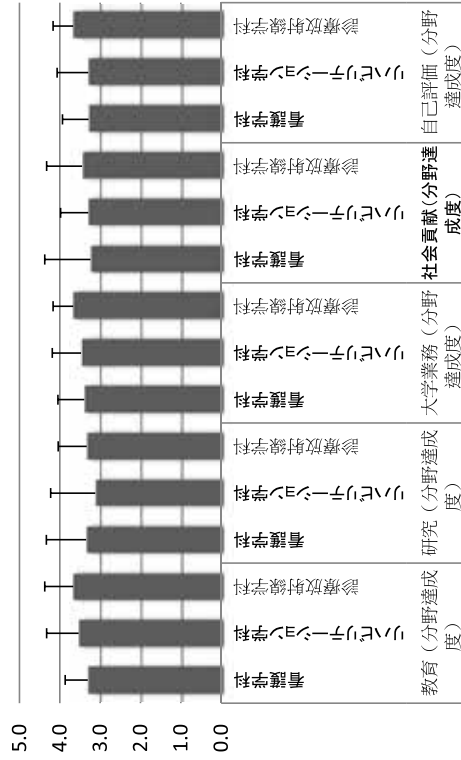
n=50

結果2(学科別)

ウエイト(%)



分野達成度



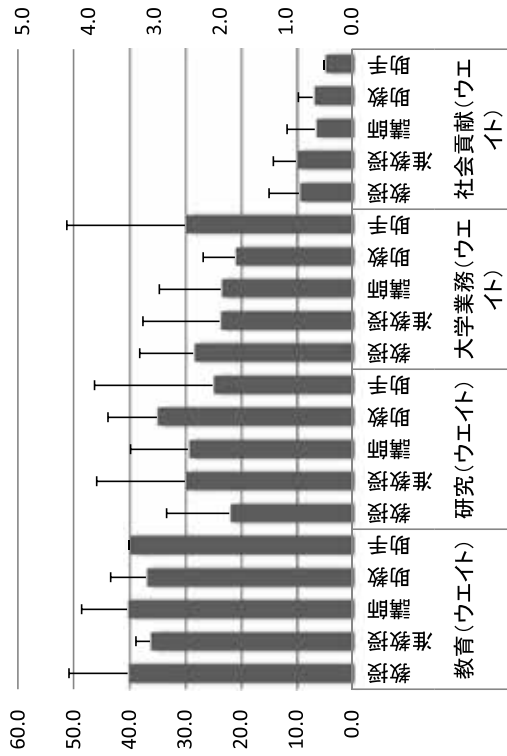
	教育(ウエイト)			研究(ウエイト)			大学業務(ウエイト)			社会貢献(ウエイト)		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	40.7	35.3	43.3	28.7	31.2	19.1	23.3	24.4	30.0	7.4	9.4	7.6
SD	8.3	4.5	12.2	11.0	10.8	12.3	8.2	8.6	14.8	4.5	5.0	5.0
最大値	60	40	60	50	45	40	40	40	50	20	20	20
最小値	30	30	25	10	10	2	15	10	10	0	5	5
中央値	40	35	40	30	35	20	20	25	30	5	10	5

	教育(分野達成度)			研究(分野達成度)			大学業務(分野達成度)			社会貢献(分野達成度)		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	3.3	3.5	3.7	3.3	3.1	3.3	3.4	3.5	3.7	3.2	3.3	3.4
SD	0.6	0.8	0.7	1.0	1.1	0.7	0.7	0.7	0.5	1.1	0.7	0.9
最大値	4	5	5	5	5	4	5	5	4	5	4	5
最小値	2	2	3	2	1	2	2	3	3	1	2	2
中央値	3	4	4	3	3	3	3	3	4	3	3	3

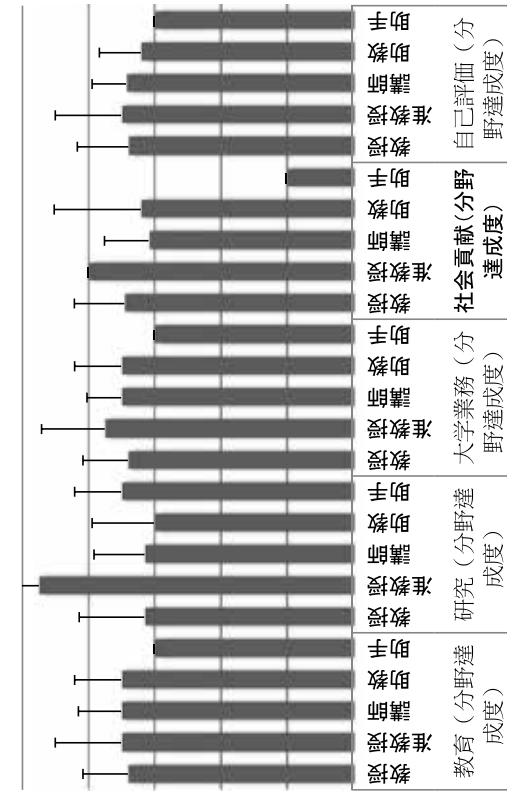
看護学科: n=24 リハビリテーション学科: n=17 診療放射線学科: n=9

結果3(職階別)

ウエイト(%)



分野達成度



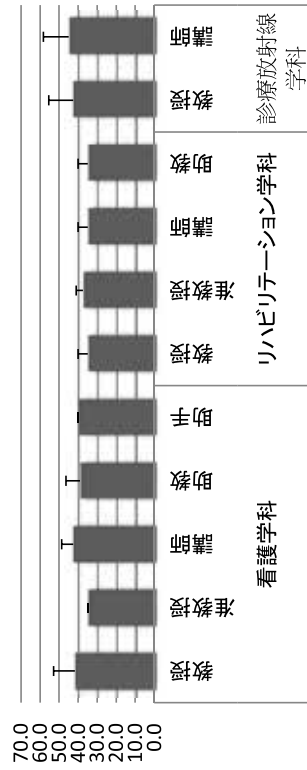
	教育(ウエイト)					研究(ウエイト)					大学業務(ウエイト)					社会貢献(ウエイト)				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	40.3	36.3	40.4	37.0	40.0	22.0	30.0	29.4	10.3	8.8	21.2	23.8	23.6	21.0	30.0	9.5	10.0	6.6	7.0	5.0
SD	10.6	2.5	8.2	6.3	0.0	11.3	15.8	10.3	40	50	40	13.8	11.0	5.7	21.2	5.4	4.1	5.0	2.6	0.0
最大値	60	40	60	50	40	40	45	40	50	40	50	40	50	30	45	20	15	20	10	5
最小値	25	35	30	30	40	5	10	2	20	10	10	10	10	10	15	5	5	0	5	5
中央値	40	35	40	38	40	20	33	30	30	35	25	23	20	20	30	8	10	5	5	5

	教育(分野達成度)					研究(分野達成度)					大学業務(分野達成度)					社会貢献(分野達成度)				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.4	3.5	3.5	3.0	3.5	3.4	3.8	3.5	3.5	3.0	3.5	4.0	3.1	3.2	1.0	3.4	3.5	3.4	3.2	3.0
SD	0.7	1.0	0.7	0.7	0.0	1.0	0.5	0.8	0.9	0.7	0.7	0.0	0.7	1.3	0.0	0.8	1.0	0.5	0.6	0.0
最大値	5	4	5	4	3	5	4	4	4	4	5	4	4	5	1	5	4	4	4	3
最小値	2	2	3	2	3	1	4	2	1	3	2	3	3	2	1	2	2	2	3	2
中央値	3	4	3	4	3	3	5	3	3	4	3	4	4	3	4	3	4	3	3	3

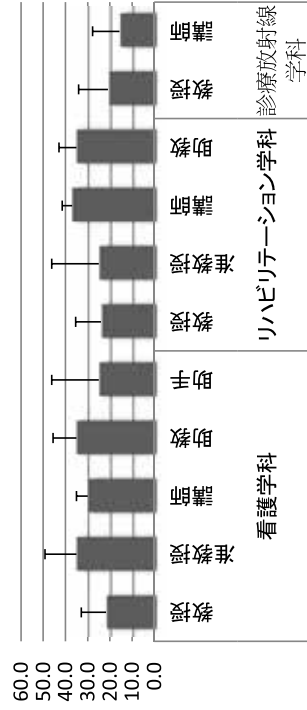
教授 : n=20 准教授 : n=4 講師 : n=14 助教 : n=10 助手 : n=2

結果4-1(学科・職階別:ウエイト)

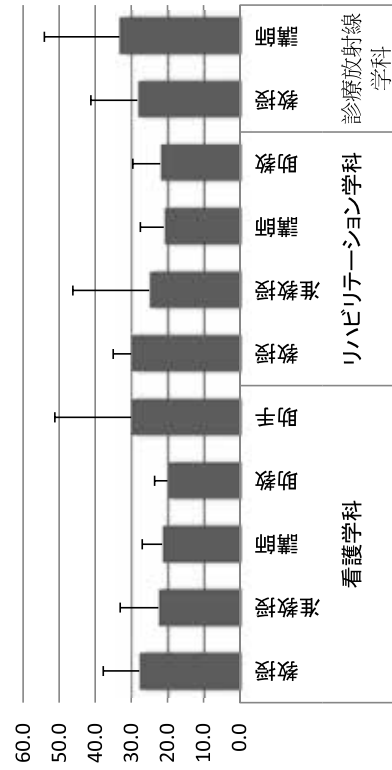
教育(ウエイト)



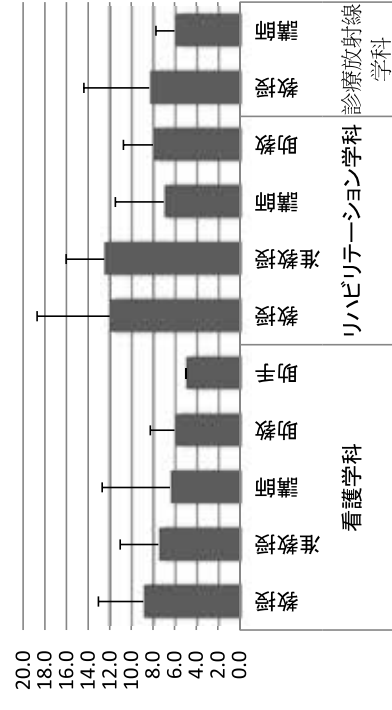
研究(ウエイト)



大学業務(ウエイト)



社会貢献(ウエイト)



看護学科 教授:n=9 准教授:n=2 講師:n=6 助教:n=5 助手:n=2
 リハビリテーション学科 教授:n=5 准教授:n=2 講師:n=5 助教:n=5
 診療放射線学科 教授:n=6 講師:n=3

結果4-2(学科・職階別：ウエイト)

	看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師
平均	41.7	35.0	42.5	39.0	40.0	35.0	37.5	35.0	35.0	42.5	45.0
SD	11.2	0.0	6.1	7.4	0.0	5.0	3.5	5.0	5.0	12.9	13.2
最大値	60	35	50	50	40	40	40	40	40	60	60
最小値	30	35	35	30	40	30	35	30	30	25	35
中央値	40	35	40	40	40	35	38	35	35	43	40

	看護学科				研究(ウエイト)				リハビリテーション学科		診療放射線学科	
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	
平均	21.7	35.0	30.0	35.0	25.0	24.0	25.0	37.0	35.0	20.8	15.7	
SD	11.2	14.1	5.0	10.6	21.2	11.4	21.2	4.5	7.9	13.2	12.1	
最大値	40	45	35	50	40	40	40	40	45	40	25	
最小値	10	25	20	20	10	10	10	30	25	5	2	
中央値	15	35	30	35	25	20	25	40	35	20	20	

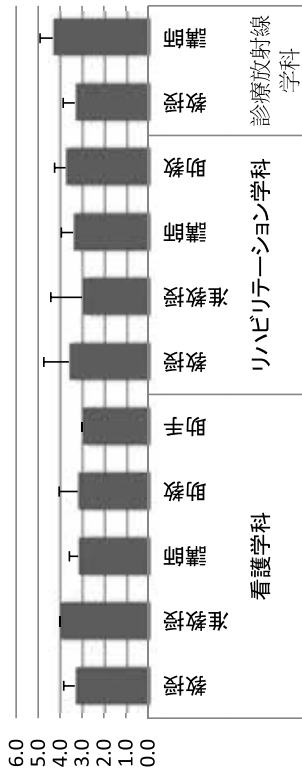
	看護学科				大学業務(ウエイト)				リハビリテーション学科		診療放射線学科	
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	
平均	27.8	22.5	21.4	20.0	30.0	30.0	25.0	21.0	22.0	28.3	33.3	
SD	10.0	10.6	5.6	3.5	21.2	5.0	21.2	6.5	7.6	12.9	20.8	
最大値	40	30	30	25	45	35	40	30	30	50	50	
最小値	15	15	15	15	15	25	10	15	10	15	10	
中央値	25	23	20	20	30	30	25	20	25	25	40	

	看護学科				社会貢献(ウエイト)				リハビリテーション学科		診療放射線学科	
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	
平均	8.9	7.5	6.4	6.0	5.0	12.0	12.5	7.0	8.0	8.3	6.0	
SD	4.2	3.5	6.3	2.2	0.0	6.7	3.5	4.5	2.7	6.1	1.7	
最大値	15	10	20	10	5	20	15	15	10	20	8	
最小値	5	5	0	5	5	5	10	5	5	5	5	
中央値	10	8	5	5	5	15	13	5	10	5	5	

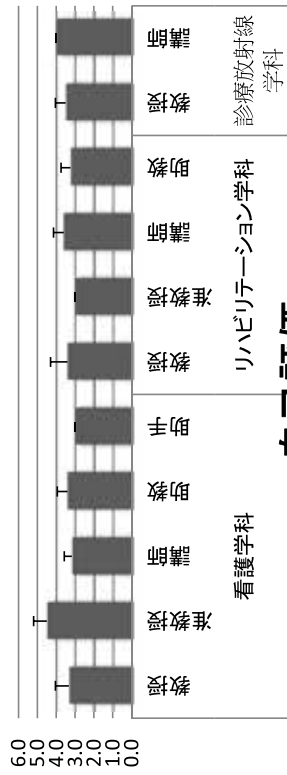
(単位：%)

結果5-1(学科・職階別：分野達成度)

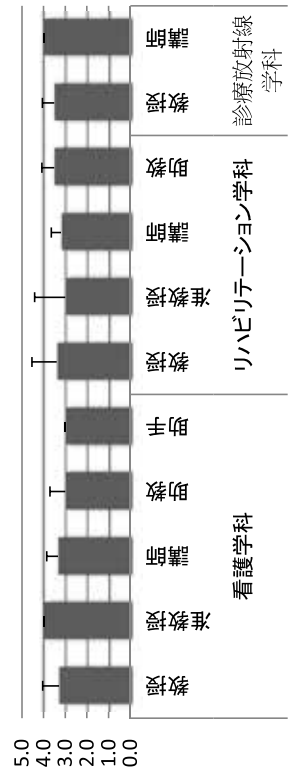
教育(達成度)



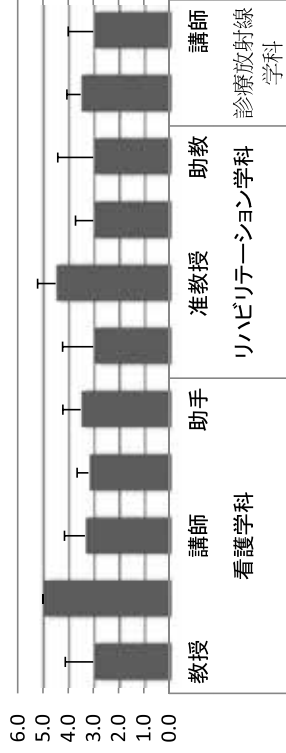
大学業務(達成度)



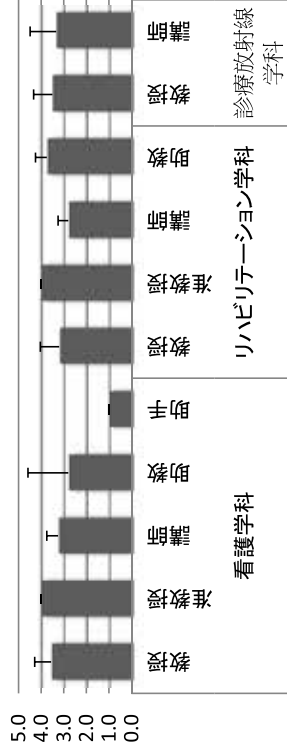
自己評価



研究(達成度)



社会貢献(達成度)



看護学科 教授:n=9 准教授:n=2 講師:n=6 助教:n=5 助手:n=2
 リハビリテーション学科 教授:n=5 准教授:n=2 講師:n=5 助教:n=5
 診療放射線学科 教授:n=6 講師:n=3

結果5-2(学科・職階別：分野達成度)

教育(達成度)													
	看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
	教授	准教授	講師	助手	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助教	教授	講師
平均	3.3	4.0	3.2	3.0	3.2	3.0	3.6	3.0	3.4	3.8	3.3	3.3	4.3
SD	0.5	0.0	0.4	0.0	0.8	0.0	1.1	1.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6
最大値	4	4	4	3	4	3	5	4	4	4	4	4	5
最小値	3	4	3	3	2	3	2	2	3	3	3	3	4
中央値	3	4	3	3	3	3	4	3	3	4	3	3	4

研究(達成度)													
	看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
	教授	准教授	講師	助手	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助教	教授	講師
平均	3.0	5.0	3.3	3.5	3.2	3.5	3.0	4.5	3.0	3.0	3.0	3.5	3.0
SD	1.1	0.0	0.8	0.7	0.4	0.7	1.2	0.7	0.7	1.4	0.5	0.5	1.0
最大値	5	5	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4
最小値	2	5	2	3	3	3	1	4	2	1	1	3	2
中央値	3	5	4	4	3	4	3	5	3	4	4	4	3

大学業務(達成度)													
	看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
	教授	准教授	講師	助手	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助教	教授	講師
平均	3.3	4.5	3.2	3.0	3.4	3.0	3.4	3.0	3.6	3.3	3.3	3.5	4.0
SD	0.7	0.7	0.4	0.0	0.5	0.0	0.9	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.0
最大値	4	5	4	3	4	3	5	3	4	4	4	4	4
最小値	2	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4
中央値	3	5	3	3	3	3	3	3	4	3	3	4	4

社会貢献(達成度)													
	看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
	教授	准教授	講師	助手	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助教	教授	講師
平均	3.6	4.0	3.3	1.0	2.8	1.0	3.2	4.0	2.8	3.8	3.5	3.5	3.3
SD	0.7	0.0	0.5	0.0	1.8	0.0	0.8	0.0	0.4	0.5	0.8	0.8	1.2
最大値	5	4	4	1	5	1	4	4	3	4	5	5	4
最小値	3	4	3	1	1	1	2	4	2	3	3	3	2
中央値	3	4	3	1	3	1	3	4	3	4	3	3	4

自己評価													
	看護学科				リハビリテーション学科				診療放射線学科				
	教授	准教授	講師	助手	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助教	教授	講師
平均	3.3	4.0	3.3	3.0	3.0	3.0	3.4	3.0	3.2	3.5	3.5	3.5	4.0
SD	0.8	0.0	0.5	0	0.7	0	1.1	1.4	0.4	0.6	0.5	0.5	0.0
最大値	4	4	4	3	4	3	5	4	4	4	4	4	4
最小値	2	4	3	3	2	3	2	2	3	3	3	3	4
中央値	3	4	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4

8. 社会貢献

8-1. 公開講座・生涯学習講座

社会貢献活動として、これまで基準項目に基づき本学教員が講師となり市民を対象とした公開講座及び生涯学習講座等を開催している。

1 公開講座実施状況

[平成26（2014）年度]

開催年月日	開催地	テーマ	講師	人数
平成26年11月23日	札幌市	「いつまでもおいしく食べたい！」を可能にする口腔内の観察とケアのポイント	柿木 保明	120

[平成27（2015）年度]

開催年月日	開催地	テーマ	講師	人数
平成27年10月31日	札幌市	医療系大学における専門職連携教育	三浦 宜彦	120

[平成28（2016）年度]

開催年月日	開催地	テーマ	講師	人数
平成28年10月30日	札幌市	高血圧はどうして怖い	島本 和明	137

2 生涯学習講座実施状況

[平成27（2015）年度]

開催年月日	開催場所	テーマ	講師	人数
平成27年10月17日	札幌市	口腔から始まる健康長寿	賀来 亨	17
平成27年11月28日	札幌市	手足腰を動かし元気に過ごす	高橋 光彦	20
平成27年12月26日	札幌市	健康寿命を延ばす簡単体操	石橋 晃仁	18
平成28年 1月23日	札幌市	超高齢化社会について 人類が始めて経験する「あれ」や「これ」	林 美枝子	24
平成28年 2月27日	札幌市	病は気から？	須賀 俊博	28
平成28年 3月26日	札幌市	ここはどこ？あなたは誰？ せん妄の予防と対応	長谷川真澄	36

[平成28（2016）年度]

開催年月日	開催場所	テーマ	講師	人数
平成28年 4月23日	札幌市	生活習慣病から身を守ろう	島本 和明	100
平成28年 5月28日	札幌市	認知症サポーター養成講座	小林 孝広	55

平成28年6月25日	札幌市	サプリメントの功罪	村松 幸	37
平成28年7月23日	札幌市	高齢者のための快眠生活指南	斉藤 リカ	26
平成28年8月20日	札幌市	身の回りの放射線	住吉 孝	29
平成28年9月17日	札幌市	口腔から始まる健康長寿	賀来 亨	19
平成28年10月29日	札幌市	こんな時どうする？高齢者の救急救命	門間 正子	22
平成28年11月26日	札幌市	先細る年金、負担増の医療費 されど、豊かな高齢期を目指して	松本真由美	27
平成28年12月17日	札幌市	高血圧から身を守ろう	島本 和明	51
平成29年1月28日	札幌市	ハッピーエンドな人生を	傅野 隆一	34
平成29年2月25日	札幌市	知っておくと安心、 ご家庭でも可能な介護の基本	大堀 具視	24
平成29年3月25日	札幌市	長生きのための呼吸リハビリ	高橋 光彦	30

[平成29（2017）年度]

開催年月日	開催場所	テーマ	講師	人数
平成29年5月27日	札幌市	健康と運動 ～充実した毎日を過ごすために～	乾 公美	39
平成29年6月10日	札幌市	放射線のABCと病院での放射線検査エトセトラ	樋口 健太	19
平成29年7月15日	札幌市	笑いの威力は素晴らしい	並川 聖子	25
平成29年8月26日	札幌市	人と車いすの科学～より楽に座るために～	八田 達夫	25
平成29年9月30日	札幌市	知っていますか？ 正しい手洗いの方法	藤長すが子	14
平成29年10月28日	札幌市	意外と知らない、光の効果 ～太陽光をうまく活用しよう～	高儀 郁美	15
平成29年11月25日	札幌市	ロコモティブシンドロームとは？ ～自分の身体を知りましょう～	岡田 尚美	13
平成29年12月9日	札幌市	介護予防と健康増進 ～自分自身の健康づくり～	木原由里子	16
平成30年1月27日	札幌市	よい姿勢とは？ 姿勢と肩こり・腰痛予防の関係	矢口 智恵	23
平成30年2月24日	札幌市	健康に生活していくために ～日常生活を見直してみよう～	岸上 博俊	19

平成30年 3月24日	札幌市	音楽で心と体を元気にしよう！	合田恵理香	26
-------------	-----	----------------	-------	----

[平成30 (2018) 年度]

開催年月日	開催場所	テーマ	講師	人数
平成30年 4月28日	札幌市	日常生活の身体運動 －楽に立つ・歩くためのポイント－	西山 徹	29
平成30年 5月19日	札幌市	安全を判断するために放射線を正しく理解する。東京電力福島第一原発事故を経験して	河原田泰尋	14
平成30年 6月16日	札幌市	健康長寿をのばすための生活習慣 －骨折を予防するために－	小山 満子	22
平成30年 7月21日	札幌市	ストレスマネジメント －考え方のクセと気分の関係－	滋野 和恵	16
平成30年 8月25日	札幌市	高齢者の転倒予防	佐藤 秀紀	21
平成30年10月13日	札幌市	イマどきの子育て事情 －地域で支える子どもの育ち－	草薙 美穂	6
平成30年11月10日	札幌市	肩の痛み。四十肩・五十肩と腱板断裂	及川 直樹	13
平成30年12月 8日	札幌市	これからの人生を生き生きと過ごすために －人とかかわることの効果－	浅井さおり	12
平成31年 1月12日	札幌市	人体のしくみの疑問	向井 康詞	14
平成31年 2月 9日	札幌市	大人の知らない赤ちゃんの不思議な力 －生命の神秘に触れる－	福島 眞理	9
平成31年 3月 9日	札幌市	レントゲン何枚とっても大丈夫？	西山 篤	20

9. 委員会等活動報告

教授会および各種委員会の活動について、以下に示す。

保健医療学部教授会（平成30（2018）年度）

回	議案・報告事項	開催日時
01	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 復学・退学について 1 日本医療大学保健医療学部看護学科のカリキュラムの一部改訂に基づく科目の読み替えについて 2 平成30年度 日本医療大学年度別学生顕彰対象学生と顕彰状授与式について 3 FD研修会の実施予定について 4 その他 	<p>4月11日 15:30～16:00 201教室 欠席者 浅井 さおり 議事録署名人 吉野 淳一</p>
02	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員選考について 2 平成30年度 学術助成費および教育向上研究費の公募について 1 認証評価検討委員会の設置について 	<p>4月25日 15:30～16:50 201教室 欠席者 なし 議事録署名人 河原田 泰尋</p>
03	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーション学科作業療法学専攻坪田貞子教授退職予定に伴う後任人事について 2 自己点検評価委員会及び認証評価検討委員会の副委員長人事について 3 学術助成費・教育向上研究費の報告書様式について 4 規程の改正について 1 安心・安全週間の実施予定について 	<p>5月9日 15:30～16:50 201教室 欠席者 岸上 博俊 草薙 美穂 議事録署名人 佐藤 秀紀</p>
04	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員選考について 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員選考について 3 看護学科教授選考について 4 看護学科教授昇任について 5 診療放射線学科助手採用について 6 教員任用規程及び教員選考に関する細則について 7 退学について 1 平成30年度 履修登録者数について 2 実習施設変更承認申請について（診療放射線学科） 3 第5回日本医療大学体育大会について 4 平成30年度「学生の入学と生活に関するアンケート調査」の実施について 	<p>5月23日 15:30～16:00 201教室 欠席者 草薙 美穂 議事録署名人 浅井 さおり</p>
05	<p>意見を求める事項</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学科の教授公募について 2 看護学科の教授昇任について 3 学則（看護学科教育課程）変更について 4 平成30年度学術助成費・教育向上研究費の交付について 1 定期試験実施要領について 2 実習社行会について 	<p>6月13日 15:30～16:50 201教室 欠席者 草薙 美穂 小山 満子 議事録署名人 高橋 光彦</p>

回	議案・報告事項		開催日時
06	意見を求める事項 報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神などと3つのポリシーについて 2 看護学科助教昇任について 3 日本医療大学国際交流委員会規程について 1 特別講師の委嘱及び担当科目について 2 平成30年度前期定期試験について 3 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員選考委員会報告 4 看護学科基礎看護学領域教員選考委員会報告 5 計画調書留意事項の見直しについて 	<p>6月27日 15:30～16:30 201教室 欠席者 小山 満子 佐々木 由紀子 議事録署名人 住吉 孝</p>
07	意見を求める事項 報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学のアドミッションポリシーについて 2 3学科の3つのポリシーについて 3 研究費計画調書留意事項の見直しについて 4 I R (Institutional Research) 組織の設置について (案) 1 特別講師の委嘱及び担当科目について 2 前期定期試験時間割について 3 あずまし19号の発刊について 4 平成30年度学生アンケートの集計結果報告について 5 学生委員会からのお知らせ2018-2について 6 「第5回日医祭」実施計画 (案) について 7 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員選考の進捗報告 8 看護学科基礎看護学領域教員選考の進捗報告 9 看護学科助教昇任選考の進捗報告 	<p>7月11日 15:30～17:00 201教室 欠席者 なし 議事録署名人 林 美枝子</p>
08	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 3学科の3つのポリシーについて 2 看護学科助教昇任について 3 在宅看護学准教授選考について 4 休学について 5 平成30年度学生アンケートの集計結果について 1 前期定期試験受験者一覧について 2 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員選考の進捗報告 3 看護学科基礎看護学領域教員選考の進捗報告 4 認証評価受審について 5 生涯学習講座 (下期) の日程及び講師について 1 大学入学共通テストのプレテストに伴う人員要請について 2 8月22日 (水) の教授会について 	<p>7月25日 15:30～17:00 201教室 欠席者 なし 議事録署名人 草薙 美穂</p>
09	意見を求める事項 報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員の選考について 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員の公募について 3 在宅看護学准教授の公募について 4 退学・復学について 5 リハビリテーション学科教育課程の変更について 6 平成30年度学生アンケートの集計結果について 1 前期定期試験受験者一覧について (確定版) 2 AO入試実施計画について 3 カリキュラム委員会からの報告 4 看護学科基礎看護学領域教員選考の進捗報告 5 平成30年度 日本医療大学保護者懇談会 実施概要 	<p>8月8日 15:30～16:30 201教室 欠席者 草薙 美穂 俵 紀行 議事録署名人 佐々木 由紀子</p>

回	議案・報告事項		開催日時
10	意見を求める事項 報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 休学・退学について 2 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員の公募について 1 前期定期試験の結果について（確定版） 2 非常勤講師一覧について 3 平成30年度 特別講師の委嘱及び担当科目について 4 日医祭について 5 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員の公募進捗報告 6 看護学科在宅看護学准教授の公募進捗報告 7 看護学科基礎看護学領域教員選考の進捗報告 8 3学科の「3つのポリシー」の見直しについて 9 奨学寄付金の取り扱いについて（寄付受入規程） 	<p>9月12日 15:30～16:30 201教室 欠席者 なし 議事録署名人 草薙 美穂</p>
11	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 退学について 2 履修規程の変更について（リハビリテーション学科） 3 教員選考に関する申し合わせ及び公募要項の変更について 4 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員（講師）公募について 1 第5回日医祭について、および「学生相談室だより」、「学生委員会からのお知らせ2018-3」の全学配布について 2 第5回「命」を学ぶイベントについて 3 本年度学内団体の継続許可と新設について 4 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員公募の進捗報告 5 看護学科在宅看護学准教授公募の進捗報告 6 看護学科基礎看護学領域教員選考の進捗報告 7 3つのポリシーの見直しについて 1 非常勤講師等に関する規程について 2 日本医療大学年報 第3号の配布について 	<p>9月26日 15:30～16:30 201教室 欠席者 佐々木 由紀子 樋口 健太 議事録署名人 高橋 美和</p>
12	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 休学について 2 前期定期試験成績（診療放射線学科3年）について 3 非常勤講師と特別講師について 4 3つのポリシーの見直しについて 1 AO入学試験の可否について 2 特別講師の委嘱及び担当科目について 3 保護者懇談会の学生委員会からの説明について 4 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員選考の進捗報告 5 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員選考の進捗報告 6 看護学科在宅看護学領域教員選考の進捗報告 7 看護学科基礎看護学領域教員選考の進捗報告 1 会議体・各種委員会等担当について 2 会議内容の周知について 3 日本医療大学紀要第5巻の投稿について 4 国際交流の進めについて 5 学生団体の後任について 6 日医祭の反省について 	<p>10月10日 15:30～16:20 201教室 欠席者 吉野 淳一 議事録署名人 俵 紀行</p>

回	議案・報告事項		開催日時
13	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 休学について 2 臨地実習及び臨床実習の成績結果について（看護学科、リハビリテーション学科） 3 非常勤講師等に関する規程について 4 3つのポリシーの見直しについて 5 リハビリテーション学科教授昇任について 6 看護学科助手採用について 1 特別講師の委嘱及び担当科目について 2 平成30年度後期履修登録者数について 3 追実習の審査について 4 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員選考の進捗報告 5 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員選考の進捗報告 6 看護学科在宅看護学領域教員選考の進捗報告 7 看護学科基礎看護学領域教員選考の進捗報告 1 委員会等構成員について 2 教授会議事録の公開について 	<p>10月24日 15：30～16：40 201教室 欠席者 佐々木 由紀子 林 美枝子 議事録署名人 坪田 貞子</p>
14	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 休学について 2 非常勤講師等に関する規程について 3 3つのポリシーの見直しについて 4 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員の選考について 5 看護学科在宅看護学領域教員の選考について 1 推薦入試（公募前期／指定校）入学試験実施計画について 2 実習施設変更承認申請について（看護学科・診療放射線学科） 3 平成31年度 非常勤講師の委嘱について 4 シラバス作成の手引きについて 5 第5回講演会「命」の開催について 6 教員選考等の進捗報告について 1 委員会等構成員の追加について 	<p>11月14日 15：30～16：40 201教室 欠席者 西山 篤 俵 紀行 森口 眞衣 議事録署名人 八田 達夫</p>
15	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 非常勤講師等に関する規程について 2 外国人留学生入試について 1 推薦入試（公募前期／指定校）入学試験の可否について 2 推薦入試（公募後期）入学試験の実施計画について 3 定期試験時間割2018後期（看護学科4年生）について 4 シラバスの手引き（学内教員向け）について 5 平成31年度 学年暦（暫定版）について 6 あずまし（No.20・21合併号）について 7 研究倫理教育（e-learning）の受講について 8 教員選考等の進捗報告について 1）リハビリテーション学科作業療法学専攻教員の選考 2）看護学科基礎看護学領域教員の選考 3）リハビリテーション学科教授への内部昇任 1 平成31年1月9日（水）の教授会について 	<p>11月28日 15：30～16：10 201教室 欠席者 島本 和明 議事録署名人 樋口 健太</p>
16	意見を求める事項 報告事項 その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 休学・退学について 2 ディプロマポリシーと科目の整合表について 3 外国人留学生入試について 1 2019年度非常勤講師（特別講師分）の委嘱一覧について 2 追実習について 3 平成31年度 大学機関別認証評価 実地調査日程について 4 「自己点検評価書」作成説明会について 5 教員選考等の進捗報告について 1）リハビリテーション学科作業療法学専攻教員の選考 2）看護学科基礎看護学領域教員の選考 3）リハビリテーション学科教授への内部昇任 1 共通科目に関わる変更・調整について 2 人権擁護委員会規程及びハラスメントの防止等に関する規程の改正について 	<p>12月12日 15：30～15：50 201教室 欠席者 岸上 博俊 高橋 美和 議事録署名人 小山 満子</p>

回	議案・報告事項		開催日時
17	<p>意見を求める事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 休学について 2 ディプロマポリシーと科目の整合表について 3 共通科目に関わる変更・調整について 4 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員講師の選考について 5 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員准教授・講師への内部昇任について 6 非常勤講師等に関する規程について 7 ハラスメントの防止等に関する規程及び人権擁護委員会規程について 8 最終講義のあり方について 9 壮行会のあり方について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 推薦入試（公募後期）入学試験の合否について 2 2019年度非常勤講師委嘱の追加一覧について（リハビリテーション学科） 3 追実習について 4 講演会『命』の実施報告と1月の学生委員会セミナーについて（案） 5 一般入学試験（前期）の実施計画について 6 診療放射線学科の教員採用について 7 教員選考等の進捗報告について <ol style="list-style-type: none"> 1）看護学科基礎看護学領域教員の選考 2）リハビリテーション学科教授への内部昇任 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成31年1月9日（水）の教授会について 2 授業料未納の学生について 3 学生委員会の負担の軽減について 	<p>12月26日 15：30～16：30 201教室 欠席者 河原田 泰尋 議事録署名人 松本 真由美</p>	
18	<p>意見を求める事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 退学について 2 成績認定について 3 看護学科教員の内部昇任について 4 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員の内部昇任について 5 メディカルオンライン及び医学中央雑誌等への論文掲載について 6 ハラスメントの防止等に関する規程について 7 大学機構組織図及びIR室規程について 8 壮行会のあり方について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 後期定期試験受験資格者一覧について 2 後期定期試験時間割について 3 2019年度非常勤講師委嘱の追加一覧について（リハビリテーション学科・診療放射線学科） 4 臨地実習の成績結果（追実習）・看護学科について 5 第5回保健医療学部研究報告会の開催について 6 リハビリテーション学科 坪田貞子教授の最終講義について 7 卒業証書・学位記授与式実施概要について 8 教員選考等の進捗報告について <ol style="list-style-type: none"> 1）看護学科基礎看護学領域教員の選考 2）リハビリテーション学科作業療法学専攻教員の内部昇任 9 教員のハラスメントにおける人権擁護に関する報告について <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成31年度教授会日程（予定）について 2 授業料の滞納に関わる受験資格の確認について 	<p>1月23日 15：30～16：50 201教室 欠席者 俵 紀行 議事録署名人 森口 真衣</p>	

回	議案・報告事項	開催日時
19	<p>意見を求める事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2019年度 リハビリテーション学科における教育課程の科目開講時期の変更について 2 看護学科教員講師から教授への内部昇任について（委員会立上げ） 3 看護学科教員准教授から教授への内部昇任について 4 看護学科基礎看護学領域教員の選考について 5 リハビリテーション学科作業療法学専攻教員の内部昇任について 6 ハラスメントの防止等に関する規程について 7 日本医療大学名誉教授称号授与規程（案）について 8 大学機構組織図及びIR室規程について 9 日本医療大学組織規程について（主任教授の設置等） 10 日本医療大学学生の懲戒等に関する規程について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成31年度 一般入学試験（前期）の合否について 2 平成31年度 センター試験（前期）の合否について 3 2019年度 非常勤講師委嘱の追加一覧について 4 シラバスの様式（修正）について 5 追試験の審査について 6 後期定期試験受験者一覧（確定版）について 7 日本医療大学学友会第6代会長の決定について 8 平成30年度 学生相談室活動報告書について 9 平成30年度 特別表彰者について 10 教員の自己点検評価表の作成と今年度の個人教育研究業績の提出依頼について 11 教員選考等の進捗報告について <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーション学科理学療法学専攻教員の内部昇任 	<p>2月13日 15：30～16：40</p> <p>201教室 欠席者 樋口 健太 議事録署名人 岡田 洋子</p>
20	<p>意見を求める事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 復学について 2 平成30年度成績及び卒業判定について 3 実習施設の変更承認申請について（リハビリテーション学科） 4 看護学科教員講師から教授への内部昇任について 5 リハビリテーション学科理学療法学専攻教員の内部昇任について 6 大学機構組織図及びIR室規程について 7 日本医療大学学生の懲戒等に関する規程について 8 学校法人日本医療大学賞罰規程の一部改正について 9 学校法人日本医療大学組織規程の一部改正について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2019年度非常勤講師委嘱の追加一覧について 2 新入生オリエンテーションについて 3 第5回春期休暇中スタディツアーについて 4 一般入学試験（後期）の実施計画について 5 平成31年度入学式について 6 平成31年度 学校法人日本医療大学方針説明会について <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 坪田教授の最終講義について 	<p>2月27日 15：30～16：30</p> <p>201教室 欠席者 高橋 美和 議事録署名人 渡邊 良晴</p>

回	議案・報告事項		開催日時
21	意見を求める事項	1 休学・退学・復学について	3月13日 15:30～16:30 201教室 欠席者 小山 満子 議事録署名人 大堀 具視
		2 平成31年度 実習指導教員の委嘱及び担当科目について	
		3 平成30年度 後期成績及び進級判定について	
		4 看護学科教員の内部昇任について	
		5 看護学科教員の採用について	
		6 診療放射線学科学生に対する学生懲戒委員会の立ち上げについて	
	報告事項	1 平成31年度 センター試験（中期）の合否について	
		2 「学生の懲戒等に関する規程」の周知について	
		3 2019年度 学年歴について	
		4 平成31年度 カリキュラムマップについて	
		5 研究助成費（学術助成費）の利用について	
		6 特別講師（義肢装具製作所の見学）の委嘱について	
	その他	1 坪田教授退任あいさつ	
22	意見を求める事項	1 休学・退学・復学について	3月27日 15:30～16:30 201教室 欠席者 坪田 貞子 松本 真由美 議事録署名人 山田 敦士
		2 仮進級の可否について	
		3 看護学科教員の内部昇任について	
		4 看護学科教員の公募について	
	報告事項	1 平成31年度 センター試験（後期）の合否について	
		2 平成31年度 一般入学試験（後期）の合否について	
		3 非常勤講師の追加について（リハビリテーション学科	
		4 FD委員会からの報告について	
		5 2019年度（平成31年度）入学式について	
		6 日本医療大学名誉教授推薦者について	
		7 2019年度（平成31年度）会議体・委員会等構成員について	
		8 看護学科（老年看護学領域）助手の採用について	
	その他	1 2019年度（平成31年度）教授会日程について	

教務委員会活動報告	
委員長	リハビリテーション学科 教授 佐藤秀紀
構成員	教授：門間正子、乾公美、西山篤、浅井さおり、吉野淳一、俵紀行 准教授：岸上博俊 講師：杉本芳則 事務局：鶴田秀人、田中まゆみ、北宙恵
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
1. 教育課程に関する事項 2. 定期試験及びその他の試験に関する事項 3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 6. 教育施設及び教材に関する事項 7. 科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項 8. 学生便覧、講義要綱に関する事項 その他教務に関する事項	1. 教育課程に関する事項 2. 定期試験及びその他の試験に関する事項 ①定期試験実施要領の見直し ・定期試験実施要領を一部変更した。 ②試験監督の手引きの見直し ・試験監督の手引きを一部変更した。 ③定期試験受験者一覧作成（学科別） ④待機担当教員調整（学科別） ⑤定期試験時間割作成（学科別） 定期試験の科目のバランス調整（教員）を行った。 ⑥試験監督者調整（学科別） 試験監督者調整決定・追試・再試験監督案を作成（教員）した。 3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 非常勤講師・特別非常勤講師委嘱等の再確認し、発議を行った。 年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等の取りまとめを行った。 4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 学生個々の出席・成績状況を教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。進級及び卒業に関しては、進級及び卒業要件に沿い、教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。 5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 各学科における休学・退学、復学などは、規程に沿い、対応した。 6. 教育施設及び教材に関する事項 ①2019年度年間教材等全体予算 2019年度年間教材等全体予算を計画した。 ②2019年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等および予算 ③次年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱・変更予算 ④次年度教育施設等全体予算 ②③④は各学科での予算となっているが、規定に沿っての委嘱の予算前の申請を目標とした。 ⑤次年度の初年度教育に関する教材・手引書作成 初年度教育の「学修ハンドブック」を準備し、配布して活用しているため、必要があれば見直しや評価を実施して、準備することにした。 7. 科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項 事項なし 8. 学生便覧、講義要綱に関する事項 ①キャンパスハンドブックの見直しを実施した。 ②シラバスの見直しを実施した。 その他教務に関する事項 ①履修規程の見直し 履修規程の一部見直しと改正を実施した。 ②保護者懇談会の4月・10月の教務事項 各学科の保護者懇談会の教務内容を検討した。（学科別報告） ③新入生オリエンテーションの日程と内容決定 新入生オリエンテーション内容の見直しを行った。 ④在校生ガイダンスの日程と内容決定 在校生ガイダンス内容の見直しを行った。 ⑤オフィスアワーの調査（前期・後期）と学生周知を行った。

学生委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 林美枝子
構成員	教授：樋口健太 高橋光彦 准教授：大堀具視 講師：向井康詞 大村郁子 滋野和恵 小山和也 杉本芳則 事務局：鶴田秀人参与 錢本隆行参事 小野寺夏美 田中慎之介
平成30年度 運営計画	活動報告
学生委員会の通常業務（学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生のメンタル・ヘルスの保全、学生の学外活動への支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員会を毎月第2水曜日、教授会後に12回開催、1月のみ第4水曜日に開催した。 ・新入生オリエンテーション、オープンキャンパス、保護者会等での本学学生生活の説明や広報活動の実施 ・キャンパスの防災に関する「災害時行動マニュアル」の改定と発行、配布、および札幌市との「福祉避難場所等への学生等ボランティアの派遣協力に関する協定書」に基づくボランティア学生の募集と登録、学生委員会セミナーを利用した研修 本年度新たに登録した学生は7人 ・環境整備と学生の居場所作り（ガーデニングや自由文庫、イス・テーブル等の設置改善） ・ニュースレター「あずまし」の発刊（4ページ 19号～22号） ・「学生委員会からのお知らせ」の3回発行、配布 ・学生相談室の運営と学生への広報、「学生相談室だより」3回の配布 ・日ごろの生活指導、および長期休暇前の過ごし方に関する注意喚起、学生の犯罪の被害や加害、事故等への対応 ・第5回学生アンケートの実施と課題への対応
学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）	<p>平成30年</p> <p>啓発セミナー（今年20歳になる学生のための年金セミナー） 新さっぽろ年金保険事務所 5月31日 真栄キャンパス 18人 6月11日 恵み野キャンパス 38人</p> <p>安心・安全週間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察が教える護身術講座実施 5月15日 真栄キャンパス 34人参加 6月19日 恵み野キャンパス 50人参加 ・デートDVの講演会 林美枝子教授 5月15日 診療放射線学科 7人 22日 看護学科 16人 29日 リハビリテーション学科 68人 <p>10月 第5回「いのちのパネル展」 12月10日 第5回講演会「命」 講師 札幌市防災・危機管理専門官 細川雅彦氏 真栄キャンパス 95人参加 恵み野キャンパス 60人参加</p> <p>平成31年</p> <p>1月 学生委員会セミナー「金融セミナー」 SMB Cコンシューマーファイナンスからの派遣講師 8日 真栄キャンパス 10人参加 7日 恵み野キャンパス 44人参加 3月6日 第5回 春期休暇中スタディ・バスツアー 5人参加</p>

<p>学友会支援事業</p> <p>学内団体関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学友会主催定期行事への支援 平成30年 <ul style="list-style-type: none"> 4月22日（土） 新入生歓迎会・定期総会 6月5日（水） 第5回体育大会 参加学生319人 北海道立総合体育センター（北海きたえーる）メインアリーナで6競技 6月27日 診療放射線学科実習壮行会 7月2日 看護学科第4回ナーシングセレモニー 9月1日 第24回アンデルセン・グルメ祭りでキッズワールドを開催 10月5日（金）～6日（土） 第5回日医祭 模擬店13店 後援会の保護者による模擬店も初参加 学友会設立5周年記念 青山テルマLive 平成31年 <ul style="list-style-type: none"> 1月11日 リハビリテーション学科実習壮行会 1月29日 会長選挙・臨時総会 第6代 学友会会長決定 リハビリテーション学科1年 千谷卓充さん 3月15日（金） 第2回卒業を祝う会（パークホテル） 3月末 各学内団体の活動報告書の回収 その他、学友会の自主的企画に対する支援
<p>学生の賞罰に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顕彰学生の選抜と4月22日の顕彰状授与式の挙行 40名 ・年間を通しての社会貢献枠での顕彰学生推薦に関する周知
<p>奨学金に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての各種奨学金の募集情報の提供と対象学生の選抜
<p>国際交流、海外研修に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフ協会、JICA北海道との交流や協働事業活動の推進を通じた国際的視野の涵養

キャリア学修支援センター活動報告	
委員長	リハビリテーション学科 教授 八田達夫
構成員	教授：坪田貞子、草薙美穂 准教授：山田敦士 講師：藤長すが子、岡田尚美、石橋晃仁、杉本芳則、木村徹 助教：菅原美保 専門員：萬 智恵美、遠藤晃祥、清水薫、山田里見 事務局：鶴田秀人、小岩志保、山下未希
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
<p>1. キャリア学修支援センターの事業計画方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門職の国家試験対策、就職・進学対策はそれぞれ異なるためセンターの運営は、各学科の独自性を保ちつつ、全体的なレベル維持を図ることとした。 ・リメディアル教育ではカリキュラム委員会、学生の学習習慣や生活習慣に関しては学生委員会、入学前課題では入学試験実施委員会とも連携していく。 ・内部的には運営委員と専門員の連携と役割分担の検討を進める。 ・センターの学生指導は大学全体の教職員と連携して実施する。 <p>2. 3学科共通の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己診断テスト」の実施および分析（4月） ・補講（数学）の実施（5－7月） ・リメディアル教育の現状調査（8－9月） ・「自己診断テスト（2）」の実施および分析（10月） ・入学前～初年次～専門接続の一体的運用体制の模索（11－12月） ・3学科共通の就職ガイドブック作成 	<p>1. キャリア学修支援センターの事業計画方針の実施・結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1度の運営委員会を開催し、情報交換に努めた。就職は看護学科、リハビリテーション学科ともに就職希望者全員が就職した。国家試験では看護学科は97.4%と高い合格率であった。リハビリテーション学科理学療法学専攻は100%合格であった。作業療法学は76.9%と平均的な合格率であった。作業療法学専攻では3名の不合格であったが2名は本学キャリア学修支援センター提供のプログラムに全く参加できなかった。今回のケースは次年度の課題である。 ・入学生の学力低下が著しいため、リメディアル教育は重要と思われる。特に読解力や文章作成力の低下が目立つ。通常の学修に加えて、国家試験対策では大きな課題になっている。入学前課題については、リメディアル教育担当者が添削担当を兼務し、入学試験実施委員会の担当者との共有を図っている。各委員会との連携体制については次年度も引き続き構築に努めていく。 ・看護学科とリハビリテーション学科には専門員が配置された。学科によって連携の在り方が異なった。独自なあり方と共通性は今後の課題でもある。今年度、リハビリテーション学科に専門員が3名配属された。連携と分担は業務の進展にともない自然と出来上がってきた。専門員は毎日曜日の模擬試験（後期）実施や長時間の学修支援があり、今後の課題である。 ・各学科で連携の仕方は異なるが、キャリア学修支援センターと大学全体の教職員との連携はできた。リハビリテーション学科では国試対策委員会との隔週での合同会議があり、学科との連携もとれた。 <p>2. 3学科共通の実施内容・結果：自己診断テストおよび補講は今年度から実施した。共通の就職ガイドブックも作成できた。HPのキャリアサポートが不十分であったためにキャリア学修支援センターのHPを作成し、内容を刷新した。以下具体的に結果を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己診断テスト」の実施および分析を行った（4月） ・補講（数学）の実施（5－7月） ・学会や研修会への参加がかなわず、HP等での情報収集にとどまった。 ・講義展開を踏まえ、補講に関わる聞き取りに変更した。（10月） ・リメディアル教育担当者が入学前課題の担当を兼務し、入学生の国語力について、共有と課題の明確化を図った。（1－3月） ・3学科共通の就職ガイドブック作成した ・キャリア学修支援センターのHP作成した（キャリアサポートページの大幅改定）

<p>3. 看護学科</p> <p>1) 看護学科：キャリア教育・就職対策</p> <p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査(4月) ・キャリア教育研修「面接対策」(4月) ・「就職試験手続き用紙の流れ」(4月) ・進路及び活動状況の把握(4月) ・個別指導(10月～2月) ・進路決定調査(2月) <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査(6月) ・就職試験手続きに関するオリエンテーション(4月) ・キャリア教育研修「マナー講座」(7月) ・キャリア教育研修「実習直前講座」(9月下旬) ・「4年生から就職活動等のアドバイス」(12月上旬) ・キャリア教育研修「履歴書・小論文対策」(1月) ・3職種によるキャリアプラン講座(1月) ・進路希望調査(1月) <p>(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修「基礎実習直前講座」(6月下旬) ・「3職種によるキャリアプラン講座」(1月) ・キャリア教育研修「就活スタート講座」(2月) <p>(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3職種によるキャリアプラン講座」(1月中旬) <p>2) 看護学科：国家試験対策</p> <p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国試対策「国家試験の概要」(4月) ・模擬試験8回 ①<東京アカデミー>必修問題(7月下旬) 	<p>3. 看護学科</p> <p>1) 看護学科：キャリア教育・就職対策：キャリア教育・就職対策は計画通りに実施した。第2期生は就職希望者77人、道内61人、道外16人であった。内訳は、大学病院12人、国公立・公的病院17人、民間病院48人であった。以下具体的に結果を述べる。</p> <p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を実施した(4月) ・キャリア教育研修「面接対策」を実施した(4月) ・「就職試験手続き用紙の流れ」を実施した(4月) ・進路及び活動状況の把握を実施した(4月) ・個別指導を実施した(10月～2月) ・進路決定調査を実施した(2月) <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を実施した(6月) ・就職試験手続きに関するオリエンテーションを実施した(4月) ・キャリア教育研修「マナー講座」を実施した(7月) ・キャリア教育研修「実習直前講座」を実施した(9月) ・「4年生から就職活動等のアドバイス」を実施した(12月) ・キャリア教育研修「履歴書・小論文対策」を実施した(1月) ・3職種によるキャリアプラン講座を実施した(1月) ・進路希望調査を実施した(1月) <p>(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修「基礎実習直前講座」(6月下旬)を実施した ・「3職種によるキャリアプラン講座」を実施した(1月) ・キャリア教育研修「就活スタート講座」を実施した(2月) <p>(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3職種によるキャリアプラン講座」を実施した(1月中旬) <p>2) 看護学科：国家試験対策：国家試験対策は計画通りに実施した。看護学科2期生は78人の卒業生中、76人が合格した。97.4%の高い国家試験合格率を残した。以下具体的に結果を述べる。</p> <p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国試対策「国家試験の概要」を実施した(4月) ・模擬試験8回実施した ①<東京アカデミー>必修問題を実施した(7月)
---	--

<p>②<東京アカデミー>全国公開模試第1回(8月下旬)</p> <p>③<メディカ>(10月上旬)</p> <p>④<東京アカデミー>全国公開模試第2回(11月上旬)</p> <p>⑤<学研>チャレンジテスト第3回(12月上旬)</p> <p>⑥<医教>対策トレーニングIⅡ(12月下旬)</p> <p>⑦<医教>予想問題(1月上旬)</p> <p>⑧<東京アカデミー>全国公開模試第3回(1月上旬)</p> <p>・集中講義5回</p> <p>①ガイダンス<東京アカデミー>(7月)</p> <p>②集中講義<東京アカデミー>(8月)</p> <p>③集中講義<東京アカデミー>(10月)</p> <p>④集中講義<東京アカデミー>(11月)</p> <p>⑤集中講義<東京アカデミー>(12月)</p> <p>・学力不振学生への学修支援(10-2月)</p> <p>・国家試験および自己採点、事後対応(2月)</p> <p>(3年生)</p> <p>・模擬試験2回</p> <p>①<医教>必修問題対策トレーニング目標Ⅲ・Ⅳ100(9月下旬)</p> <p>②<メディックメディア>(2月)</p> <p>(2年生)</p> <p>・模擬試験2回</p> <p>①<メディカ>科目別実力テスト解剖生理学(10月)</p> <p>②<メディカ>科目別実力テスト病態生理学(2月)</p> <p>4. リハビリテーション学科</p> <p>1) キャリア教育・就職対策</p>	<p>②<東京アカデミー> 全国公開模試第1回を実施した(8月)</p> <p>③<メディカ>を実施した(10月)</p> <p>④<東京アカデミー>全国公開模試第2回を実施した(11月)</p> <p>⑤<学研>チャレンジテスト 第3回を実施した(12月)</p> <p>⑥<医教>対策トレーニングIⅡを実施した(12月)</p> <p>⑦<医教> 予想問題を実施した(1月)</p> <p>⑧<東京アカデミー>全国公開模試第3回を実施した(1月)</p> <p>・集中講義5回を実施した</p> <p>①ガイダンス<東京アカデミー>を実施した(7月)</p> <p>②集中講義<東京アカデミー>を実施した(8月)</p> <p>③集中講義<東京アカデミー>を実施した(10月)</p> <p>④集中講義<東京アカデミー> を実施した(11月)</p> <p>⑤集中講義<東京アカデミー>を実施した(12月)</p> <p>・学力不振学生への学修支援を実施した(10-2月)</p> <p>・国家試験および自己採点、事後対応を実施した(2月)</p> <p>(3年生)</p> <p>・模擬試験2回</p> <p>①<医教>必修問題対策トレーニング目標Ⅲ・Ⅳ100を実施した(9月)</p> <p>②<メディックメディア>を実施した(2月)</p> <p>(2年生)</p> <p>・模擬試験2回を実施した</p> <p>①<メディカ>科目別実力テスト解剖生理学を実施した(10月)</p> <p>②<メディカ>科目別実力テスト病態生理学を実施した(2月)</p> <p>4. リハビリテーション学科</p> <p>1) キャリア教育・就職対策: キャリア教育・就職対策は計画通りに実施した。リハビリテーション学科専用の就職ハンドブックを作成した。就職説明会を実施し、92施設162名参加が参加した。第1期生は就職希望者42人、札幌市内21人、札幌市外19人であった。内訳は、大学病院2人、国公立・公的病院10人、民間病院27人、その他1人であった。以下具体的に結果を述べる。</p>
---	---

<p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援業務の構築と調整 (4月開始、8月調整) ・H30年度 就職ガイドブック配布 (4月) ・キャリア教育研修 (学内) 履歴書の書き方 (マイナビ・リクルート等)、面接、小論文作成 (マイナビ・リクルート等) 指導 (10月) ・就職説明会 (恵み野キャンパス) (10月) ・キャリア教育研修：北海道理学・作業療法士会長 (社会人教育、職能団体の説明) (3月) <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (向日葵) テーマ：接遇 (10月) <p>(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (向日葵) テーマ：自己分析、表現 (11月) <p>(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (向日葵)：初年次教育 (4月) <p>2) リハビリテーション学科：国家試験対策</p>	<p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援業務の構築と調整を実施した (4月開始、8月調整) ・H30年度 就職ガイドブック配布した (4月)、就職ハンドブックを作成し、配布した (9月) ・キャリア教育研修 (学内) 履歴書の書き方 (リクルートキャリア)、面接対策 (リクルートキャリア)、小論文対策指導 (個別対応) を実施した (10月～) ・就職説明会 (恵み野キャンパス) を実施した 92施設162名参加した (10月) ・キャリア教育研修：北海道 理学・作業療法士会長 (社会人教育、職能団体の説明) を実施した (2月) <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (向日葵) テーマ：接遇を実施した (10月) <p>(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (向日葵) テーマ：自己分析、表現を実施した (11月) <p>(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (向日葵)：初年次教育を実施した (4月) <p>2) リハビリテーション学科：国家試験対策：国家試験対策は計画通りに実施した。他に、隔週で学科国家試験対策委員会と合同の会議を実施し、情報交換を行った。2年生、3年生を対象に、前年度までの確認テストに替わり、学修進達度テストを年2回実施した。1期生は理学療法学専攻29人の卒業生中、29人が合格した。100%であった。作業療法学専攻は13人の卒業生中、10人が合格した。76.9%であった。特に理学療法学専攻は100%の高い国家試験合格率を残した。以下具体的に結果を述べる。</p>
<p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策マニュアル作成 (4月開始、8月完成) ・国家試験模試 (キャリア学修支援センター編) 作成 (4月開始、8月完成) ・国家試験 対策教材作成 (4月開始、9月配布) ・国家試験対策教本 (キャリア学修支援センター2編) 作成 (5月開始、7月完成) ・国家試験模試8回 	<p>(4年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策マニュアル作成した (8月完成) ・国家試験模試を実施した (キャリア学修支援センター編) 作成 (8月完成) ・国家試験 対策教材を作成した (9月配布) ・国家試験対策教本 (キャリア学修支援センター2編) を作成した (7月完成) ・国家試験模試21回実施した

<p>①キャリア学修支援センター作成 (10月)</p> <p>②キャリア学修支援センター作成 (11月)</p> <p>③医歯薬出版1回目 (11月)</p> <p>④キャリア学修支援センター作成 (12月)</p> <p>⑤医歯薬出版2回目 (1月)</p> <p>⑥三輪書店 (1月)</p> <p>⑦キャリア学修支援センター作成 (1月)</p> <p>⑧キャリア学修支援センター作成 (2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験 学習 (グループ・個別) 支援 (9月~2月) ・国家試験および自己採点、事後対応 (2月) ・H31年度国家試験対策教材作成 (3月開始) ・H31年度国家試験模試 (キャリア学修支援センター編) 作成 (3月開始) <p>5. 診療放射線学科</p> <p>1) 診療放射線学科：キャリア教育・就職対策</p> <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (向日葵)：臨床実習へ向けた接遇マナー研修 (6月) <p>2) 診療放射線学科：国家試験対策</p> <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既履修科目の模擬試験 (年数回) <p>3) 診療放射線学科：リメディアル教育</p> <p>(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補習講義 (通年) 数学、物理 (前期) 情報科学 	<p>①キャリア学修支援センター作成 (10月)</p> <p>②キャリア学修支援センター作成 (11月)</p> <p>③医歯薬出版1回目 (11月)</p> <p>④キャリア学修支援センター作成 (12月)</p> <p>⑤医歯薬出版 2回目・3回目を実施した (1月)</p> <p>⑥三輪書店を実施した (1月)</p> <p>⑦キャリア学修支援センター作成 (1月)</p> <p>⑧キャリア学修支援センター作成 (2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験 学習 (グループ・個別) 支援を実施した (9月~2月) ・国家試験および自己採点、事後対応を実施した (2月) ・H31年度国家試験対策教材作成した (3月) ・H31年度国家試験模試を実施した (キャリア学修支援センター編) 作成 (3月) ・隔週 (通年) で学科国家試験対策委員会と合同の会議を実施し情報交換を行った。 <p>(2年生) (3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度までの確認テストに替わり、学修進達度テストを実施した (年2回 8月 (センター作成)、2月 (業者3科目模試))。 <p>5. 診療放射線学科</p> <p>1) 診療放射線学科：キャリア教育・就職対策：キャリア教育・就職対策は計画通りに実施した。以下具体的に結果を述べる。</p> <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修 (青山プロダクション)「医療職の接遇セミナー」を実施した (6/29) ・オスキー講習を実施した (6/1・8・15・22) <p>2) 診療放射線学科：国家試験対策：国家試験対策は計画通りに実施した。放射線取扱主任者 (国家資格) 試験受験対策講座を実施した。以下具体的に結果を述べる。</p> <p>(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を実施した (2/25) <p>(1年~3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線取扱主任者 (国家資格) 試験受験対策講座を実施した (前期に週1回) <p>3) 診療放射線学科：リメディアル教育：リメディアル教育は計画通りに実施した。診療放射線学科独自の補講である。以下具体的に結果を述べる。</p> <p>(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補習講義 (通年) 数学30コマ、物理30コマ (前期) 情報科学15コマを実施した
---	---

カリキュラム委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 吉野淳一
構成員	教授：河原田泰尋、小山満子、佐藤秀紀、八田達夫、樋口健太 准教授：岸上博俊、山田敦士 講師：西山徹 事務局：鶴田秀人、田中まゆみ、北宙恵
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
<p>1. 教育課程（カリキュラム）の検討</p> <p>各学科の教育課程の見直しを行う。これまでの教育活動で変更や追加が望ましい部分を評価し、2019年度以降の新カリキュラム再編へと進む。FD委員会、キャリア学修支援センター等と積極的に協力し連携を図る。建学の精神に沿った新カリキュラムの策定にあたって①本学の3つのポリシーの策定が重要で本学の教育理念をポリシーに反映できるようにする。また、②専門分野のみならず、基礎的・汎用的能力についての学びを構造化し、③3学科共通の学びを反映する科目設定等が重要である。以上①②③をカリキュラム委員会にて確認し、全学的な了解事項とする。</p> <p>2. 学生、教員、保護者あるいは本学教育に関わる人々からのカリキュラム評価のアンケートおよびフィードバックの実施</p> <p>3. 教育研修会の実施</p> <p>1の新カリキュラムの策定に向けてカリキュラムにおけるPDCAの過程の理解を深めるための講演又は研修を行う。</p>	<p>1. カリキュラムの改訂については、平成30年度は看護学科の形態機能学の改変とリハビリテーション学科のカリキュラム改訂を承認した。①について3つのポリシーの策定に取り掛かる予定であったが、本学の教育理念に関わる問題であるとの認識のもと3つのポリシーの策定は、3学科長、学長・総長のもとでその原案が策定されることとなった。カリキュラム委員会としては、3つのポリシーが教授会で承認された後にカリキュラム内容との関連を明示化する役割を担うこととなり、ディプロマポリシーと3学科の4年間のカリキュラムとの符号関係を示すカリキュラムマップを作成するに至った。②基礎的・汎用的能力についての学びの構造化と③3学科共通の学びを反映する科目の設定については、その必要性を認識する入口に立ったところに議論はとどまっている。</p> <p>2. カリキュラム評価のアンケート調査やフィードバックに関しては、看護学科において卒業見込みの学生と教員に向けた卒業時到達度を尋ねるアンケートを実施した。またキャリア学修支援センターから卒業した一期生にアンケートを実施した。リハビリテーション学科においては、初の卒業生に向けてのカリキュラムに関するアンケートを実施した。</p> <p>3. FD委員会と連携し日程を定め、北海道大学高等教育推進機構の山本堅一特任准教授を講師として依頼し、8月27日に「3つのポリシーを基にした有機的なカリキュラム編成」と題した講演を行った。</p>

入試委員会活動報告	
委員長	学長 島本 和明
構成員	委員：(教授) 門間正子、乾 公美、西山 篤、住吉 孝、八田達夫、林美枝子、 (学生募集対策委員会委員長) 対馬徳昭、(事務局長) 榎崎基範 事務局：本庄勝巳、山田武俊
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
1. 平成31年度入学試験の合否判定	<p>1-1 入学試験の合否判定 入学者選抜委員会から上程された合格者案について協議し、以下の通り合格者を決定した。</p> <p>【AO入試】 看護学科：18人受験 16人合格 リハ学科理学療法学専攻：17人受験 17人合格 リハ学科作業療法学専攻：8人受験 8人合格 診療放射線学科：9人受験 6人合格 3学科合計：52人受験、47人合格</p> <p>【推薦入試（指定校）】 看護学科：2人受験 2人合格 リハ学科理学療法学専攻：6人受験 6人合格 リハ学科作業療法学専攻：4人受験 4人合格 診療放射線学科：1人受験 1人合格 3学科合計：13人受験、13人合格</p> <p>【推薦入試（前期）】 看護学科：24人受験 24人合格 リハ学科理学療法学専攻：10人受験 10人合格 リハ学科作業療法学専攻：3人受験 3人合格 診療放射線学科：13人受験 11人合格 3学科合計：50人受験、48人合格</p> <p>【推薦入試（後期）】 看護学科：10人受験 10人合格 リハ学科理学療法学専攻：0人受験 0人合格 リハ学科作業療法学専攻：0人受験 0人合格 診療放射線学科：4人受験 4人合格 3学科合計：14人受験、14人合格</p> <p>【一般入試（前期）】 看護学科：120人受験 99人合格 リハ学科理学療法学専攻：27人受験 26人合格 リハ学科作業療法学専攻：6人受験 6人合格 診療放射線学科：48人受験 42人合格 3学科合計：201人受験、173人合格</p> <p>【一般入試（後期）】 看護学科：19人受験 8人合格 リハ学科理学療法学専攻：1人受験 1人合格 リハ学科作業療法学専攻：0人受験 0人合格 診療放射線学科：7人受験 4人合格 3学科合計：27人受験、13人合格</p>

	<p>【大学入試センター試験利用入試（前期）】 看護学科：118人受験 62人合格 リハ学科理学療法学専攻：51人受験 30人合格 リハ学科作業療法学専攻：11人受験 11人合格 診療放射線学科：70人受験 19人合格 3学科合計：250人受験、122人合格</p> <p>【大学入試センター試験利用入試（中期）】 看護学科：6人受験 3人合格 リハ学科理学療法学専攻：2人受験 2人合格 リハ学科作業療法学専攻：1人受験 1人合格 診療放射線学科：6人受験 1人合格 3学科合計：15人受験、7人合格</p> <p>【大学入試センター試験利用入試（後期）】 看護学科：6人受験 2人合格 リハ学科理学療法学専攻：2人受験 2人合格 リハ学科作業療法学専攻：1人受験 1人合格 診療放射線学科：2人受験 1人合格 3学科合計：11人受験、6人合格</p>
--	---

入学者選抜試験実施委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 門間正子
構成員	教授：乾 公美、西山 篤、八田達夫、佐藤秀紀、俵 紀行、松本真由美、高橋美和 講師：木村 徹 事務局：本庄勝巳、伊藤拓海
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
1. 平成31年度入学試験の実施	<p>1-2 入学試験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り、AO入試、推薦入試（指定校、公募前期、公募後期）、一般入試（前期、後期）、大学入試センター利用入試（前期、中期、後期）を実施した。 ・大学入試センター利用入試を除く各入試において「実施要領」、「学科試験監督要領」「面接試験実施要領」を作成し、説明会を開催し周知した。 ・大学入試センター試験実施にあたり当番校である北星学園大学と連携し実施した。 ・全ての入試において、事故なく円滑に実施することができた。 <p>1-2 各入学試験の合格者案作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の通り合格者案を作成し入試委員会に上程した。 <p>【AO入試】 看護学科：18人受験 16人合格 リハ学科理学療法学専攻：17人受験 17人合格 リハ学科作業療法学専攻：8人受験 8人合格 診療放射線学科：9人受験 6人合格 3学科合計：52人受験、47人合格</p> <p>【推薦入試（指定校）】 看護学科：2人受験 2人合格 リハ学科理学療法学専攻：6人受験 6人合格 リハ学科作業療法学専攻：4人受験 4人合格 診療放射線学科：1人受験 1人合格 3学科合計：13人受験、13人合格</p> <p>【推薦入試（前期）】 看護学科：24人受験 24人合格 リハ学科理学療法学専攻：10人受験 10人合格 リハ学科作業療法学専攻：3人受験 3人合格 診療放射線学科：13人受験 11人合格 3学科合計：50人受験、48人合格</p> <p>【推薦入試（後期）】 看護学科：10人受験 10人合格 リハ学科理学療法学専攻：0人受験 0人合格 リハ学科作業療法学専攻：0人受験 0人合格 診療放射線学科：4人受験 4人合格 3学科合計：14人受験、14人合格</p>

<p>2. 入学前学習課題の実施</p>	<p>【一般入試（前期）】 看護学科：120人受験 99人合格 リハ学科理学療法学専攻：27人受験 26人合格 リハ学科作業療法学専攻：6人受験 6人合格 診療放射線学科：48人受験 42人合格 3学科合計：201人受験、173人合格</p> <p>【一般入試（後期）】 看護学科：19人受験 8人合格 リハ学科理学療法学専攻：1人受験 1人合格 リハ学科作業療法学専攻：0人受験 0人合格 診療放射線学科：7人受験 4人合格 3学科合計：27人受験、13人合格</p> <p>【大学入試センター試験利用入試（前期）】 看護学科：118人受験 62人合格 リハ学科理学療法学専攻：51人受験 30人合格 リハ学科作業療法学専攻：11人受験 11人合格 診療放射線学科：70人受験 19人合格 3学科合計：250人受験、122人合格</p> <p>【大学入試センター試験利用入試（中期）】 看護学科：6人受験 3人合格 リハ学科理学療法学専攻：2人受験 2人合格 リハ学科作業療法学専攻：1人受験 1人合格 診療放射線学科：6人受験 1人合格 3学科合計：15人受験、7人合格</p> <p>【大学入試センター試験利用入試（後期）】 看護学科：6人受験 2人合格 リハ学科理学療法学専攻：2人受験 2人合格 リハ学科作業療法学専攻：1人受験 1人合格 診療放射線学科：2人受験 1人合格、 3学科合計：11人受験、6人合格</p> <p>2-1 入学前学習課題の企画および実施 ・AO入試および推薦入試（指定校、前期、後期）合格者に対し実施した。 ・学科共通の課題に加え、各学科の課題を課し実施した</p>
----------------------	--

自己点検評価委員会活動報告	
委員長	リハビリテーション学科 教授 乾公美
構成員	教授：門間正子、西山篤、八田達夫、佐藤秀紀、樋口健太、佐々木由紀子 准教授：山田敦士 事務局：檜崎基範、久保進
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
1 大学機関別認証評価受審に申請	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度、認証評価の受審を申請することを前提に4月に「認証評価検討委員会」の組織が自己点検・評価委員会内に設置された。 平成30年4月19日に公益財団法人日本高等教育評価機構が実施する「平成30年度大学・短期大学評価セミナー」に教員、事務職員各1名を派遣。評価システム改訂の経緯と今後の方向性等について報告した。 平成30年7月30日に公益財団法人日本高等教育評価機構が実施する平成31年度大学機関別認証評価の受審のため、「大学の概況についての調査票」を添付し申請を行った。 9月に東京で開催された「公益財団法人日本高等教育評価機構」が主催する「平成31年度機関別認証評価責任者及び自己評価担当者説明会」に教員、事務職員各1名を派遣。評価システムの改訂や認証評価受審における留意点について委員会で報告した。 11月に公益財団法人日本高等教育評価機構より実地調査日程について通知があり、それに伴い自己点検評価書の提出に関し12月に自己点検評価書作成説明会を開催した。
2 IR業務の推進	<ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準に基づきIR業務を専門的に行う「IR専門部会」が6月に設置され、平成31年3月をもって解散した（独立組織としてIR室を平成31年4月に設立）。
3 日本医療大学年報第3号の発行	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度自己点検評価委員会報告書として作成した。なお、装丁や内容は創刊号に準じて作成した。 当初の計画通り平成30年度上半期（9月）に発行した。
4 教員の自己点検・評価制度の運用	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の結果をグラフ化し分析を行った。 本結果はコメントを付し、本学のホームページや日本医療大学年報第3号に掲載し公表した。

研究倫理委員会活動報告	
委員長	リハビリテーション学科 教授 高橋 光彦
構成員	教授：高橋美、小山、岡田、住吉 准教授：森口 講師：矢口、及川、小山和 事務局：杉原 学外：東海林、太田
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
研究倫理委員会の開催	毎月2回開催される倫理委員会で提出された研究計画書の倫理審査を行い、30年度は18件の倫理審査を行った。
研究倫理教育の受講	大学教員全員に日本学術振興会ネットラーニング受講コースによる研究倫理eラーニングの受講を周知し、受講終了証の提出を行った。
倫理研修会への参加	平成30年度北海道地区医学・医療系大学『倫理審査委員・研究支援職員合同研修会』が平成30年8月30日（木）に札幌医科大学教育研究棟2階C201教室で開催され、委員会の構成員5名が参加した。

研究費審査委員会活動報告	
委員長	学長 島本和明
構成員	教授：高橋美和、岡田洋子、高橋光彦、坪田貞子、住吉孝、俵紀行 事務局：杉原章仁
平成30年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定 2. 平成30年度研究費の公募・申請・執行 3. 平成30年度研究活動報告
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定 公募要領に従った計画調書により審査され交付額を決定 2. 平成30年度研究費申請状況 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護学科 学術助成費（3件）、教育向上研究費（4件） 代表・共同研究者総数（18名） (2) リハビリテーション学科 学術助成費（3件）、教育向上研究費（0件） 代表・共同研究者総数（3名） (3) 診療放射線学科 学術助成費（4件）、教育向上研究費（3件） 代表・共同研究者総数（15名） 3. 平成30年度研究活動報告 ※第5回保健医療学部研究発表会において発表 平成31年3月29日開催 発表者：看護学科（7）リハビリテーション学科（3） 診療放射線学科（7）、認知症研究所（1）
次年度への課題等	次年度以降も引き続き公募及び配分方法を検討していく。

人権擁護委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 林美枝子
構成員	教授：門間正子、乾公美、西山篤、渡邊良晴、吉野淳一、松本真由美 講師：高儀郁美、西山徹、及川直樹 事務局：檜崎基範、大川日本医療大学顧問弁護士
平成30年度 運営計画	具体的な実施内容
組織の整備と関連規程の改定の話し合い	・ハラスメント委員会での調査委員会との区別がつくよう本委員会では規定修正案の再検討を提案
キャンパス・ハラスメントが発生した場合の防止委員会から学長に提案される対応策の妥当性の審議と再調査の話し合い	・キャンパス・ハラスメントに関する相談が発生し、防止委員会から学長に対して対応策が提案された場合の、審議および再調査の話し合い実施の準備を要する案件は発生しなかった。
人権侵害が発生した場合の調査委員会設置と解決	・人権侵害が発生したため、申し立てを2019年1月17日の人権擁護委員会で受理。調査委員会を設置して調査を開始した。調査委員会では3カ月にわたり複数回に及ぶ聞き取り調査を実施したが、調査報告を受ける前に年度が終了した。この件に関しては次年度の人権擁護委員会が引き継ぐことになった。
人権侵害防止のための企画立案	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害の申し立てがあり、それが受理された場合の、調査委員会設置の手順や詳細について規定の改正を要することがわかったため、次年度に申し送ることにした。 ・学生委員会やキャンパス・ハラスメント防止委員会等との連携による、人権侵害を防止する講演やプログラムを共催したいと考えていたが、今年度は学生委員会で学生に対して種々の取り組みを実施していたため、共催には至らなかった。 ・平成28年4月からの「障害者差別解消法」の施行により、身体障害や発達障害等の診断書を持つ学生に対して、キャンパス内で平等に学べるための配慮が、本学にも努力義務として課せられているが、今年度も対象となる学生がいなかったことから未整備となっている。 ・事務局では書類等の性別に関する質問事項の在り方や、申し出のあったLGBTの学生に対するトイレ、更衣室などの使用に関する整備に取り組んでいるが、こうした対応に関する人権擁護的視点でのサポートを委員会として実施することが必要であると考えているが、今年度は具体的な対応には至らなかった。学生委員会でLGBTの学生対応に関する国の講習会に教員を派遣しており、情報を共有させてもらった。

図書・学術振興委員会活動報告	
委員長	診療放射線学科 教授 住吉孝
構成員	教授：浅井さおり、草薙美穂、住吉孝 准教授：岸上博俊、矢口智恵 講師：小山和也 事務局：杉原章仁
平成30年度 事業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度図書購入 2. 第5回保健医療学部研究発表会の開催 3. 紀要第5巻の発刊
実施内容と結果	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. 平成30年度看護学科図書購入状況 和書(93)、洋書(0)、視聴覚(13)、和雑誌(44)、洋雑誌(7) 1-2. 平成30年度リハビリテーション学科図書購入状況 和書(71)、洋書(0)、視聴覚(3)、和雑誌(30)、洋雑誌(11) 1-3. 平成30年度診療放射線学科図書購入状況 和書(277)、洋書(0)、視聴覚(0)、和雑誌(8)、洋雑誌(2) 2. 第5回保健医療学部研究発表会を開催 平成31年3月29日開催 発表者：看護学科(7) リハビリテーション学科(3) 診療放射線学科(7)、認知症研究所(1) 3. 紀要第5巻を発刊 原著論文(6篇)、研究報告(1篇)、事例報告(1篇)、 資料(1篇)、短報(2篇) 平成31年3月31日発刊
次年度への課題等	蔵書点検 学術機関リポジトリへの登録準備 ILL料金相殺サービスへの参加

FD委員会活動報告	
委員長	診療放射線学科 教授 樋口健太
構成員	教授：樋口健太・高橋光彦・河原田泰尋、准教授：森口眞衣・大堀具視、 講師：滋野和恵・向井康詞、事務局：鶴田秀人
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
教員研修会の実施	平成30年8月27日（月）14：00～16：00に「ループリック評価」に関わる研修会を行い参加した教員からはアンケート調査の結果5段階で4以上の高い評価を受けた。
学生による授業評価アンケートの実施	前期授業評価アンケートは、基本的に4月～7月に実施された科目の最終講義に実施したが、診療放射線学科3年生については臨床実習の関係で9月に実施し、その後に業者に集計を依頼した。後期授業評価アンケートは、11月から2月に実施した。
フィードバックの実施	学生に対して、前期授業評価アンケートの集計結果およびフィードバックコメントは、12月から1月まで図書館等に掲示を行った。後期分については、3月から4月ぐらいまで図書館等に掲示を行った。更に、各科目担当教員にも授業評価アンケートの集計および自由記述結果を返却し、各教員からはその内容を受け、次年度の教育にどう反映させるかを各学科内で検討し貰った。
授業方法の開発等	FD委員会から代表者1名が第50回日本医学教育学会および第12回日本診療放射線学教育学会に参加し、研鑽を積んだ。また、その資料を持ち帰り委員会のメンバーに紹介等を行った。 ベストティーチャー賞などの表彰企画や併せて模擬授業の開催を会議で検討を行い継続して審議を行う予定とした。 カリキュラム検討委員会やキャリア学習支援センターとの連携、他大学との意見交流や視察によるFD委員会の活性化について検討を行った。

不正調査委員会活動報告	
委員長	リハビリテーション学科 教授 高橋 光彦
構成員	教授：乾 公美、高橋 光彦、西山 篤、林 美枝子、門間 正子、吉野 淳一、渡邊 良晴 事務局：檜崎 基範、杉原 章仁、松岡 裕子 学 外：太田 誠
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
1. 研究費不正行為の調査	研究費等に関して、架空取引による預け金、カラ出張、カラ謝金、書類改ざんによる金銭の取得等、本来の目的を逸脱した経費の支出、事実と異なる用途の報告及びこれらに準ずる研究不正行為の調査を行う。結果は不正対象が無かったため調査は行わなかった。
2. 研究不正の調査	捏造、改ざん、盗用、重複、不適切なオーサーシップ、利益相反に関わる問題等の調査を行う。結果は不正対象が無かったため調査は行わなかった。

ハラスメント防止委員会活動報告	
委員長	看護学科 教授 小山満子
構成員	教授：小山満子、坪田貞子、河原田泰尋 准教授：佐々木由紀子 事務局：本庄勝巳、遠藤知恵
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
1 ハラスメント相談員を選出し、真栄キャンパスおよび恵み野キャンパスの学生に対して掲示による周知を行い、些細な事でも相談できる体制を整える。	1 ハラスメントの防止等に関する規程に定められた5名の相談員を選任について ・相談員は各学科で選出された。 ・相談員の互選により主任相談員を選出した。相談員の氏名および連絡先を、真栄および恵みのキャンパスの学生掲示板に掲載し、相談体制を整えた。 ・現行の規程は、ハラスメントの内容が学生間に限定されていたため、人権擁護委員会と連携をはかり、法人との規定の連携を早急に行う必要があることを調整した。
2 ハラスメント相談員が相談に必要な知識を身につけるための研修会を開催する。	2 ハラスメント相談員研修会について ・相談員が相談に必要なスキルを身につけることできる全国規模の研修会の調査を行った。 ・次年度の研修参加に必要な予算措置を行うことを決定した。
3 相談員と学生相談室および保健室との連携・協力体制の構築をはかる。	3 今年度のハラスメントに関する相談の連携について担任と相談員との連携により、ハラスメントの事案の申し立てを検討中と情報があり、事案の申し立てを3月初旬まで見守っていたが、申し立てがあり、早急に臨時会議の招集を行った。3月中旬臨時会議を開催し案件を検討し、学長に報告をしていたが、両者において解決が図られ申し立ての取り下げとなった。 今後の継続計画として次の内容を検討し、委員会の改正により、次年度の新たな委員会で新事業計画となる予定である。 1. 新改正された「日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程」に沿って対応し、早急な解決に向ける。 2. 相談員と学生相談室および保健室との連携・協力体制の構築を継続する。

教員選考委員会活動報告	
委員長	学長 島本和明
構成員	門間学科長、乾学科長、西山学科長、学長が選出する教員3名以内 事務局: 栢崎基範、石山俊光
平成30年度 事業計画	実施内容・結果
本学専任教員の採用又は昇任について、候補者の審査を行う。審査は、資料収集と調査とによって総合的に行う	<ul style="list-style-type: none"> ・採用に関しては、6件の公募を行い、それぞれに委員会を設置し、14回の会議を開き、8名の候補者について、慎重に審査を行った。 ・昇任に関しては、7つの委員会を設置し、8回の会議を開き、21名の候補者について、慎重に審査を行った。

10. 教員の自己点検・評価

10-1. 教員の教育・研究・社会活動

10-1-① 学長・参事

氏名 島本 和明 職階 学長・教授

専門分野：高血圧、生活習慣病、メタボリックシンドローム

教育活動：

責任科目：総合医療論（1年次、1単位、15時間）、形態機能学Ⅱ（1年次、2単位、60時間）、
形態機能学Ⅲ（1年次、1単位、30時間）、疾病論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、チーム医療
（2年次、1単位、15時間）、保健医療論（2年次、1単位、15時間）、内科学（2年次、1単位、
30時間）

担当科目：総合医療論（15時間）、形態機能学Ⅱ（60時間）、形態機能学Ⅲ（30時間）、疾病論Ⅰ（30
時間）、保健医療論（15時間）、内科学（30時間）

非常勤講師：専門学校日本福祉看護・診療放射線学院（基礎医学大要演習2）

学内委員会・学科内業務等：運営会議、教授会、入学試験委員会（委員長）、研究費審査委員会（委
員長）、教員選考委員会（委員長）、国際交流委員会（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、
日本老年医学会、日本循環器病予防学会、日本心臓病学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本老年医学会（理事）、日本高血圧協会（理事長）、北海道心臓協会（副理事長）、日
本臨床研究フォーラム J-ARF（副理事長）、社会福祉法人 恩賜財団済生会 北海道済生会支部（会
長）、一般財団法人 つくし奨学・研究基金（評議員）、一般社団法人 日本医学教育評価機構（評
価委員）、公益財団法人 かなえ医療振興財団（評議員）、国土交通省 社会資本整備審議会（専門
委員）、厚生労働省 国民健康・栄養調査企画解析検討会（構成員）、士別市健康づくりアドバイザー

顕彰：なし

氏名 錢本 隆行 職階 参事

専門分野：高齢者福祉、地域福祉、障害者福祉、国際比較福祉、社会保障

教育活動：

責任科目：保健医療福祉行政論（2年次、1単位、15時間）、看護関係法規（3年次、1単位、15時間）

担当科目：保健医療福祉行政論（15時間）、看護関係法規（15時間）

非常勤講師：北星学園大学（国際比較福祉論6時間、海外の福祉制度4時間）、兵庫医療大学（国
際比較福祉論8時間）

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、日本認知症ケア学会、日本公衆衛生学会、北海道地域福祉学会、北海道社会福祉学会

科学研究費（研究資金）の取得：科学研究費基盤研究（C）「ハラスメント問題に対応するソーシャルワーカー養成のための集学的研究」研究分担者（平成30年度～令和2年度）

社会活動：大牟田市「地域包括支援センターが『地域包括ケア』と『地方創生』を統合し、『まちづくり』の中核として機能するための『地域生活課題』に関する情報集積及び活用等に関する調査研究事業に係る委員会」委員

顕彰：

10-1-② 看護学科教員

氏名 門間 正子 職階 看護学科長・教授

専門分野：成人看護学、クリティカルケア看護学

教育活動：

責任科目：成人看護学概論（2年前期2単位30時間）、成人看護援助論Ⅱ（3年前期、2単位30時間）、成人看護援助論Ⅲ（3年前期、2単位30時間）、健康教育論（3年前期、1単位15時間）、成人看護学実習Ⅰ（3年後期、4単位180時間）、基礎看護学（診療放射線学科2年前期、1単位、15時間）

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（12時間）、成人看護学特論（16時間）、チーム医療（リハビリテーション学科、2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：看護学科学科長、教授会、学校連絡会議、運営協議会、学生募集対策委員会、教務委員会、入学者選抜委員会（委員長）、自己点検評価委員会、人権擁護委員会、不正調査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会（評議員、査読委員）、日本看護学教育学会、日本手術看護学会、日本看護歴史学会、札幌医科大学クリティカルケア看護研究会（評議員、専任査読委員）、日本看護系大学協議会社員、日本私立看護系大学協議会社員（理事、学校教育委員）、日本音楽療法学会、北日本看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌山の上病院看護部研修において同病院看護師の研究指導、北海道整形外科記念病院看護部研修において同病院看護師の研究指導、平成30年度北海道専任教員養成講習会において講義（研究方法6時間、文献検索2時間）、平成30年度保健師助産師看護師実習指導者習会において講義（看護教育課程－成人看護学3時間）

顕彰：なし

氏名 浅井 さおり 職階 教授

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：老年看護学概論（2年次、2単位、30時間）、老年看護援助論Ⅰ（2年次、1単位、30時間）、老年看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、老年看護学実習Ⅰ（3年次、2単位、90時間）、老年看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）

担当科目：老年看護学概論（22時間）、老年看護援助論Ⅰ（26時間）、老年看護援助論Ⅱ（28時間）、老年看護学実習Ⅰ（90時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間）、看護を知る（11時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、図書・学術振興委員会、衛生委員会、学年担当教員（3年担当）、カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健医療行動科学会、日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本認知症ケア学会（査読委員）、日本健康科学学会、聖路加看護学会、日本看護倫理学会（臨床倫理ガイドライン検討委員会委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：ノテ福祉会認知症ケア研修「認知症の人の体験から支援を考える」（11月27日）、日本医療大学生涯学習講座（12月8日）

顕彰：なし

名前 岡田 洋子 職階 教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：看護教育学

担当科目：小児看護概論 小児看護援助論 小児看護学実習、看護を知る（1年次）、看護ゼミナールⅢ（3年次）、看護研究演習（4年次）

非常勤講師：旭川医科大学大学院（看護理論特論）

学内委員会・学科内業務等：倫理委員会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会和文誌専任査読委員、日本小児看護学会誌専任査読委員、日本看護学教育学会、日本家族看護学会、日本小児がん看護学会、日本思春期学会評議員、日本学校保健学会、日本発達心理学会、日本学術振興会科学研究費助成事業科研費・研究計画書第一次審査委員、道内看護系大学の紀要査読

科学研究費（研究資金）の取得なし

社会活動：北海道看護教員養成講習会講師、北海道看護教育施設協議会役員

顕彰：なし

氏名 草薙 美穂 職階 教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護援助論（3年次、1単位、30時間）、小児看護学実習（4年次、2単位、90時間）、看護ゼミナールⅣ（4年次、1単位、30時間）

担当科目：小児看護学概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、小児看護学実習（90時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：東京有明看護大学看護学部看護学科（小児看護学概論、1時間）、天使病院看護部（看護研究・質的研究、1時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、キャリア学修支援センター、看護学科カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、日本小児保健協会、乳幼児保健学会、日本乳幼児医学・心理学会、北海道成育看護研究会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究C）「ファミリーパートナーシップに基づく育児支援：支援者の人材育成への方略」研究代表者（平成30年度～令和2年度）

社会活動：天使病院・生後1ヶ月健診育児支援「すくすく相談室」、北海道小児救急電話相談（#8000）

顕彰：なし

氏名 小山 満子 職階 教授

専門分野：母性看護学、助産学、看護教育学

教育活動：

専任科目：看護を知る（1年次、1単位、15時間）、母性看護学概論（2年次、2単位、30時間）、母性看護学実習（4年次、2単位、90時間）

担当科目：看護を知る（1年次、1単位、15時間）、母性看護学概論（2年次、2単位、30時間）、「母性看護学実習」（4年次、2単位、90時間）、看護ゼミナールⅢ（3年次、1単位、30時間）、「看護ゼミナールⅣ」（4年次、1単位、30時間）、看護研究演習（4年次、2単位、90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、ハラスメント防止委員会（委員長）、研究倫理委員会、カリキュラム委員会、教員選考委員会、カリキュラム検討会、実習施設の継続活動、新実習施設開拓の活動業務

学術活動：

所属学会・研究会等：日本母性衛生学会、日本助産師学会、日本看護学教育学会、日本フォレンジック看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、北海道母性衛生学

会、北海道思春期学会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会的活動：日本看護教育協議会会員、北海道看護教育協議会委員

顕彰：なし

氏名 佐々木 由紀子 職階 教授

専門分野：成人看護学（急性期・慢性期）、がん看護学、看護管理学

教育活動：

責任科目：成人看護援助論Ⅰ（2年次後期、1単位、30時間）、成人看護学実習Ⅱ（4年次前期、2単位、90時間）

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（30時間）、成人看護学実習Ⅱ（90時間）、成人看護学特論（30時間）、成人看護援助論Ⅱ（16時間）、成人看護援助論Ⅲ（16時間）、看護研究（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、成人看護学実習Ⅰ（180時間）、看護研究演習（60時間）、チーム医療（8時間）、看護を知る（15時間）

非常勤講師：社会福祉法人ノテ福社会（感染症予防研修、1.5時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、自己点検評価委員会、認定評価検討委員会、ハラスメント防止委員会、実習検討会（リーダー）、4年生担任

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護協会、北海道看護協会、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本環境感染学会、日本看護教育学会、日本看護歴史学会、老年看護学会、日本音楽療法学会、医療事故・紛争対応研究会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成金

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 高橋 美和 職階 教授

専門分野：基礎看護学、統合看護学

教育活動：

責任科目：看護学概論（1年次、2単位、30時間）、看護の基本技術論（1年次、1単位、15時間）、援助的人間関係論（1年次、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅱ（1年次、1単位、30時間）、フィジカルアセスメント（2年次、1単位、30時間）、看護ゼミナールⅡ（2年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）、看護倫理（3年次、1単位、15時間）、看護管理（3年次、1単位、15時間）、医療安全（3年次、1単位、15時間）、感染管理（3年次、1単位、15時間）、医療情報（4年次、1単位、15時間）、臨床看護技術演習（4年次、1単位、30時間）、統合実習（4年次、2単位、90時間）

担当科目：看護学概論（30時間）、看護の基本技術論（15時間）、援助的人間関係論（30時間）、

フィジカルアセスメント（2時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、看護倫理（15時間）、看護管理（15時間）、医療安全（15時間）、医療情報（15時間）、臨床看護技術演習（30時間）、統合実習（90時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、入学者選抜委員会、研究倫理委員会、研究費審査委員会、カリキュラム検討委員会、オープンキャンパス/キャンパスツアー WG

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護管理学会、日本国際保健医療学会、日本混合方法学会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究C）「日比看護学生および看護師の職業的アイデンティティ確立支援システムの開発」研究代表者

社会活動：東北大学看護観理学研究会運営委員

顕彰：なし

氏名 林 美枝子 職階 教授

専門分野：医療人類学、社会医学

教育活動：

責任科目：文化人類学（看護学科1年次、1単位、15時間）、家族論（看護学科2年次、1単位、15時間）、文化人類学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、社会学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、文化人類学（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、社会学（診療放射線学科1年次、1単位、15時間）

担当科目：看護研究演習（4年 通年 2単位 60時間）

非常勤講師：北海道情報大学（文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ）、札幌国際大学（地域社会と健康）

学内委員会・学科内業務等：教授会、学生委員会（委員長）、入学試験委員会、学友会（運営顧問）、人権擁護委員会（委員長）、認知症研究所研究員、ボランティアサークル、学生担当教員（2年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、日本認知症ケア学会、日本フォレンジック看護学会、北海道民族学会、日本死と臨床研究会、日本母性衛生学会
科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究C）「高齢者生活支援のための地域産学官ネットワーク構築に関する研究」（H28年～H30年）研究分担者、科研費（基盤研究C）「在宅看取り介護の初期段階における困難性とその原因の分析」研究代表者（平成29年度～平成31年度）、ニッセイ財団「認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究」共同研究者（平成28年度～平成30年度）

社会活動：講演 職員研修「看取りの死生観と支援」2018年5月11日（溪仁会本部）、特別講演 北海道看護師、助産師、保健師実習指導者養成講座「病と癒し」2019年3月12日（看護協会）、田中メディカルグループ札幌大学寄付講座「死の受容」2018年10月2日、「看取りねっとの挑戦」

2019年1月8日（札幌大学）、北海道女性団体連絡協議会 秋の女性セミナー「地域づくりと女性の役割：共生社会からの期待と課題」2018年10月22日（かでる27）、北海道環境生活部くらし安全局道民生活課「DVを含むジェンダーに起因する暴力：その背景と基本的な知識の整理」2018年10月26日（札幌市エルプラザ大ホール）、旭川市市民委員会連絡協議会女性部会「地域コミュニティ活動における男女共同参画」2018年11月13日（旭川市民文化会館大会議室）、日本チェーンストア協会北海道支部「チェーンストアにとってのSDGsとは何か：社員のワーク・ライフ・バランスとディーセント・ワークを中心に」2019年1月15日（札幌ガーデンパレス）、公益財団法人市町村振興協会評議員、一般財団法人道民活動振興センター評議員、札幌市男女共同参画審議会会長、北海道民族学会運営委員・学会誌編集委員、北海道史編さん委員会専門委員、北海道社会功労賞推薦委員、北海道文化審議会委員、株式会社マックスバリュ北海道社外取締役、公益財団法人北海道女性協会 理事、北海道生産性本部理事、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会評議員、北海道看護教員養成講座（病と癒し、家族論を担当）

顕彰：なし

氏名 松本 真由美 職階 教授

専門分野：社会福祉学 精神保健学 発達心理学

教育活動：

責任科目：心理学（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位15時間）、人間関係論（看護学科1年次、診療放射線学科1年次、1単位15時間）、発達心理学（看護学科1年次、1単位15時間）、臨床心理学（看護学科2年次、診療放射線学科2年次、1単位15時間）、カウンセリング論（看護学科3年次、1単位15時間）、心理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、発達心理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、看護を知る（看護学科1年次、1単位、15時間）、看護研究演習（看護学科4年次、2単位、60時間）

担当科目：心理学（30時間）、人間関係論（15時間）、発達心理学（30時間）、臨床心理学（15時間）、カウンセリング論（15時間）、看護を知る（15時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会 入学者選抜委員会 ハラスメント相談委員 オープンキャンパス真栄キャンパスワーキンググループ（責任者）、入学前学習課題担当（責任者）、学生担当教員（1年生）、進学相談会担当（3回）、高校訪問担当（8校）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本精神障害者リハビリテーション学会、日本精神保健福祉学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本学生相談学会、北海道地域福祉学会（理事）、北海道社会福祉学会（学術誌編集委員）

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究C）「政策決定過程における精神障害当事者委員参画と当事者活動との関連」研究代表者（平成30年度～令和3年度）

社会活動：北海道地域福祉学会理事、北海道社会福祉学会学術誌編集委員、精神障害者回復者クラ

ブすみれ会理事、日本ダンスセラピー学会第27回北海道大会事務局長、北海道庁総務部法務・法人局北海道史編さん委員会社会・文化小部会委員、2018年度「第21回精神保健福祉士全国統一模擬試験」問題作成者（株式会社テコム）

顕彰：なし

氏名 吉野 淳一 職階 教授

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：精神看護学概論（2年次、2単位、30時間）

担当科目：看護を知る（1年次、1単位、15時間）、精神看護援助論（3年次、1単位、30時間）、看護研究（3年次、1単位、30時間）、看護ゼミナールⅢ（3年次、1単位、30時間）、精神看護学実習（3年次、2単位、90時間）、統合実習（4年次、2単位、90時間）、看護研究演習（4年次、2単位、60時間）

非常勤講師：札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科（人間関係論）

学内委員会・学科内業務等：カリキュラム委員会（委員長）、教務委員会、国際交流委員会・カリキュラム検討会（とりまとめ）、学生担当教員（1年主担任）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本集団精神療法学会、日本家族療法学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本トランスパーソナル心理学／精神医学会、北海道社会福祉学会、北海道公衆衛生学会・北海道集団精神療法研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本家族療法学会（代議員）、日本精神保健看護学会（代議員）、北海道家庭生活総合カウンセリングセンター（理事）、NPO法人きなはれ（理事）

顕彰：なし

氏名 森口 眞衣 職階 准教授

専門分野：宗教学、医学史、アジア医療思想史

教育活動：

責任科目：倫理学（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、生命倫理（看護学科1年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、宗教と思想（看護学科2年次・診療放射線学科1年次、1単位、15時間）、倫理学（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）、生命倫理（リハビリテーション学科1年次、1単位、15時間）

担当科目：倫理学（看護学科・診療放射線学科、30時間）、倫理学（リハビリテーション学科、30時間）、生命倫理（看護学科・診療放射線学科、30時間）、生命倫理（リハビリテーション学科、30時間）、宗教と思想（看護学科・診療放射線学科、15時間）、看護を知る（看護学科、15時間）、看護研究（看護学科、10時間）、看護研究演習（看護学科、60時間）

非常勤講師：北翔大学（高齢社会と生涯教育）、札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）、
苫小牧看護専門学校（哲学、生命倫理）、北星学園大学（現代と宗教）

学内委員会・学科内業務等：教授会、学生委員会、FD委員会、兼任教員（リハビリテーション学
科、診療放射線学科）、入学前課題担当、オープンキャンパス面接特別講座担当（真栄キャンパス・
恵み野キャンパス）、進学相談会担当（札幌5件、石狩1件、小樽1件）、高校訪問担当（札幌2校）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、日本宗教学会、日本印度学
仏教学会、日本精神病理学会、日本精神医学史学会（評議員）、日本森田療法学会、インド思
想史学会、九州医学哲学・倫理学会、北海道生命倫理研究会（コアメンバー）、北海道大学文
学研究科宗教学研究会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学平成30年度学術助成費「日本における『東洋医学』
展開に関する複合調査研究」（代表者）、上廣倫理財団平成30年度研究助成「日本における『東
洋医学』のあり方をめぐって：多様化と共生」（代表者）

社会活動：公益財団法人北海道女性協会平成30年度女性大学第1期第7回講座「『いのちの倫理』
はムズカシイ？」講師（平成30年7月17日）、北海道生命倫理研究会夏季セミナー座長（平成30
年7月28日）

顕彰：なし

氏名 山田 敦士 職階 准教授

専門分野：言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目：日本語表現（看護学科1年次、1単位、60時間（30時間×2クラス））、日本語表現（リ
ハビリテーション学科1年次、1単位、60時間（30時間×2クラス））、日本語表現（診療放射
線学科1年次、1単位、30時間）、中国語（看護学科2年次、1単位、60時間（30時間×2ク
ラス））、中国語（リハビリテーション学科1年次、1単位、60時間（30時間×2クラス））、中
国語（診療放射線学科2年次、1単位、30時間）

担当科目：日本語表現（看護学科、60時間）、日本語表現（リハビリテーション学科、60時間）、
日本語表現（診療放射線学科、30時間）、中国語（看護学科、60時間）、中国語（リハビリテ
ーション学科、30時間）、中国語（診療放射線学科、30時間）、看護研究演習（看護学科、60時間）

非常勤講師：北星学園大学（中国語）、北海道リハビリテーション大学校（音声学）

学内委員会・学科内業務等：教授会、キャリア学修支援センター、カリキュラム委員会、自己点検
評価委員会、兼任教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科）、入学前課題担当、看護学
科カリキュラム検討会、オープンキャンパス小論文特別講座担当（真栄キャンパス、恵み野キャン
パス）、バトミントン部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本言語学会、日本中国語学会（評議員、北海道支部幹事）、中国人文学会、

北海道民族学会（運営委員）、社会言語科学会、家畜資源研究会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（若手研究B）「ワ族の文字表記と書承文化に関する調査研究」研究代表者（平成28年度～令和元年度）、科研費（基盤研究B）「タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて」研究分担者（平成30年度～平成34年度）

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 大村 郁子 職階 講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：母性看護援助論（3年次、1単位、30時間）

担当科目：看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、母性看護援助論（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）、母性看護学実習（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、実習検討会、新看護ゼミナールⅠ担当WG、高校訪問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本産前産後ケア・子育て支援学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道看護協会 教育委員

顕彰：なし

氏名 岡田 尚美 職階 講師

専門分野：在宅看護、地域看護、公衆衛生看護

教育活動：

責任科目：在宅看護援助論Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、在宅看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、在宅看護論実習（4年次、2単位、90時間）

担当科目：在宅看護援助論Ⅰ（34時間）、在宅看護援助論Ⅱ（32時間）、在宅看護論実習（540時間）、看護を知る（28時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター部門員、図書・学術振興委員会、看護学科カリキュラム検討会、看護ゼミナールⅣ担当G、看護研究演習担当G、学生担当教員（1年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本子ども虐待防止学

会、北海道公衆衛生学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費基盤研究（C）「子ども虐待予防を重視した妊娠期に必要な父親のコンピテンシー構造化と支援プログラム」研究分担者、日本医療大学教育向上研究費「看護学生が実習に対して抱える困難や不安に関する研究」研究代表者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 滋野 和恵 職階 講師

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：精神看護学援助論（3年次、1単位30時間、30時間）、精神看護学実習（3年次、2単位90時間、360時間）、看護研究（3年次前期、1単位30時間、22時間）、看護研究演習（4年次通年、2単位60時間、60時間）

担当科目：看護を知る（1年次前期、1単位30時間、30時間）、看護ゼミナールⅢ（3年次通年、1単位30時間、30時間）、統合実習（4年次前期、2単位90時間、270時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、FD委員会、実習検討会、看護を知る担当G、看護研究・看護研究演習担当G、統合実習担当G、2年生Aクラス副担任

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、SST普及協会、日本精神科看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者、北海道専任教員養成講習会看護研究演習助言者、日本医療大学生涯学習講座講師

顕彰：なし

氏名 高儀 郁美 職階 講師

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：成人看護学特論（2年次後期1単位30時間、30時間）

担当科目：看護を知る（30時間）、成人看護援助論Ⅰ（24時間）、成人看護援助論Ⅱ（8時間）、成人看護援助論Ⅲ（18時間）、成人看護学特論（30時間）、成人看護学実習Ⅰ（90時間）、成人看護学実習Ⅱ（90時間）、看護研究（18時間）、看護研究演習（90時間）、ゼミナールⅢ（24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：カリキュラム検討会、人権擁護委員会、看護を知る担当、看護ゼミナールⅢ担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本死の臨床研究会、日本死の臨床研究会北海道支部、日本行動療法学会、
日本ヒューマンケア心理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、
日本家族看護学会、日本建築学会、日本医療福祉設備協会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 福島 眞里 職階 講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：看護ゼミナールⅢ（3年次、1単位、30時間）

担当科目：看護を知る（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、母性看護援助論（26時間）、母
性看護学実習（90時間）、看護研究演習（58時間）、看護ゼミナールⅣ（26時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：FD委員会・学生担当教員（4年生副担任）、オープンキャンパス・キャン
パスツアーWG、看護ゼミナールⅢ担当G

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学
会、日本思春期学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 藤長 すが子 職階 講師

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅲ（1年次、1単位、30時間）、
診療過程の援助技術（2年次、1単位、30時間）

担当科目：生活援助技術Ⅰ（30時間）、生活援助技術Ⅱ（22時間）、生活援助技術Ⅲ（30時間）、
診療過程の援助技術（14時間）、フィジカルアセスメント（18時間）、看護ゼミナールⅡ（26時
間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、ゼミナールⅣ（14時間）、看護研究演習（28時間）、臨床看
護技術演習（24時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、統合実習（90
時間）

非常勤講師：北海道看護協会主催 保健師助産師看護師実習指導者講習会統合分野（実習指導案
作成、3時間）

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター部門員、実習検討会、ハラスメント相談員

学術活動：

所属学会・研究会等：看護科学学会、看護学教育学学会、看護技術学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 合田 恵理香 職階 助教

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（12時間）、成人看護援助論Ⅱ（8時間）、成人看護援助論Ⅲ（18時間）、成人看護学特論（16時間）、成人看護学実習Ⅰ（180時間）、成人看護学実習Ⅱ（90時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護研究演習（60時間）、統合実習（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、高校訪問担当教員、一日体験入学担当グループ、看護ゼミナールⅢ担当グループ、庶務係、親睦会役員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護歴史学会、日本音楽療法学会、日本統合医療学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 後藤 理香 職階 助教

専門分野：在宅看護、公衆衛生看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：在宅看護援助論Ⅰ（8時間）在宅看護援助論（8時間）在宅看護論実習（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、看護学科一日体験入学WG

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本公衆衛生看護学会、北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 齋藤 道子 職階 助教

専門分野：感染看護、感染管理

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（15時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、成人看護援助論Ⅰ（18時間）、成人看護学特論（10時間）、成人看護援助論Ⅱ（8時間）、成人看護援助論Ⅲ（18時間）、感染管理（15時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、成人看護学実習Ⅰ（180時間×2）、成人看護学実習Ⅱ（90時間×3）、統合実習（90時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：北海道医療大学認定看護師研修センター共通分野（医療情報論、6時間）、北海道医療大学認定看護師研修センター感染管理分野（試験対策セミナー、8時間）

学内委員会・学科内業務等：看護学科カリキュラム検討委員会、オープンキャンパス/学科体感担当、3年生副担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本環境感染学会（ISO/TC304国内審議委員会、委員）、日本感染看護学会、北海道NP研究会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 齋藤 リカ 職階 助教

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（1年次前期、1単位30時間、28時間）看護研究（3年次前期、1単位30時間、20時間）、看護研究演習（4年次前期、2単位60時間、60時間）、臨床看護技術演習（4年次前期、1単位30時間、4時間）、看護ゼミナールⅢ（3年次通年、1単位30時間、20時間）、老年看護学概論（2年次前期、1単位30時間、8時間）、老年看護援助論Ⅰ（2年次後期、1単位30時間、10時間）、老年看護援助論Ⅱ（3年次前期、1単位30時間、10時間）、老年看護実習Ⅰ（3年次後期、2単位90時間、270時間）、老年看護実習Ⅱ（3年次後期、2単位90時間、270時間）、統合実習（4年次後期、2単位90時間、90時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次後期、2単位90時間、90時間）

非常勤講師：創研学園 看予備（国家試験対策）

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、看護学科1日体験入学担当グループ、看護研究・看護研究演習担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本生理人類学会、日本睡眠学会、日本プライマリ・ケア学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 菅原 美保 職階 助教

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：小児看護学概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、
臨床看護技術演習（30時間）、看護を知る（30時間）、看護研究演習（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター、実習検討会、庶務

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、北海道医療大学看護福祉学部学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 吉田 香 職階 助教

専門分野：基礎看護学、看護教育

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅱ（1年次、1単位、30時間）、
生活援助技術Ⅲ（1年次、1単位、30時間）、診療課程の援助技術（2年次、1単位、30時間）、フイ
ジカルアセスメント（2年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、
看護ゼミナールⅡ（2年次、1単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2年次、2単位、90時間）、
看護研究（3年次、1単位、30時間）、看護ゼミナールⅢ（3年次、1単位、30時間）、統合実
習（4年次、2単位、90時間）、看護研究演習（4年次、2単位、60時間）、看護ゼミナールⅣ
（4年次、1単位、30時間）、臨床看護技術演習（4年次、1単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、学生募集必達プロジェクト、オープンキャンパス、一日
体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、北海道医療

大学看護福祉学部学会、看護科学研究学会、日本看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 佐藤 満代 職階 助手

専門分野：基礎看護学

教育活動：

担当科目：生活援助技術Ⅰ（30時）、生活援助技術Ⅱ（30時間）、生活援助技術Ⅲ（30時間）、診療過程の援助技術（30時間）、フィジカルアセスメント（30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、統合実習（90時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護研究演習（60時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、臨床看護技術演習（30時間）

学内委員会：カリキュラム検討会、オープンキャンパス・キャンパスツアー

学術活動：

所属学会・研究会等：なし

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会貢献：なし

顕彰：なし

氏名 竹之内 優美 職階 助手

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護学実習Ⅰ（90時間×5クール=450時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間×6クール=540時間）、統合実習（90時間）、基礎看護実習Ⅰ（45時間）、老年看護学概論（演習4時間）、老年看護援助論Ⅱ（演習12時間）、臨床看護技術演習（技術試験2時間）、看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護ゼミナールⅣ（6時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護倫理学会、北海道心理学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

10-1-③ リハビリテーション学科教員

氏名 乾 公美 職階 リハビリテーション学科長・教授

専門分野：運動療法学、義肢装具学、神経筋促通治療学（PNF）、骨格筋生理学

教育活動：

責任科目：運動療法学（2年次、1単位、30時間）、生理学演習（2年次、1単位、30時間）、神経筋促通治療学（3年次、1単位、30時間）、研究法（3年次、1単位、30時間）、運動器障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）、義肢装具学（3年次、1単位、30時間）、義肢装具学演習（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（4年次、4単位、60時間）

担当科目：運動療法学（2年次、1単位、30時間）、神経筋促通治療学（3年次、1単位、30時間）、研究法（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（4年次、4単位、60時間）

非常勤講師：山形県立保健医療大学（神経筋促通治療学、20時間）、札幌医科大学（義肢装具学、6時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、運営会議、学生募集対策委員会、教務委員会、入学者選抜委員会、入試委員会、自己点検評価委員会（委員長）、人権擁護委員会、国際交流委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会（委員長）、リハビリテーション学科国家試験対策委員会、チューター
学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会、日本義肢装具学会、日本生理学会、日本体力医学会、日本PNF学会（理事）、北海道リハビリテーション学会（評議員）、北海道理学療法士会（表彰審査委員会委員長）、全国リハビリテーション学校協会（北海道ブロック理事）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：恵庭市長寿大学運営委員会委員

顕彰：なし

氏名 高橋 光彦 職階 理学療法学専攻長・教授

専門分野：運動療法学、物理療法学、呼吸器系理学療法学、運動学

教育活動：

責任科目：運動学（2年次、4単位、30時間）、運動学演習（2年次、1単位、15時間）、呼吸・循環器障害理学療法学（2年次、1単位、15時間）、物理療法学（3年次、1単位、15時間）、物理療法学演習（3年次、1単位、15時間）、臨床実習Ⅱ（3年次、3単位、3時間）

担当科目：生理学演習（2年次、1単位、12時間）、研究法（3年次、1単位、1時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、15時間）

非常勤講師：北海道柔道整復師専門学校（リハビリテーション医学、運動学）、北星学院大学（リハビリテーションⅡ）

学内委員会・学科内業務等：理学療法専攻長、教授会、研究倫理委員会、学生委員会、研究費審査委員会、FD委員会、4年クラス担任、日本医療大学認知研究所研究員、チューター、学生団体サークル「サッカーサークル」「恵み野バドミントンサークル」

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本体力医学会、北海道リハビリテーション学会

科学研究費（研究資金）の取得：厚労省科学研究費（難治性疾患等克服研究事業）

社会活動：恵庭市社会福祉審議会・障害者福祉専門部会委員

顕彰：なし

氏名 坪田 貞子 職階 作業療法学専攻長・教授

専門分野：生体力学、上肢機能障害学

教育活動

責任科目：作業療法概論、作業療法評価学、臨床実習Ⅱ、身体障害作業療法治療学、特論（身体障害作業療法：ハンドセラピー）、義肢装具学、義肢装具学演習、チーム医療

担当科目：臨床実習Ⅱ、Ⅲ、看護学科チーム医療論（1コマ）

非常勤講師：北海道文教大学 身体障害作業療法演習【面接技法・頸髄損傷OT治療学】、北海道リハビリテーション大学校【義肢装具学・ハンドセラピー】、札幌リハビリテーション専門学校【運動器治療学・ハンドセラピー】、日本福祉リハビリテーション学院【運動器治療学・ハンドセラピー】

学内委員会・学科内業務等：OT専攻長、ハラスメント防止委員会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：国際ハンドセラピー学会、日本作業療法学会、日本義肢装具学会、北海道作業療法学会、北海道リハビリテーション学会、日本手の外科学会、北海道ハンドセラピー研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 佐藤 秀紀 職階 教授

専門分野：リハビリテーション学、保健福祉学、老年社会科学

教育活動：

責任科目：リハビリテーション論（1年次、2単位、30時間）、地域理学療法学（3年次、1単位、30時間）、生活環境学（3年次、1単位、30時間）、高齢期障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：リハビリテーション論（30時間）、地域理学療法学（10時間）、生活環境学（30時間）、

高齢期障害理学療法学（30時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会（委員長）、自己点検・評価委員会、入学者選抜委員会、カリキュラム委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健福祉学会（査読委員）、日本社会福祉学会（査読委員）、日本老年社会学会（査読委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 八田 達夫 職階 教授

専門分野：作業療法学

教育活動：

責任科目：発達障害作業治療学（60時間）、就労支援作業療法学（30時間）、作業療法特論（シーティング）（30時間）、作業療法概論演習Ⅰ（30時間）

担当科目：作業療法概論（2時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻 職業関連作業療法学（6時間）、北星学園大学社会福祉学部 リハビリテーション論Ⅰ（30時間）

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター（委員長）、入学者選抜委員会、自己点検・評価委員会、入試委員会、カリキュラム委員会、国際交流委員会、日本医療大学認知症研究所

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本リハビリテーション工学カンファレンス、日本職業リハビリテーション学会（ブロック理事）、北海道アクティブバランスシーティング研究会（副代表）、北海道感覚統合研究会（顧問）

科学研究費（研究資金）の取得：認知症高齢者のリハビリテーションモデル、介護モデルの発展に寄与しうる「理想的ないす」の開発（株クオリ受託研究）

社会活動：株式会社日本ケアサプライ 研修会名「2018年度車椅子シーティング研修会」依頼テーマ「アクティブバランスシーティング」2018年9月4日（火）17:30～19:30、2018年10月4日（木）17:30～19:30、2018年11月8日（木）17:30～19:30

顕彰：なし

氏名 大堀 具視 職階 准教授

専門分野：作業療法（身体障害、認知症）

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション学（2年次、1単位、30時間）、身体障害作業治療学（3年次、

2単位、60時間)、日常生活適応学(3年次、2単位、60時間)、作業療法セミナーⅢ(3年次、1単位、30時間)、福祉住環境論(3年次、1単位、30時間)、リハビリテーション管理学(4年次、1単位、15時間)

担当科目：生理学演習(1単位30時間)

非常勤講師：手稲溪仁会病院臨床指導、IMS札幌内科リハビリテーション病院臨床指導、旭川圭泉会病院臨床指導、特別養護老人ホーム芦別慈恵園介護指導、特別養護老人ホームふるさと現場指導、特別養護老人ホームきくすいの里現場指導

学内委員会・学科内業務等：学生委員会(学内)、FD委員会(学内)キャリア学修支援センター(学科内)、臨床実習(専攻内)

学術活動：

所属学会・研究会等：(社)日本作業療法士協会、(公社)北海道作業療法士会、作業療法研究学会、日本生態心理学会、地域リハビリテーション研究会、日本ポバース研究会

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士連盟代表、学術誌「作業療法」査読者(第一査読)、機関紙「北海道作業療法」査読者、札幌市介護認定審査会委員、北海道作業療法士会現職者共通研修講師(2018年12月1日：札幌医療リハビリ専門学校)、北海道作業療法士会現職者選択研修講師(2018年10月13日：函館五稜郭病院)、社会福祉法人溪仁会職員研修(2018年8月8日手稲つむぎの杜)、社会福祉法人溪仁会職員研修(2018年8月22日西円山敬樹園)、空知老人福祉施設協議会主催 介護職員等研修講師(2018年11月11日、2018年11月18日：特別養護老人ホーム芦別慈恵園)、後志老人福祉施設協議会主催 直接処遇者研修講師(2018年8月7日-8日、2018年10月2日：ルスツリゾートホテル他)、芦別市みんなで介護考える会 講演会講師(2018年9月2日：芦別市民会館)、留萌管内脳卒中パス協議会(2018年10月9日 留萌振興局)、ノテ福社会職員研修会講師(2018年4月18日、2018年4月25日：特別養護老人ホームふるさと)、第18回認知症を考える会分科会講師(2019年2月17日：香川県 ユープラザうたづ)、第18回気づきを築くユニットケア全国実践研究フォーラム アンコール講演(2019年3月10日：兵庫県 関西学院大学)

顕彰：なし

氏名 岸上 博俊 職階 准教授

専門分野：高齢期作業療法 地域作業療法

教育活動：

責任科目：作業療法セミナーⅠ(1年次、30時間)、作業療法評価学演習(骨・関節)(2年次、30時間)、作業療法評価学演習(神経・筋力)(2年次、60時間)、高齢期障害作業治療学(3年次、60時間)、日常生活適応学(ADL)(3年次、60時間)

担当科目：卒業研究Ⅱ(4年次、60時間)、臨床実習Ⅱ(2年次)、臨床実習Ⅲ(3年次)

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、図書・学術振興委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会、安全衛生委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会（理事）、日本リハビリテーション工学カンファレンス、障害学会、作業療法を社会学・障害学する研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 石橋 晃仁 職階 講師

専門分野：神経系理学療法学

教育活動：

責任科目：理学療法セミナーⅠ（1年次、1単位、30時間）、理学療法セミナーⅡ（2年次、1単位、30時間）、理学療法セミナーⅢ（3年次、1単位、30時間）、神経障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）、神経障害理学療法学演習（3年次、1単位、30時間）、日常生活活動基礎学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：理学療法セミナーⅠ（1年次、30時間）、理学療法セミナーⅡ（2年次、30時間）、理学療法セミナーⅢ（3年次、30時間）、神経障害理学療法学（3年次、30時間）、神経障害理学療法学演習（3年次、30時間）、日常生活活動基礎学（3年次、30時間）、チーム医療論（3年次、2時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、30時間）、卒業研究Ⅱ（4年次、60時間）、リハビリテーション管理学（4年次、8時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター運営委員、ハラスメント相談員、オープンキャンパスワーキンググループ、理学療法学専攻4年生学生担当教員、理学療法学専攻臨床実習担当教員、チューター、軟式野球部顧問、リハビリテーション教育評価機構評価認定審査受審担当ワーキンググループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会（社会局介護予防・健康増進支援部長）、認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、日本リハビリテーションスポーツ学会（旧 医療体育研究会）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌市理学療法赤十字奉仕団副委員長、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック幹事、公益社団法人日本理学療法士会代議員、第53回日本理学療法学術大会査読委員、第16回日本神経理学療学会学術大会査読委員、第69回北海道理学療法士学術大会査読委員、いきいき健康・福祉フェア2018アドバイザー、理学療法士会ブース運営責任者、札幌刑務所高齢・障害受刑者用社会復帰支援プログラム「基本的生活動作訓練」講師、大谷地パークアベニュー団地いきいきサロン体操指導講師、北海道理学療法士会介護予防推進リーダー導入研修会講師、札幌宮の沢脳神経外科病院臨床および勉強会・研究指導特別講師、STVラジオ「工藤じゅんきの十人十色」

ツルは千年カメは万年健康一口メモゲスト出演

顕彰：なし

氏名 及川 直樹 職階 講師

専門分野：運動器リハビリテーション、義肢・装具学、福祉用具学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（骨・関節系）（2年次、1単位、30時間）、義肢装具作業療法学（3年次、1単位、15時間）義肢装具作業療法学演習（3年次、1単位、15時間）、福祉用具学（3年次、1単位、15時間）

担当科目：卒業研究Ⅰ（30時間）、身体障害治療学（1時間）、作業療法評価学（1時間）、軟部組織治療学（10時間）

非常勤講師：札幌リハビリテーション専門学校（作業療法各論）、羊ヶ丘病院臨床指導

学内委員会・学科内業務等：研究倫理委員会、人権擁護委員会、1学年学担、チューター、臨床実習業務

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、北海道整形災害外科学会、北海道ハンドセラピィ研究会（幹事）、第31回日本ハンドセラピィ学会学術集会実行委員、北海道作業療法士会機関誌論文審査委員、北海道作業療法士会学術部編集委員会委員

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：2018年度メディカルスタッフのための運動器解剖セミナー（インストラクター）、日本医療大学生涯学習講座、平成30年度北海道作業療法士連盟講習会講師、NPO法人北海道野球協議会少年野球肘検診

顕彰：なし

氏名 西山 徹 職階 講師

専門分野：義肢装具学、身体運動学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：義肢装具学（15時間）、義肢装具学演習（15時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、臨床実習Ⅲ（理学療法）（24時間）、卒業研究Ⅰ（15時間）、卒業研究Ⅱ（30時間）

非常勤講師：北海道医療大学（義肢装具学Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：カリキュラム委員会、人権擁護委員会、リハビリテーション学科定員増ワーキンググループ、オープンキャンパスワーキンググループ、学生担当教員（2年生）、チューター、恵み野バレーボール部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本PNF学会、日本理学療法科学学会、臨床歩行分析研究会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費「高齢者における咄嗟の方向転換時のステップ戦略について」研究代表者

社会活動：北海道理学療法士学術大会 査読委員・運営委員、日本医療大学生涯学習講座 講師

顕彰：なし

氏名 向井 康詞 職階 講師

専門分野：解剖学、運動器障害、運動生理学

教育活動：

責任科目：解剖学演習（骨・筋）（1年次、2単位、60時間）、理学療法評価学（運動器系）（2年次、1単位、30時間）、臨床判断学（基礎編）（2年次、1単位、30時間）、臨床判断学（応用編）（3年次、1単位、30時間）

担当科目：生理学演習（2年次、1単位、30時間）、運動学演習（2年次、1単位、30時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（2年次、2単位、60時間）、卒業研究Ⅰ（3年次、1単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（4年次、2単位、60時間）

非常勤講師：北海道メディカル・スポーツ専門学校（スポーツ医学Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、FD委員会、募集必達プロジェクト、理学療法学専攻3学年担任、解剖学見学実習担当、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本義肢装具学会、運動生理学学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：「北海道理学療法学」査読委員、日本医療大学生涯学習講座講師（平成31年1月12日）

顕彰：なし

氏名 矢口 智恵 職階 講師

専門分野：神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動：

責任科目：機能解剖学（1年次、1単位、30時間）、運動療法学演習（2年次、1単位、30時間）、発達障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：機能解剖学（30時間）、運動療法学演習（30時間）、発達障害理学療法学（30時間）、解剖学演習（骨・筋）（60時間）、生理学演習（30時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、臨床実習Ⅲ（理学療法）（24時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）、卒業研究Ⅱ（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：研究倫理委員会、図書・学術振興委員会、学科カリキュラム検討ワーキンググループ、学生担当教員（理学療法学専攻3年生）、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本健康行動科学会（編集委員、評議員）、日本理学療法士協会、Society for Neuroscience、日本臨床神経生理学会、日本生理人類学会（評議員）

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究C）「高齢者における体性感覚と視覚への注意分散と姿勢制御の関連」研究代表者（平成29年度～平成33年度）

社会活動：恵庭市長寿大学講師

顕彰：なし

氏名 木原 由里子 職階 助教

専門分野：地域理学療法学、高齢者理学療法学、公衆衛生学

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション学演習、理学療法評価学演習（運動器系）

担当科目：地域理学療法学

非常勤講師：札幌医科大学（健康管理と理学療法；理学療法における国際保健）、北海道医療大学（国際協力と理学療法）

学内委員会・学科内業務等：ハラスメント相談員、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会、日本国際保健医療学会、応用老年学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会 社会局介護予防・健康増進支援部 部員、北海道理学療法士会 新人教育プログラム 講師、独立行政法人国際協力機構（JICA）国際緊急援助隊・登録者、独立行政法人国際協力機構（JICA）北海道 北海道の地域保健・福祉に関する基礎調査・調査員、胆振東部地震/大規模災害リハビリテーション支援関連団体（JRAT）活動参加、北海道リハビリテーション専門職協会（HARP）平成30年北海道胆振東部地震におけるDoRAT活動およびリハビリテーション専門職としての活動・報告、乙部町/社会福祉法人ノテ福祉会における講師、平成30年度檜山地域ケマネジャー連絡会研修会講師

顕彰：なし

氏名 清本 憲太 職階 助教

専門分野：疼痛、知覚、整形外科学、作業療法学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（中枢神経系）、基礎作業療法学演習（応用作業分析）

担当科目：作業療法評価学演習（神経・筋力系）、作業療法評価学演習（骨・関節系）、作業療法

評価学、作業療法治療学（内部障害・運動器障害）、作業療法治療学特論（ハンドセラピー）

非常勤講師：埼玉県立大学（身体機能作業療法学演習（基礎））

学内委員会・学科内業務等：学科内カリキュラム検討委員会、臨床実習担当（専攻内）、OSCE運営委員、学生担当教員（1年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、日本ハンドセラピー学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本作業療法研究学会、日本センサーリハビリテーション研究会、北海道整形災害外科学会、北海道作業療法士会（教育部員）、北海道ハンドセラピー研究会（理事）

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成金（共同研究者）

社会活動：作業療法ジャーナル論文査読委員、日本作業療法士協会学会演題審査委員、北海道作業療法士会学会演題審査委員、北海道作業療法士会教育部員

顕彰：なし

氏名 合田 央志 職階 助教

専門分野：老年期作業療法学、福祉用具学、日常生活活動学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（基礎）（2年前期、1単位、15時間）、基礎作業学演習（基礎作業分析）（1年前期、1単位、15時間）

担当科目：作業療法評価学演習（基礎）（2年前期、1単位、15時間）、基礎作業学演習（基礎作業分析）（1年前期、1単位、15時間）、作業療法セミナーⅡ（2年後期、1単位、15単位）、生理学演習（2年前期、1単位、30時間）、運動学演習（2年後期、1単位、15時間）、卒業研究Ⅰ（3年後期、1単位、15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学担（3年生）、チューター、ホームページ担当、バスケットボール部顧問、卓球サークル顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会、北海道作業療法士会、北海道作業療法学会（演題査読委員）、日本リハビリテーション工学カンファレンス

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費取得

社会活動：北海道作業療法士会 学会評議委員、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック幹事、ノテ福祉会職員講習会（11月1日、11月9日、11月16日、11月30日、2月27日、3月13日、計6回）、ノテ福祉会新入社員講習会（10月3日）、ノテ福祉会第1回リハビリテーション研修会（3月16日）、ノテ福祉会平成31年度新入社員講習会（3月20日）

顕彰：なし

氏名 坂口 友康 職階 助教

専門分野：地域、高齢者、認知症、理学療法評価、痛み

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：理学療法評価学（神経系）（2年次、1単位、30時間）、理学療法評価学演習（神経系）（2年次、2単位、60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学科会議議事録係、親睦会係

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 新開谷 深 職階 助教

専門分野：運動器理学療法、徒手理学療法

教育活動：

責任科目：情報科学演習、体表解剖学

担当科目：

非常勤講師：北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科（健康運動実践論）

学内委員会・学科内業務等：臨床実習担当、チューター、サッカー部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：公益（社）日本理学療法協会、公益（社）北海道理学療法士会、日本整形徒手療法協会 日本運動器徒手療法学会、マニュアルセラピー研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会学会研修部および総務部、バイオメカニクスセミナー in 北翔大学にかかると、理学療法士講習会（応用編）体幹の触診機能解剖にかかると講師

顕彰：なし

10-1-④ 診療放射線学科教員

氏名 西山 篤 職階 診療放射線学科長・教授

専門分野：診療画像機器学、医用工学、診療放射線学

教育活動：

責任科目：放射線科学概論（1年次、1単位、15時間）、診療放射線学概論（1年次、1単位、15時間）、診療画像機器学（2年次、1単位、30時間）、電気電子工学（2年次、2単位、30時間）、医用工学実験（2年次、1単位、45時間）、医用工学（2年次、2単位、30時間）、診療画像機器学

演習（3年次、1単位、30時間）、診療画像機器学実験（3年次、1単位、45時間）

担当科目：診療画像機器学（2年次、1単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、運営委員会、教務委員会、経営戦略会議、学生募集対策委員会、学生募集必達プロジェクト、教員選考委員会、入学者選抜委員会、人権擁護委員会、調査委員会、賞罰委員会、自己点検・評価委員会、IR委員会、学校連絡会議

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本診療放射線技師教育学会、日本診療放射線学教育学会、医用画像情報学会、総合医用画像技術研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：診療放射線技師関連法令および臨床実習あり方検討会（委員）、技師法改正歴史編纂委員会（委員）、技師法改正検討委員会（委員長）、日本診療放射線技師会6年制教育検討委員会（委員長）、倫理委員会（委員）、診療放射線技師教育内容検討班（委員）、カリキュラム等検討委員会（構成員）

顕彰：なし

氏名 河原田 泰尋 職階 教授

専門分野：放射線管理学、放射線計測学

教育活動：

責任科目：放射線安全管理学（3年次、2単位、30時間）

担当科目：医療工学実験（2年次、1単位、45時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：図書・学術振興委員会、カリキュラム委員会、FD委員会、ハラスメント防止委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本補医療物理学会、日本放射線技術学会、医療放射線防護医療協議会、日本診療放射線学教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：教育向上研究費「学生のキャリアアップのための支援プログラム構築について」代表者

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 住吉 孝 職階 教授

専門分野：放射線化学、放射化学、物理化学

教育活動：

責任科目：化学（1年次、1単位、15時間）、放射線物理学（1年次、2単位、30時間）、放射化

学（2年次、2単位、30時間）、放射線物理演習（2年次、1単位、30時間）、放射線計測学（3年次、2単位、30時間）

担当科目：化学（15時間）、放射線物理学（30時間）、放射化学（30時間）、放射線物理演習（30時間）、放射線計測学（30時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：教授会、図書・学術振興委員会（委員長）、研究倫理委員会、研究費審査委員会、入学試験委員会、学生懲戒委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本原子力学会（フェロー）、日本放射線化学会、日本アイソトープ協会（特別会員）

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費（代表者）

社会活動：なし

顕彰：日本原子力学会シルバー会員

氏名 俵 紀行 職階 教授

専門分野：磁気共鳴医工学、スポーツ医科学

教育活動：

責任科目：放射線物理学実験（2年次、1単位、45時間）、診療画像技術学Ⅱ（造影検査）（3年次、2単位、30時間）、画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波・造影画像）（3年次、2単位、30時間）、MRI検査学（3年次、2単位、30時間）

担当科目：放射線科学概論（1年次、1単位、15時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（2年次、1単位、45時間）、診療画像機器学実験（3年次、1単位、45時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、入学者選抜委員会、研究費審査委員会、国際交流委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、医用画像情報学会、日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学会、日本骨形態計測学会、日本ヒト脳機能マッピング学会、日本放射線技師会、北海道放射線技師会、ESR（European Society of Radiology）、SMRT（Section for Magnetic Resonance Technologists）

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：Saitama MRI Conference 委員、一般社団法人日本磁気共鳴医学会代議員

顕彰：Best Poster Presentation Award (2nd) , AOCMP & SEACOMP 2018 (18th Asia-Oceania Congress of Medical Physics & 16th South-East Asia Congress of Medical Physics) , Kuala Lumpur, Malaysia, 2018.11.14 (Title : The measurement of transverse relaxation time (T2) using histogram from ROI setting in muscle activity study at 1.5 Tesla MRI)

氏名 樋口 健太 職階 教授

専門分野：保健物理学、環境放射線、放射線公衆安全学

教育活動：

責任科目：医療コミュニケーション学（1年次、1単位、15時間）、放射化学演習（2年次、1単位、30時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（2年次、1単位、45時間）、臨床解剖学演習（3年次、1単位、30時間）

担当科目：医療コミュニケーション学（1年次、1単位、15時間）、放射線物理学実験（2年次、1単位、45時間）、放射化学演習（2年次、1単位、30時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査）（2年次、1単位、45時間）、臨床解剖学演習（3年次、1単位、30時間）、チーム医療（看護学科2年次、1単位、2時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、FD委員会（委員長）、自己点検評価委員会、認証評価検討委員会、IR部会、学生委員会、カリキュラム委員、ハラスメント相談員、懲罰委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、放射線安全取扱部会、診療放射線学教育学会、北海道放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会北海道支部会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本放射線技術学会 北海道支部 放射線計測防護専門委員、「日本医療大学紀要」の査読審査

顕彰：なし

氏名 渡邊 良晴 職階 教授

専門分野：放射線治療技術学

教育活動：

責任科目：放射線治療技術学概論、放射線治療技術学、診療画像技術学実験Ⅱ

担当科目：

非常勤講師：専門学校日本福祉看護・診療放射線学院（放射線治療技術学Ⅲ、診療放射線学特論、放射線安全管理学演習、放射線治療技術学補講）

学内委員会・学科内業務等：人権擁護委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、日本医学物理学会、日本放射線腫瘍学会、日本アイソトープ協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 木村 徹 職階 講師

専門分野：医療画像情報学、医療画像工学

教育活動：

責任科目：医療画像処理学、医療画像工学、医療画像情報学

担当科目：医療画像処理学（2年次、1単位、15時間）、医用工学実験（2年次、1単位、45時間）、
診療画像技術学実験Ⅰ（2年次、1単位、45時間）、補講：国家試験対策（2、3年生対象前期、
第1種放射線取扱主任者試験対策講義）

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院 診療放射線学科（放射線計測学、診療放射線学特論）
学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター運営委員会、入学者選抜委員会、学担（2、
3学年）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本アイソトープ協会、日本放射線技術学会、日本教育工学会、診療放射
線学教育学会、日本放射線技師教育学会、生体医工学会、精密工学会、日本保健科学学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 小山 和也 職階 講師

専門分野：核医学、Positron emission tomography

教育活動：

責任科目：核医学検査技術学概論、核医学検査技術学

担当科目：診療放射線学概論、診療画像技術学実験Ⅱ、診療画像機器学実験

非常勤講師：首都大学東京客員研究員

学内委員会・学科内業務等：図書委員会、研究倫理委員会、学生委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本核医学技術学会、日本放射線技術学会、日本診療放射線学教育学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名 杉本 芳則 職階 講師

専門分野：放射線技術学、胃X線読影技術、予防医学、情報学

教育活動：

責任科目：情報科学（1年次、1単位、15時間）、情報科学演習（1年次、1単位、30時間）、診
療画像技術学概論（2年次、1単位、15時間）、診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（2年次、2単
位、30時間）、画像解剖学Ⅰ（X線画像）（2年次、2単位、30時間）、超音波検査学（2年次、

2単位、30時間)

担当科目：情報科学（15時間）、情報科学演習（30時間）、診療画像技術学概論（15時間）、診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（30時間）、画像解剖学Ⅰ（X線画像）（30時間）、放射線物理学実験（45時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（45時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、学生委員会、キャリア学習支援センター運営委員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、日本CT検診学会、日本消化器がん検診学会（北海道支部放射線研修委員）、日本放射線技師会、日本消化器画像診断情報研究会（常任世話人）、日本医用画像管理学会、札幌ニューテクノロジー研究会（相談役）、日本消化器がん検診精度管理評価機構、大阪消化管撮影技術研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：クラウド型クリッカーの提供・運用（2019年3月10日、日本消化器がん検診学会北海道胃がん検診専門技師技術研修会）

顕彰：なし

氏名 小笠原 凌介 職階 助手

専門分野：放射線管理学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線学教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

10-2. 教員の学術業績

10-2-① 学長・参事

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：

島本和明(2018). 「迷える患者」になる前に読みたい名医からの手紙. 北海道の医療最前線 ドクターが教える！現代人に多い病気の心得帖. 株式会社ぶらんとマガジン社. 8-15.

島本和明 (2018). 生活習慣病. あなたの街のお医者さんガイドホームドクター2019保存版. 6-9.
銭本隆行 (2018). デンマークの高齢者ケアシステムの日本への有効性について. 日本医療大学紀要.
4. 3-12.

原 著 :

Furuhashi M., Yuda S., Muranaka A., Kawamukai M., Matsumoto M., Tanaka M., Moniwa N., Ohnishi H., Saitoh S., Shimamoto K., Miura T. (2018) .Circulating FABP4 oncentration predicts the progression of carotid atherosclerosis in a general population without medication. Circ J 82: 1121-1129.

Furuhashi M., Matsumoto M., Tanaka M., Moniwa N., Murase T., Nakamura T., Ohnishi H., Saitoh S., Shimamoto K., Miura T. (2018) . Plasma xanthine oxidoreductase activity as a novel biomarker of metabolic disorders in a general population. Circ J 82: 1892-1899.

Furuhashi M., Mori K., Tanaka M., Maeda T., Matsumoto M., Murase T., Nakamura T., Moniwa N., Ohnishi H., Saitoh S., Shimamoto K., Miura T. (2018) . Unexpected high plasma xanthine oxidoreductase activity in female subjects with low level of uric acid. Endocr J 65: 1083-1092.

Furuhashi M., Matsumoto M., Murase T., Nakamura T., Higashiura Y., Koyama M., Tanaka M., Moniwa N., Ohnishi H., Saitoh S., Shimamoto K., Miura T. (2018) . Independent links between plasma xanthine oxidoreductase activity and levels of adipokines. J Diabetes Investig 2018 Dec 5. doi: 10.1111/jdi.12982. [Epub ahead of print].

その他 :

銭本隆行 (2019). 地域における高齢者主体の活動についての考察：デンマークの高齢者の活動をとおして. 北海道社会福祉学研究. 39. 42-56.

口演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他) :

特別講演 :

島本和明 : 高齢者高血圧 : 最新のガイドラインと脳梗塞再生医療. 第60回日本老年医学会学術集会
特別講演. 3018年6月16日. 京都.

島本和明 : JSH2014後の高血圧治療—ガイドライン課題—. 第54回日本循環器病予防学会学術集会
特別講演. 2018年6月22日. 札幌.

銭本隆行 : 第14回大分認知症カンファレンス 教育講演講師. 認知症の非薬物療法とは : その効果
と展望. 2018年10月27日. 大分.

シンポジウム : なし

一般口演 :

銭本隆行 : 住民参加型の高齢者ケアシステムに関する考察 : 日本とデンマークの自治体の取り組み

を通して. 第66回日本社会福祉学会秋季大会. 2018年9月9日. 名古屋.

銭本隆行: 高齢者自身による地域共生社会の可能性についての考察: デンマークの高齢者の活動をと
おして. 2018年度北海道地域福祉学会全道研究大会. 2018年11月10日. 札幌.

東浦幸村, 古橋真人, 松本めぐみ, 小山雅之, 田中希尚, 茂庭仁人, 村瀬貴代, 中村敬志, 大西浩
文, 斎藤重幸, 島本和明, 三浦哲嗣: キサンチン酸化還元酵素 (XOR) 活性とアディポカインと
の関連. 第41回 日本高血圧学会総会. 2018年9月17日. 旭川.

示 説: なし

その他: なし

島本和明: 減塩はどうして血圧を下げるか. 乳和食指導者育成研修会. 2018年6月20日. 札幌.

島本和明: 循環器疾患のリスク管理について: 高血圧を中心に. 平成30年度 生活習慣病等生活習
慣病予防のための人材育成プログラム~特定健診・特定保健指導従事者研修. 2018年6月29日.
札幌.

島本和明: 健康長寿と高血圧管理: 減塩の意義を考える. 北海道栄養士会職域福祉栄養士協議会研
修会. 2018年10月12日. 札幌.

島本和明: 高血圧・脳卒中から身を守ろう! 平成30年度士別市健康づくり講演会. 2018年11月8日.
士別.

島本和明: どさんこと高血圧. 道民カレッジ連携講座《ほっかいどう学指定講座》平成30年度「ほっ
かいどう学」かでの講座 第9回. 2018年11月16日. 札幌.

島本和明: 健康長寿と高血圧管理: 減塩の意義を考える. 北海道栄養士会函館支部 けんこう講座.
2018年12月8日. 函館.

10-2-② 看護学科教員

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著 書:

岡田洋子 (2019). 終末期にある子どもと家族への看護. 小児看護学①小児の発達と看護. 中野綾
美 (編). デイカ出版. 234-248.

高橋美和 (2018). 2019年度准看護師国家試験問題集 (分担執筆). 医学書院.

林美枝子 (2018). 医療人類学を学ぶための60冊: 医療を通して「当たり前」を問い直そう (分担
執筆73-75, 102-104). 明石書店.

山田敦士 (編) (2019). 中国雲南の書承文化. 勉誠出版.

総 説:

山田敦士 (2019). 雲南と書承文化. 中国雲南の書承文化. 山田敦士 (編). 4-10.

原 著：

小島悦子, 藤長すが子, 草薙美穂 (2018). 清拭方法の違いによる皮膚表面pH. 汚れの除去, 主観への影響. 日本看護技術学会誌. 17. 43-50.

齋藤道子 (2018). 多剤耐性菌が原因で個室隔離されている患者の心理状態に対する看護師の認識と看護の実態. 北海道医療大学看護福祉学部会誌. 14 (1). 11-21.

城丸瑞恵, 春名純平, 牧野夏子, 内田裕美, 皆川ゆり子, 神田直樹, 田口裕紀子, 津田久仁江, 門間正子 (2019). 北海道の地方都市の救急看護師が抱える困難の現状. 札幌保健科学雑誌. 8. 6-12.

永田志津子, 林美枝子 (2019). 協議体構成員の特性からみた生活支援体制整備事業の現状と課題. 札幌大谷大学紀要. 30. 43-54.

永田志津子, 林美枝子 (2019). 住民意識から見る総合事業における高齢者支援の課題: 北海道における女性団体の調査から. 札幌大谷大学社会学部論集. 7. 143-162.

林美枝子, 永田志津子 (2018). 在宅看取り看護者への視点: 医療・介護関係者からの評価を中心に. 地域ケアリング. 20 (14). 94-99.

林美枝子, 永田志津子 (2019). 介護予防・日常生活支援総合事業実施上記用と課題の分析. 日本医療大学紀要. 4. 57-70.

松本真由美 (2018). 地方精神保健福祉審議会への精神障害当事者委員の参画に関する検討: 当事者委員の参画がある群とない群の比較から. 精神障害とリハビリテーション. 22 (1). 53-60.

森口眞衣 (2018). 日本における「東洋医学」の概念枠について. 日本医療大学紀要. 4. 45-57.

森口眞衣 (2018). 日本における「伝統医学」概念の齟齬をめぐる一考察. 人間と医療. 8. 3-13.

山田敦士 (2019). 滄源ワ族自治県における書承文化: 無文字社会における文字表記とテキストのゆくえ. 中国雲南の書承文化. 山田敦士 (編). 86-100.

その他：

阿部幸弘, 吉野淳一, 渡辺俊之, 後藤雅博 (2018). 理事・代議員に聞きたい! 「あなたのターニングポイントを教えてください」. 家族療法研究. 35 (3). 45-52.

大村郁子, 藤長すが子, 岡田尚美, 後藤理香 (2019). 看護学生の抱える実習における困難・不安・ストレスに関する研究動向. 第49回 (平成30年度) 日本看護学会論文集 看護教育. 39-42.

草薙美穂 (2018). 育児支援外来における看護職者の役割と課題. 乳幼児医学・心理学研究. 27 (2). 107-112.

齋藤道子 (2018). 個室隔離されている多剤耐性菌患者への心理状態を重視した看護師教育プログラムの開発. 北海道医療大学学術リポジトリ.

東端憲仁, 吉野淳一 (2018). シンポジウムまとめ. 集団精神療法. 34 (2). 172-173.

林美枝子 (2019) 書評 吉田優貴著『いつも躍っている子供たち: 聾・身体・ケニア』. 文化人類学. 83 (4). 675-678.

林美枝子 (2019). 介護人類学. 介護新聞 (4月から10月までの22回分).

松本真由美 (2018). 精神に障害のある人々のパブリックコメントの活用の可能性：自殺対策行動計画へのパブリックコメントの作成を通して. 日本医療大学紀要. 4. 73-82.

松本真由美, 森口眞衣, 山田敦士 (2018). 入学前教育としての図書推薦文課題の妥当性の検討：課題に取り組んだ学生たちの評価から. 日本医療大学紀要. 4. 59-72.

森口眞衣 (2018). 「伝統医学」の受容基盤をめぐって. 北大宗教学年報. 創刊号. 26-35.

吉田香, 美濃陽介 (2018). 看護大学生の携帯電話の利用に関する実態調査：学習への影響に注目して. 青森中央短期大学研究紀要. 32. 20-33.

吉田香, 美濃陽介 (2018). 看護大学委年生の看護のイメージと個人要因との関連に関する実態調査. 青美里中央短期大学研究紀要. 32. 45-60.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

なし

シンポジウム：

岡田洋子：特別講義 今後の看護教育活動の実践に向けて. 平成30年度北海道専任教員養成講習会. 2019年2月12日. 札幌.

斉藤リカ, 福島眞里：我が国における食育の現状と課題に関する文献検討. 日本助産学会学術大会. 2019年3月2日. 福岡.

一般口演：

Ueda, I., Okada, N., Okazaki, M., Hirano, M., Saeki, K., Kawaharada, M.: The father competencies and support required during the prenatal period. 5th World Congress on Nursing and Healthcare. 2018.11.12, Toronto.

上田泉, 岡田尚美, 岡崎まどか, 平野美千代, 河原田まり子, 佐伯和子：日本の文献検討による育児期に求められる父親の役割. 日本子ども虐待防止学会第24回学術集会. 2018年12月1日. 倉敷.
笠谷亜沙子, 河瀬亨哉, 井下田恵, 大山隼人, 牧野夏子, 内田裕美, 神田直樹, 門間正子, 城丸瑞恵. 「道南ドクターヘリフライトナースに対する教育支援」アンケート調査：困難に関する属性別の比較検討. 第20回日本救急看護学会学術集会. 2018年10月19日. 和歌山.

加藤志帆, 沖津雪江, 寺井純, 山下珠美, 門間正子：A整形外科病院外来受診患者の不満に関する実態調査. 第49回日本看護学会学術集会（看護管理）. 2018年8月10日. 仙台.

斉藤麻美, 佐藤梢, 加賀香, 仙道美佐子, 門間正子. 確認不足による内服インシデントを起こした看護師の確認不足を起こした要因. 第49回日本看護学会学術集会（急性期看護）. 2018年9月8日. 別府.

高儀郁美, 津野柚衣, 宮崎智仁, 斉藤雅也, 細海加代子, 檜山明子, 大平雅夫, 石田勝也, 樋之津淳子, 中村恵子：療養環境における入院患者の快・不快感に関する研究 その2. 病床照度と患者の明るさ感、快・不快感. 第91回日本建築学会北海道支部研究発表会. 2018年6月23日. 旭川.

高儀郁美, 齊藤雅也, 細海加代子, 檜山明子, 樋之津淳子, 中村恵子: 冬期における整形外科疾患患者の病床照度と明るさ感の関係. 第38回日本看護科学学会学術集会. 2018年12月1日. 松山.

津野柚衣, 高儀郁美, 宮崎智仁, 齊藤雅也, 細海加代子, 檜山明子, 大平雅夫, 石田勝也, 樋之津淳子, 中村恵子: 療養環境における入院患者の快・不快感に関する研究 その1. 病床の熱環境と患者の快・不快感. 第91回日本建築学会北海道支部研究発表会. 2018年6月23日. 旭川.

林美枝子: 「看取りねっと」の試みと課題. 2018年度国立民族学博物館共同研究発表会. 2018年7月21日. 吹田.

原田由香, 吉野淳一, 澤田いずみ: うつ病患者の配偶者が語るうつ病が家族にもたらす影響と対処. 日本精神保健看護学会第28回学術集会. 2018年6月23日. 東京

原田由香, 吉野淳一: うつ病が患者の家族にもたらす影響とその対処について—うつ病患者のきょうだいの語りから. 一般社団法人日本家族療法学会第35回ぐんま大会. 2018年8月10日. 高崎.

原田由香, 吉野淳一, 澤田いずみ: うつ病に対する家族システムとしての対処の方向性に着目した類型化の試み—対処のモデル構築に向けて. 第38回日本看護科学学会学術集会. 2018年12月15日. 松山.

原山早織, 佐藤麻美, 桃井典子, 渡邊千里, 中田春美, 門間正子. A整形外科病院における手術後患者への口腔ケアに関する看護師の意識調査. 第49回日本看護学会学術集会(急性期看護). 2018年9月7日. 別府.

松本真由美: ソーシャルアクションとしての政策決定過程への当事者委員の参画—地方精神保健福祉審議会を担当する行政職員への聞き取り調査から. 日本地域福祉学会第32回静岡大会. 2018年6月10日. 焼津.

松本真由美: 地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画—当事者委員への聞き取り調査から. 北海道地域福祉学会全道研究大会. 2018年11月10日. 札幌.

森口真衣: 森田療法の位置づけについて: 近代日本における新仏教運動との関係から. 第36回日本森田療法学会学術大会. 2018年9月1日. 東京.

森口真衣: 「医学」に関する概念の価値づけ. 日本医学哲学・倫理学会第37回学術大会. 2018年10月20日. 札幌.

森口真衣: 森田療法の仏教的背景: 近代日本の宗教動態との関係から. 日本精神医学史学会第22回学術大会. 2018年11月11日. 福岡.

示 説:

Okada, N., Ueda, I., Okazaki, M., Hirano, M., Saeki, K., Kawaharada, M.: Competency required of father during the pregnancy of their wives to avoid child abuse –perceptions of experienced public health nurses. 5th World Congress on Nursing and Healthcare. 2018.11.13, Toronto.

Ohmura, I., Fujinaga, S., Okada, N., Gotoh, R.: A review of quantitative studies on stress, anxiety, and difficulties nursing students face in nursing training in japan. 5th World Congress on Nursing and Healthcare. 2018.11.13, Toronto.

Okada, N.: Collaboration index for midwives of delivering medical institutions and public health nurses of health authorities concerning families who need support.,22th EAFONS, 2019.1.18, Singapore.

大村郁子, 藤長すが子, 岡田尚美, 後藤理香: 看護学生の抱える実習における困難・不安・ストレスに関する研究動向. 第49回平成30年度日本看護学会学術集会 看護教育. 2018年8月16日. 広島.
合田恵理香, 門間正子, 佐々木由紀子: 身体拘束中の心理的ストレスに対する音楽聴取の効果. 第18回日本音楽療法学会. 2018年9月15日. 高松.

Goda E., Momma M., Sasaki Y., Shigeno K.: Emotional Changes during Music Listening under Physical Restraint, 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, 2019.1.17, Singapore.

後藤理香, 河原田まり子: 公務職場労働者の精神的健康と職場内交流の機会との関連. 第70回北海道公衆衛生学会. 2018年10月20日. 札幌.

後藤理香, 河原田まり子: 公務職場の労働者が元気・やる気ができると認識している職場環境の特徴—職場の人間関係に焦点をあてて. 第38回日本看護科学学会学術集会. 2018年12月15日. 松山.

斉藤リカ, 福島真里: 我が国における食育の現状と課題に関する文献検討. 日本助産学会学術大会. 2019年3月2日. 福岡.

佐々木由紀子, 合田恵理香. サービス付き高齢者向け住宅に勤務する介護責任者およびケアマネジャーの終末・看取りに向けた準備性. 第49回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会. 2018年9月20日. 岡山.

竹之内優美, 田村卓哉: 看護学生への適用を想定したレジリエンス尺度の開発. 北海道心理学会第65回大会. 2018年10月20日. 札幌.

永田志津子, 林美枝子: 北海道全道自治体保険者への新総合事業の実施状況調査と問題点の分析. 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月25日. 郡山.

永田志津子, 林美枝子: 総合事業における生活支援の担い手多育成の課題—社会参加者の調査結果を中心に. 2018年9月2日. 和泉.

林美枝子, 永田志津子: 在宅看取りの初期段階における困難性研究、医療・介護専門家と家族介護者間の齟齬. 第77回日本公衆衛生学会総会. 2018年10月24日. 郡山.

山本澄子, 高儀郁美: 看護短期大学学生の自尊感情. 第38回日本看護科学学会学術集会. 2018年12月1日. 松山.

その他:

内山孝子, 長谷川美栄子, 浅井さおり, 小野光美, 大串祐美子, 友竹千恵, 三浦直子: ワークショップ「臨床で身体拘束をしない組織づくり」. 日本看護倫理学会第11回年次大会. 2018年5月26日. 東京.

北村愛子, 長谷川美栄子, 浅井さおり, 内山孝子, 大串祐美子, 小野光美, 友竹千恵, 三浦直子: 第2回看護管理者応援研修「臨床で身体拘束をしないための看護管理者の役割」. 2019年1月27日. 盛岡.

Gotoh, R., Fujinaga, S., Okada, N., Ohmura, I.: Research on “Nursing students and training practices” in Japan. 5th World Congress on Nursing and Healthcare, 75, 2018.

城丸瑞恵, 門間正子, 神田直樹, 牧野夏子, 春名純平, 内田裕美, 田口裕紀子, 源本尚美, 田口大, 作田麻由美, 太田文子, 早坂庸靖, 宇佐見洋: プレホスピタルから員ホスピタルへの効果的な継続医療に向けて. 第42回北海道救急医学会学種々集会-看護交流集会. 2018年11月10日. 旭川.

10-2-③ リハビリテーション学科教員

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著 書:

及川直樹 (2018). 上肢運動器疾患の画像リハビリテーション. 評価・戦略・アプローチのすべて. 白戸力弥 (編). ヒューマンプレス. 77-83, 97-102, 137-142.

大堀具視 (2018). 「動き出しは本人から」の介護実践: 利用者の思いに気づく、力を活かす. 中央法規出版.

総 説: なし

原 著:

浮田徳樹, 裊屋美佳, 阿部正之, 岸上博俊, 八田達夫 (2018). フットサポート長調整が車いす座面圧力分布に与える影響. 北海道作業療法. 35 (2). 110-116.

大堀具視, 清本憲太, 及川直樹 (2018). 実習訪問で教員は何をすべきか?. リハビリテーション教育研究. 25. 302-307.

Kihara K., Yamaguchi R., Makino K., Shimizu K., Ito K., Furuna T. (2019). Relationship between the occurrence of falls by season and physical functions of community-dwelling old-old people living in cold, snowy areas. Geriatr. Gerontol. Int. 19 (2), 124-129.

Kiyota N., Fujiwara K., Kunita K., Yaguchi C., Watanabe N. (2019). Investigation of pro-saccade and finger flexion reaction times in basketball and racket sports players. Health Behavior Sci. 17 (2), 41-45.

清本憲太, 石田和宏, 及川直樹, 大窪悠真, 大堀具視 (2018). 肩関節疾患における痛みのリハビリテーション. 北海道作業療法. 35 (3). 143-151.

工藤裕美, 大堀具視, 中西恵 (2018). 急性期より対象者の本来の能力を引き出す. 作業療法ジャーナル 52 (11). 1195-1198.

Shimizu K., Ihira H., Makino K., Kihara Y., Itou K., Furuna T. (2018). The effect of gait speed and gait phase to the allocation of attention during dual task gait Journal of physical therapy science. 30 (3): 419-423.

高橋純平, 西山徹 (2018). 脳卒中片麻痺者の上肢を用いた立ち上がり方法の違いによる運動学的

- 分析. 東北理学療法. 30. 34-38.
- 宝田光、三浦正樹、大堀具視 (2018). 精神科作業療法集団プログラムにおけるMTDLPの活用. 北海道作業療法. 35 (3). 174-178.
- 西山徹、向井康詞、高橋純平他 (2018). 後ろ向き階段降段動作時における下肢の運動学的分析. 北海道理学療法. 35. 25-28.
- 林美枝子、傳野隆一、対馬輝美、高橋光彦、銭本隆行、田村素子、小林孝広、荒木めぐみ、浅井さおり、八田達夫、東海林哲郎 (2018). 認知症患者の家族介護者における仕事と介護の両立について：小規模多機能居宅介護サービスの利用者を対象とした分析. 日本医療大学紀要. 4. 13-23.
- Makino K., Ihira H., Mizumoto A., Shimizu K., Ishida T., Yamaguchi R., Kihara Y., Ito K., Sasaki T., Furuna T. (2018). Structural analysis of impact of physical, cognitive and social status on the incidence of disability in community-dwelling people aged ≥ 75 years. Geriatr Gerontol Int. 18 (12), 1614-1619.

その他：

- 石橋晃仁、伊藤良祐、渡邊佳織、奥寺雄毅、坂口友康、木原由里子 (2019). 脳卒中片麻痺患者の Multi-Target Stepping Test 施行における重症度による差異. 日本医療大学紀要. 5. 83-86.
- 木原由里子 (2019) 地域在住後期高齢者のフレイルと身体的、心理・認知的、社会的因子の相互関係：構造方程式モデリングによる検討. 博士号学位論文. 札幌医科大学保健医療学研究科.
- 八田達夫、新岡美樹、今井憲章 (2018). 高齢障害者の車いす上の姿勢異常に対するアクティブバランスシーティング (ABS) による改善. 日本医療大学紀要. 4. 93-104.
- 米田龍大、児玉壮志、伊藤俊弘、高橋恭子、高橋光彦、安藤陽子、小川克子、佐々木浩子、木口幸子、志渡晃一 (2019). 高等教育機関に所属する学生の抑うつ症状と生活習慣との関連：性別検討. 北海道公衆衛生雑誌. 32 (2). 121-126.

口演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他)：

特別講演：

- 坪田貞子：北海道作業療法士会 50周年記念講演「北海道作業療法の50年と今後の展望」札幌 2018年1月11日.

シンポジウム：

- 岸上博俊：障害学とリハビリテーションとの対話－予防、ヘルスプロモーションを通して. 第15回障害学会. 2018年10月. 浜松.
- 坪田貞子：全国リハビリテーション学校協会全国学会 シンポジスト「臨床教育CCS導入に向けて」. 2018年8月25日. 恵庭.

一般口演：

明本聡, 新納拓也, 及川直樹, 市川智士, 岡村健司：浅指屈筋の筋力が低下した高校野球選手は握り動作時に手関節背屈角度が大きくなる. 第69回北海道理学療法士学会学術大会. 2018年7月. 札幌.

伊藤一成, 木原由里子, 志水宏太郎, 田井啓太, 小野香織, 古名丈人：地域在住高齢者における歩行時の身体的・精神的安楽性に関する調査. 第5回日本予防理学療法学会学術大会. 2018年10月20-21日. 福岡.

Ito K., Kihara Y., Shimizu K., Tai K., Inada T., Furuna T.: Effect of visual feedback with a mirror during standing in stroke patients. Asian Confederation for Physical Therapy congress. 2018.11, Cebu, Philippines.

井部光滋, 射場浩介, 花香恵, 清本憲太, 早川光, 山下敏彦：骨代謝異常が寒冷過敏に及ぼす影響—尾部吊り下げマウスを用いた検討. 第136回北海道整形・災害外科学会学術集会. 札幌.

井部光滋, 射場浩介, 花香恵, 道家孝幸, 清本憲太, 山下敏彦：骨代謝異常が寒冷過敏に及ぼす影響—尾部吊り下げマウスを用いた検討. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会. 2018年10月. 奈良.

小川尚平, 清本憲太, 小椋伸一, 大堀具視, 坪田貞子：地域在住高齢者の疼痛と生活障害に及ぼす心理社会要因の影響. 第52回日本作業療法学会. 2018年9月. 名古屋.

金子翔拓, 清本憲太, 玉珍, 坪田貞子：若年健常成人の手指機能と生活の満足度 第50回日本作業療法学会. 2018年9月. 東京.

Kihara Y., Shimizu K., Ito K., Tai K., Furuna T.: Predictive validity of physical activity level by simple two questions. Asian Confederation for Physical Therapy congress. 2018.11, Cebu, Philippines.

木原由里子, 志水宏太郎, 伊藤一成, 田井啓太, 古名丈人：地域在住高齢者のフレイルと関連する社会的因子の検討. 第5回日本予防理学療法学会学術大会. 2018年10月20-21日. 福岡.

清田直恵, 藤原勝夫, 国田賢治, 矢口智恵, 外山寛, 渡辺直勇：バスケットボール選手およびラケットスポーツ選手における手指屈曲反応時間とプロサケット反応時間. 日本健康行動科学会第17回学術大会. 2018年9月16日. 金沢.

Kiyota T., Fujiwara K., Kunita K., Anan K., Yaguchi C.: Developmental changes in postural movement patterns during bilateral arm flexion in children. Society for Neuroscience 48th Annual Meeting. 2018.11.6, San Diego, U.S.A.

清本憲太, 玉珍, 金子翔拓, 坪田貞子：地域在住高齢者における手の機能と認知機能 第50回日本作業療法学会. 2018年9月. 東京.

清本憲太, 射場浩介, 花香恵, 道家孝幸, 井部光滋, 山下敏彦：骨粗鬆症の病態が変形性関節症の疼痛発症に及ぼす影響—膝OAモデルマウスを用いた検討. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会. 2018年10月. 奈良.

清本憲太, 射場浩介, 花香恵, 道家孝幸, 山下敏彦：骨粗鬆症の病態が変形性関節症の疼痛発症に及ぼす影響—膝OAモデルマウスを用いた検討. 第36回日本骨代謝学会学術集会. 2018年7月. 長崎.

清本憲太, 射場浩介, 花香恵, 井部光滋, 早川光, 山下敏彦: 骨粗鬆症の病態が変形性関節症の疼痛発症に及ぼす影響—膝OAモデルマウスを用いた骨粗鬆症治療薬の作用の検討. 第136回北海道整形・災害外科学会学術集会. 札幌.

清本憲太, 小川尚平, 小椋伸一, 大堀具祝, 坪田貞子: 痛みの破局的思考は, 痛みを強め生活を障害するか? -地域在住高齢者による検討. 第49回北海道作業療法学会. 2018年6月. 函館.

近藤佑亮, 志水宏太郎, 木原由里子, 伊藤一成, 田井啓太, 樋口貴広, 古名丈人: 物体の配置が歩行中の障害物回避行動に及ぼす影響. 第23回日本基礎理学療法学会学術大会. 2018年12月15日. 京都.

国田賢治, 藤原勝夫, 清田岳臣, 阿南浩司, 矢口智恵: 第一背側骨間筋の運動誘発電位の頸部前屈保持による変化の運動経験による差異. 日本健康行動科学会第17回学術大会. 2018年9月16日. 金沢.

榊善成, 谷口圭吾, 佐藤史子, 及川直樹, 仙葉翔登, 冨田悠平, 越前谷溪, 宮塚智也, 阿部真行, 倉秀治, 片寄正樹, 岡村健司: 肩甲骨面外転保持運動に伴う棘上筋の弾性変化に及ぼす腱板断裂の影響. 第30回日本整形外科超音波学会. 2018年7月. 山形.

佐藤史子, 及川直樹, 榊善成, 阿部真行, 吉水隆貴, 木村明彦, 岡村健司: リバース型人工関節全置換術後6ヵ月・12ヵ月の術後成績. 第15回肩の運動機能研究会. 2018年10月. 大阪.

鹿内大輝, 及川直樹, 佐藤史子, 榊善成, 市川智士, 岡村健司: マニピュレーションの有無による鏡視下腱板修復術後の臨床成績. 第15回肩の運動機能研究会. 2018年10月. 大阪.

渋谷泰平, 清本憲太, 大窪悠真, 宮城島一史, 石田和宏: 頸椎椎弓形成術後に知覚再学習を行い上肢機能とADLの改善を認めた一症例. 第49回北海道作業療法学会. 2018年6月. 函館.

志水宏太郎, 木原由里子, 伊藤一成, 田井啓太, 樋口貴弘, 古名丈人: 他者接近時のPersonal spaceは実際の回避行動を反映するか? 若年者と高齢者間における比較研究. 第23回日本基礎理学療法学会学術大会. 2018年12月15日. 京都.

末永貴大, 大窪悠真, 清本憲太, 宮城島一史, 石田和宏: 頸椎椎弓形成術後に両側C5麻痺を呈した症例における作業療法. 第49回北海道作業療法学会. 2018年6月. 函館.

鈴森雄貴, 榊善成, 佐藤史子, 及川直樹, 阿部真行, 岡村健司: テフロンフェルトパッチを用いた上方関節包再建術の臨床成績. 第15回肩の運動機能研究会. 2018年10月. 大阪.

田井啓太, 木原由里子, 志水宏太郎, 伊藤一成, 千葉一男, 平田雅文, 佐藤忠直, 古名丈人: 高齢血液透析患者の原疾患の違いが身体機能に及ぼす影響. 第5回日本糖尿病理学療法学会学術大会. 2018年7月16日. 横浜.

高橋光彦, 乾公美, 石橋晃仁, 佐々木浩子, 藤木直人: スモン患者のリハビリテーション10年間について. 第88回日本衛生学会. 2018年3月22~24日. 東京.

高橋光彦, 乾公美, 石橋晃仁, 佐々木浩子, 藤木直人: スモンのリハビリテーション評価と支援. 第89回日本衛生学会学術総会. 2019年2月1日~3日. 名古屋.

高橋光彦, 乾公美, 石橋晃仁, 土井静樹: スモン患者の在宅から施設移動に伴う行動変容について. 難治性疾患等制作研究事業 スモンに関する調査研究班研究報告会. 2019年2月1日. 東京.

高橋光彦：認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究。第26回ニッセイ財団高齢社会ワークショップ。2018年11月30日。大阪。

中村圭佑，大堀具視。「頭が壊れていく・・・」そう吐露された高次脳機能障害患者様の思いとは？第49回北海道作業療法学会。2018年6月9日。函館。

はざま康成，清本憲太，家入章，石田和宏，玉井幹人：鏡視下腱板縫合術後の三角巾固定中における獲得可能な日常生活動作の検討。第49回北海道作業療法学会。2018年6月。函館。

藤本佑也，清本憲太，斎藤明德，大堀具視：活動・参加に焦点を当てた関わりは，脳梗塞後の慢性疼痛を軽減させる。第49回北海道作業療法学会。2018年6月。函館。

舟田奈保，中村実弓，向井康詞，新開谷深：関節背屈ストレッチング効果の検討 一年代別による比較。第6回日本運動器理学療法学会（第53回日本理学療法学会）。2018年12月16日。福岡。

Fujiwara K., Yaguchi C., Kiyota N., Maekawa M., Irei M.: Timings of attentional switching to perturbation and postural preparation during transient forward or backward floor translation. Society for Neuroscience 48th Annual Meeting. 2018.11.6, San Diego, U.S.A.

古名丈人，田井啓太，志水宏太郎，木原由里子，伊藤一成，千葉一男，佐藤忠直：高齢血液透析患者の転倒と身体機能の関連。第60回日本老年医学会学術集会。2018年5月。京都。

矢口智恵，藤原勝夫：圧中心位置の前方移動範囲を制限した場合の一過性後方床移動時の随伴陰性変動の変化。日本健康行動科学会第17回学術大会。2018年9月16日。金沢。

示 説：

なし

その他：

小名忍，岸上博俊：自宅でのできないことを改善することで外出が可能となった一事例。第52回日本作業療法学会。2018年10月6日。

10-2-④ 診療放射線学科教員

論文（著書，総説，原著，その他）：

著 書：

西山篤（2018）。平成30年版診療放射線技師国家試験問題集。共立出版。

渡邊良晴（2018）。第1章 放射線治療概要。放射線治療技術標準テキスト。奥村雅彦ほか（編）。医学書院。25-32。

総 説：

なし

原 著：

河原田泰尋 (2018). 蛍光ガラス線量計の低エネルギー領域における感度調整の試み. 日本医療大学紀要. 4. 37-44.

木村徹, 川上敬, 西山篤, 菊池明泰 (2018). 診療放射線学科で学ぶ学生を対象としたバイナリエディタとPythonを取り入れた新たな実習. 診療放射線学教育学. 6 (1). 25-32.

住吉孝 (2019). ヒドロキシシクロヘキサジエニルラジカルの光化学：3. 安息香酸類. 日本医療大学紀要. 5. 29-40.

俵紀行 (2018). 本学会と交流のある海外学会の定期研究集会派遣報告 (10th Thai Medical Physicist Society). 日放技学誌. 74 (5). 517.

Higuchi K. (2019). Variation analysis of outdoor radon-222 concentration in the Vicinity of Sakurajima. Bulletin of Japan Health Care College, 5. 41-48.

その他：

木村徹：機械学習を用いた胸部CT画像からの肺気腫拡大予測に関する研究, 北海道科学大学博士(工学). 2019年3月18日.

俵紀行：北海道医療新聞. 2018 (平成30) 年5月18日付.

俵紀行：北海道医療新聞. 2018 (平成30) 年6月29日付.

口演 (特別講演, シンポジウム, 一般口演, 示説, その他)：

特別講演：

Tawara, N.: "Image Quality to understanding MRI". 11th Annual Scientific Meeting of Thai Medical Physicist Society (TMPS), Pattaya, Thailand, 2019.1.26.

西山篤：第12回日本診療放射線学教育学会大会長講演. 2018年8月4日. 東京.

西山篤：生涯学習講座 講演題名「レントゲン何枚撮っても大丈夫？」2019年3月9日. 札幌.

シンポジウム：

高橋伸之, 工藤真弓, 杉本芳則：当施設胃部検診におけるカテゴリー分類を用いた精度管理について. 第57回日本消化器がん検診学会総会. 2018年6月9日. 新潟.

一般口演：

Kanyakham, K., Tawara, N., Krisanachinda, A. The measurement of transverse relaxation time (T2) using histogram from ROI setting in muscle activity study at 1.5 Tesla MRI. AOCMP & SEACOMP 2018 (18th Asia-Oceania Congress of Medical Physics & 16th South-East Asia Congress of Medical Physics), Kuala Lumpur, Malaysia, 293 (AOCMP2018-260), 2018.11.12.

Kanyakham, K., Tawara, N., Krisanachinda, A. The measurement of transverse relaxation time (T2) using histogram from ROI setting in muscle activity study at 1.5 Tesla MRI. 11th

Annual Scientific Meeting of Thai Medical Physicist Society (TMPS) , Pattaya, Thailand, 116-119, 2019.1.25.

木村徹, 小笠原凌介, 小山和也, 白石祐太, 西山篤 : 全国業者模擬試験点数の学生指導活用に関する検討. 第12回 日本診療放射線学教育学会 . 2018年 8月 4日. 東京

小山和也, 木村徹, 小笠原凌介, 白石祐太, 西山篤 : 高校在籍時の物理履修状況が大学での学修に及ぼす影響に関する検討. 第12回日本診療放射線学教育学会. 2018年 8月 4日. 東京.

鈴木宥翔, 小山和也他 : FDG-PET 検査における放射能濃度分布の描出精度に関する検討. 第38回日本核医学技術学会総会学術大会. 2018年11月. 沖縄.

俵紀行, 小笠原凌介, 白石祐太, 西山篤, Craig Eccles : Earth's Field MRI (EFMRI) を活用した診療画像機器学におけるMRIの実験環境構築の試み. 第12回日本診療放射線学教育学会. 2018年 8月 4日. 東京.

Tawara, N., Nishiyama, A.: Accuracy Evaluation of Simplified Method Using Slope of MR Signal in Inversion Recovery Spin Echo Sequence for Spin-Lattice Relaxation Time (T1) Measurement. 11th Annual Scientific Meeting of Thai Medical Physicist Society (TMPS) , Pattaya, Thailand, 2019.1.25.

Tawara N., Ponkanist K., Nishiyama A., Krisanachinda A.: Optimum setting of echo times for accurate transverse relaxation time (T2) measurement. TMPS2018, Bangkok, Thailand.

長畑志賢, 小山和也他 : 画像再構成モデルによる放射能濃度描出能の変化に関する検討. 第38回日本核医学技術学会総会学術大会. 2018年11月. 沖縄.

樋口健太 : 桜島近郊のラドン濃度. 第74回北海道支部春季大会. 2018年 4月22日. 札幌.

樋口健太, 細田正洋, 床次眞司, 辻眞弓, 秋葉澄伯 : 桜島の火山活動とラドンおよび子孫核種濃度の解析. 平成30年度放射性物質環境動態・環境および生物への影響に関する学際共同研究 (キックオフシンポジウム). 2018年 6月18日. 筑波.

前原光兵, 東園翼, 有田聖陽, 大浦竜治, 樋口健太 : カリウム40の比放射能測定. 第13回九州放射線医療技術学術大会. 2018年11月11日. 那覇.

国際学会 :

Higuchi K., Hosoda M., Tokonami S., Tsuji M., Akiba S.: Associations between Ambient Radon Concentrations and Mt. Sakurajima' Eruptions. ICHLERA2018, Aomori, Japan. 2018.9.24-27.

示 説 :

樋口健太, 細田正洋, 床次眞司, 辻眞弓, 秋葉澄伯 : 桜島の火山活動とラドンおよび子孫核種濃度の解析. 2018年度放射性物質環境動態・環境および生物への影響に関する学際共同研究 (最終報告会). 2018年 2月14日. 弘前.

その他 : なし

編集後記

『日本医療大学年報』第4号をお届けします。資料をお寄せいただいた教員、各種委員会、事務局の皆様には感謝申し上げます。

平成30年度は、日本高等教育評価機構の認証評価の受審年度を控え、各委員会・各学科において、開学以来からの歩みを見詰め直す機運が高まった一年となりました。誰もがPDCAサイクルによる内部質保証の重要性を痛感したことと思います。

こうした全学的な自己点検評価活動は、まさに平成30年度の本学を象徴する出来事であったといえます。そこで、自己点検評価委員会として、この認証評価に伴うPDCAの軌跡を年報のかたちで留めることとしました。7年に一度の節目の活動記録として、本号が活用されることを願います。

(文責：山田敦士)

自己点検評価委員会

委員長：乾 公 美
委員：太 田 誠
委員：佐 藤 秀 紀
委員：佐々木 由希子
委員：白 石 祐 太
委員：檜 崎 基 範
委員：西 山 篤
委員：樋 口 健 太
委員：門 間 正 子
委員：山 田 敦 士

編集事務担当

学生・教員サポートグループ：千葉なな子

日本医療大学年報 第4号
2018年

発行者 日本医療大学
〒004-0839 札幌市清田区真栄434-1
Tel (011) 885-7711

印刷所 (社福) 北海道リハビリ
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
Tel (011) 375-2116

